不完全菌類

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

不完全菌類 (Class Fungi Imperfecti.)

擬球殼菌族 (Order Sphaeropsidales.)

擬球殼菌科 (Fam. Sphaerioideaceae.)

白單胞擬球殼菌亞科 (Subfam. Hyalosporae.)

葉菌屬 (Genus Phyllosticta.)

一九三　黃麻斑點病菌 (第十二圖版、二二一―二二三)

Phyllosticta Corchori Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十、(臺灣博物學會々報、第二十六號) 一九一六

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ圓狀乃至多形ニシテ黃褐色周圍褐色ノ一線ニヨリテ境シ直徑一―二セ、メ、アリ其上面ニ極微細ナル黑點ヲ疎ニ生ス病斑ハ普通一葉上ニ數箇ヲ生シ被害大ナルコトナシ

病原菌 菌絲ハ病斑ノ寄主組織內ヲ迷走シ灰色ニシテ隔膜ヲ有シ分枝シ直徑三―四ミュ―アリ

子殼ハ葉ノ上面ニ生シ散生シ表皮下ニ形成セラレ黑色ニシテ球狀乃至扁球狀二三層ノ細胞ニテ構成セラレ高サ六五―九〇ミュ―横徑八〇―一二五ミュ―アリ一孔口ニヨリテ外面ニ開ク

擔子梗ハ無色單條ニシテ直、大サ六―一〇×三ミュ―アリ、柄子ハ倒卵狀橢圓狀、橢圓狀又ハ倒卵狀ヲナシ無色平滑、單胞ニシテ密ニ顆粒ヲ含ミ大サ八―一一×五―六ミュ―アリ

寄主植物

黃麻（Corchorus capsularis L.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十二年八月五日　藤黑與三郎

分布　臺灣

記事

黃麻上ニハ未タ本屬ノ菌類ノ寄生セル記事ナシ

病名

和名　黃麻斑點病

一九四　かきばかんこのき褐斑病菌（第十二圖版、二四—二六）

Phyllosticta Glochidionis Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十六、（臺灣博物學會々報、第三十五號、三頁）一九一八

病徵　葉ヲ侵シ病斑ハ茶褐色ニシテ初メ圓狀、卵狀、楕圓狀等ナレトモ後形不定トナリ接近シテ生シタルハ互ニ融合ス乾燥シ直徑一•五—一〇ミメ、アリ遂ニハ灰色トナリ更ニ病斑部脫落シテ葉ニ多クノ穴ヲ穿ツニ至ル一葉上ニ數十ノ病斑ヲ生スルコト稀ナリトセス、病斑ノ上面ニ黑色ノ細點ヲ稍々疎ニ生シ時ニ裏面ニモ生スルコトアリ此黑點ハ子殼ナリ

病原菌　子殼ハ重ニ葉ノ上面ニ生シ又時ニ裏面ニモ生スルコトアリ表皮下ニ生シ球狀乃至扁球狀ニシテ孔口ニ向

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ッテ少シク突起シ孔口ニ近ク黒褐色ニシテ基部ニ向ッテ淡色卽チ黄褐色ヲナシ高サ一〇〇―一一二ミュー直徑九二―一二八ミューアリ孔口ハ圓形ニシテ直徑一〇―一五ミューアリ、子殼ノ內壁ニ生スル擔子梗ハ無色膠質ニシテ短ク大サ五―八・五×二・五―三ミューアリ柄子ハ無色、楕圓狀、卵狀、卵狀楕圓狀、平滑ニシテ內ニ顆粒體ヲ稍ミ密ニ含ミ單胞ニシテ大サ八―一二×五―六ミューアリ

寄主植物

かきばかんこのき (Glochidion hongkongense Muell. Arg.) 及

ひらみかんこのき (Glochidion Fortunei Hence.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	(かきばかんこのき)	明治四十二年六月十八日	藤黒與三郎
同 同	(かきばかんこのき)	明治四十二年十一月二十七日	藤黒與三郎
同 同	(かきばかんこのき)	明治四十三年六月十一日	澤田兼吉
同 同	(かきばかんこのき)	大正五年八月二十二日	藤黒與三郎
同 內湖庄	(かきばかんこのき)	明治四十一年九月二十九日	藤黒與三郎
同 深坑	(かきがかんこのき)	大正三年二月一日	藤黒與三郎
同 屈尺	(かきばかんこのき)	大正三年四月十一日	藤黒與三郎
桃園廳霄裡庄	(ひらみかんこのき)	大正三年十月十七日	藤黒與三郎
同 安平鎭	(ひらみかんこのき)	明治四十一年八月二十日	澤田兼吉 藤黒與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

新竹廳新　竹　（かきばかんこのき）　明治四十年十月九日　鈴木力治
南投廳　頭社　（かきばかんこのき）　明治四十三年十月十二日　澤田兼吉
阿緱廳高士佛　（ひらみかんこのき）　明治四十一年十月二十二日　鈴木力治
同　　同　　（ひらみかんこのき）　明治四十一年十月二十四日　鈴木力治

分布　臺灣

記事

Glochidion 屬及ビ Phyllanthus 屬ニ寄生スル菌類ニシテ本菌ニ符合スヘキモノナシ

病名

和名　かきばかんこのき褐斑病

胞狀菌屬 (Genus Phoma.)

一九五　アスパラガス枝枯病菌

Phoma Asparagi Sacc.

Saccardo, P. - Michelia. I. p. 257.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 162, 1884.

Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VI. p. 333, 1901.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第三. (臺灣博物學々會報. 第十七號.) 1914.

SYN. *Phoma media Ell. et Ev.*

Ellis, J. B. and B. M. Everhart. - Journ. Myc. p. 147, 1889.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 184, 1892.

病徵　莖枝ヲ侵シ病斑ハ紡錘狀、藁色ニシテ初メ大サ二〇—四〇×三—五ミ、メ、アルモ後漸次擴カリテ莖周ヲ繞リ又甚タ長形トナリ他ノ病斑ト融合シテ遂ニハ莖枝ノ全面ヲ侵ス而シテ其表面ニハ黑色ノ細點ヲ密ニ生ス開花時期乃至秋ニ入リテ甚シク發生シテ殆ント地上部ヲ枯死セシム故ニ翌年ニ向ツテノ貯藏養分ヲ減セシムルナラン

病原菌　子殼ハ長橢圓形乃至扁圓狀ニシテ黑褐色ナリ之レヲ縱斷スレハ扁球狀ヲナシ長徑一二〇—二〇〇—五〇〇ミューアリ、表皮下ニアリテ孔口ニヨリテ外面ニ開ク孔口ハ圓狀ニシテ直徑二三—三八ミューアリ擔子梗ハ長圓錐形ヲナシ大サ一五—二三×四ミューアリ、柄子ハ紡錘形ニシテ兩端鋭尖又ハ鈍頭ニシテ時ニ殆ント長橢圓狀ヲナスモノアリ、無色單胞、平滑ニシテ二箇ノ顆粒體ヲ含ムモノ又含マザルモノアリテ其大サ六—一二×二・五—三・五ミューアリ

寄主植物

アスパラガス（Asparagus officinalis L.）ノ莖及枝ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內補庄	明治四十年八月十日	藤黑與三郎
同　同	明治四十年九月七日	鈴木力治
同　同	明治四十年九月十五日	鈴木力治

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂內埔庄　明治四十一年七月二十七日　鈴木力治
同　同　明治四十一年八月二十七日　藤黒與三郎
同　同　明治四十二年十二月十二日　澤田兼吉
同　同　明治四十二年十二月二十五日　藤黒與三郎
同　同　明治四十五年一月二十二日　澤田兼吉
同　同　大正元年十一月十五日　澤田兼吉
同　同　大正三年七月十日　藤黒與三郎
臺中廳　臺中　明治四十二年十一月十五日　澤田兼吉
同　二林　大正二年十月十四日　藤黒與三郎

分布　北伊太利、佛蘭西、北米合衆國、西比利亞、臺灣

記事

Ellis 及 Everhart 兩氏ハ米國ニユーゼルシー州ニ於テ石刀柏ノ莖ニ Phoma 菌ヲ發見シ其柄子ハ Saccardo 氏ノ Phoma Asparagi Sacc. ノソレヨリ大形ニシテ且ツ其兩端鋭尖ナリトノ故ヲ以テ異ナレル菌ナリトシ Phoma media Ell. et Ev. ナル新種ヲ作レリ我菌ハ Ellis 及 Everhart 兩氏ノ記載ニ一致スベキモノニシテ又一方ニハ Saccardo 氏ノ記載ニ一致スル柄子ヲモ發見ス余ハ歐洲産ト米國産トハ同一種ニシテ或ハ Saccardo 氏ハ其稍々若キモノヲ記セシニ非ラサルナキカヲ思フ

病名

和名 アスパラガス枝枯病

一九六 茶樹心枯病菌

Phoma Camelliae Cooke.

Cooke, M. C. - Grevillea. Vol. XIII. P. 4.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 140., 1892.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十一號、一三〇頁、一九一五

病徵及病原菌 嫩葉及嫩梢ヲ侵シ褐變枯死セシム、此病斑ノ上面ニ微細ナル黑點ヲ散生シ稀ニ裏面ニモ生スルコトアリ之レ子殼ナリ、子殼ハ表皮下ニ生シ孔口ニヨリテ外面ニ開ク暗褐色ニシテ球狀又ハ廣卵狀大サ六三—九〇×四八—七八ミュー アリ孔口ハ直徑一八ミュー アリ子殼ノ內壁ニ短キ擔子梗ヲ密生ス擔子梗ハ單條ニシテ大サ六×二・五ミュー アリ柄子ヲ頂生ス柄子ハ倒卵狀乃至倒卵狀楕圓形ニシテ無色、單胞、平滑、顆粒體又ハ油塊ヲ含ミ大サ九—一一×五—六ミュー アリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ嫩芽ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

新竹廳南庄　明治四十三年五月三日　藤黑與三郎

分布 印度、臺灣

記事

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

我菌ノ子殼ハ印度産ノモノヨリ小形ナリ Cooke 氏ハ子殼ハ葉裏ニ生スルコトヲ記セシモ我菌ニアリテハ多ク葉表ニ生シ稀ニ葉裏ニモ生スルコトアリ

Cooke 氏ノ記載ニヨレハ本菌ハ Phyllosticta 屬ニ納メラルベキモノナルモ余ハ嫩梢ヲモ侵ス事實ヲ實見シタレハ之レヲ訂正スルノ必要ナキニ至レリ

病名

和名 茶樹心枯病

一九七 みかん黒星病菌

Phoma citricarpa McAlp.

McAlpine, D. - Fung. Diseaes of Citrus Trees in Australia. p. 81, 1899.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVI. p. 854., 1902.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法. p. 69., 1914.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第五. (臺灣博物學會々報. 第 20 號) 1915.

Hara, K. - 果樹病害論. p. 259., 1916.

病徵 果實ヲ侵シ病斑ハ散生シ一果實上ニ普通數箇時ニ七八十箇ヲ生スルコトアリ圓狀至乃長橢圓狀又ハ不正形ニシテ凹陷シ暗褐色乃至汚黃褐色ニシテ中央灰色ヲナシ大サ二—一五×二—八ミメ、アリ其處ニ黑色ノ小點ヲ散生ス此病害ニ侵サレタル果實ハ貯藏スルトキニ乾燥シ易ク又青黴病等ニ侵サレ易シ

病原菌 子殼ハ表皮下ニ生シ球狀又ハ扁球狀ヲナシ黑褐色高サ七〇—九五ミュー幅一〇五—一八〇ミューアリ其頂ニ孔

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ロヲ開ク孔ロハ圓狀ニシテ直徑一七―二〇ミューアリ、子殼壁ヲ構成スル細胞ハ比較的大形ニシテ多角狀ヲナシ直徑五―一四ミューアリ擔子梗ハ單條ニシテ直、長サ五―一〇×二・五―三ミューアリ

柄子ハ倒卵狀乃至倒卵狀長楕圓狀、無色、單胞、平滑、大サ七―一〇×四・五―七ミューアリ病斑ノ內部ニ存在スル菌絲ハ直徑三―六ミューアリ無色、顆粒體ヲ含ミ分枝シ隔膜ヲ有ス

寄主植物

雪柑 (Citrus sinensis Osb. form. Sekkan.) 及高墻桶柑(Citrus Tankan Hay. form. Koshotankan)ノ果實ニ寄生ス

外國ニ於ケル寄主植物

Orange, Lemon, Mandarin.

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳臺　北　明治四十五年一月十日　澤田兼吉

同　二十張庄　大正四年十二月　藤黒與三郎

分布　濠洲、臺灣

病名

和名　みかん黒星病

一九八　稻籾枯病菌

Phoma glumarum Ell. et Tracy.

Ellis, J. B. and Tracy. - Journ. Myc. p. 123., 1888.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 185., 1892.
Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VI. p. 337., 1901.
Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣農作物病害目錄. 其一. p. 4., 1907.
Sawada, K. - 臺灣農事報. 第六十三號. p. 14., 1912.
Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第十二.（臺灣博物學會々報. 第二十九號.）1917.

SYN. *Phyllosticta glumarum* (*Ell. et Tr.*) *Miyake.*

Miyake, I. - 我國ニ於ケル稻ノ菌類ノ研究（植物學雜誌. 第二十三卷. p. 127.）1908.
Miyake, I. - Stud. Pilz. Reispfl. in Japan. (Journ. of Coll. of Agric., Imper. Univ. of Tokio. Vol. II. No. 4. p. 252.) 1910.

病徵 水陸稻ヲ侵シ籾ノ先端又ハ側方ヨリ褐色乃至暗褐色ノ病斑ヲ生シ籾ノ大半ヲ占メ古キ部分ヨリ褪色シテ灰白色トナリ其表面ニ黒色ノ細點ヲ散生或ハ群生ス子實充實セルモノ或ハ不熟ナルモノ或ハ螟蟲ニ侵サレテ枯死セルモノ等ノ籾上ニ生ス侵サレタル部分ハ脆クナリ後米粒ヲ現ハスニ至ルコトアリ

病原菌 子殼ハ籾ノ外面卽チ籾ノ縱ノ隆起ト隆起トノ間ノ凹溝ニ附着シテ形成セラレ球狀乃至扁球狀ヲナシ時ニ扁壓形ヲナスモノアリ暗褐色ニシテ基部ニ向ツテ黃褐色トナル高サ三五―一〇〇ミュー直徑五五―一二〇ミューアリ其上端ニ孔口ヲ開キ水濕ヲ得レハ胞子ハ粘液ニ混シテ紐狀ニ孔口ヨリ溢出ス孔口ハ直徑八―二〇ミュー普通一二ミューアリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

柄子ハ無色楕圓形乃至長楕圓形ニシテ大サ三・五—五・五×二—三ミューアリ

寄主植物

稻（Oryze sativa L.）ノ籾

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳基隆石門	明治四十二年七月十三日	藤黒與三郎
同　深坑	明治四十一年七月十日	藤黒與三郎
宜蘭廳　宜蘭		鈴木力治
桃園廳　蕃界	明治四十四年十月六日	澤田兼吉
臺中廳　鹿港	明治四十年五月三十一日	鈴木力治
嘉義廳　嘉義	明治四十二年十一月十日	澤田兼吉
同　埤頭埧庄	明治四十二年十一月十二日	澤田兼吉
同　蕃仔田	明治四十一年十月二十八日	澤田兼吉
同　店仔口	明治四十一年十月二十八日	澤田兼吉
臺南廳大目降	明治四十一年十一月一日	澤田兼吉
同　虎頭埤	明治四十一年十月三十一日	澤田兼吉
阿緱廳　阿緱	明治四十二年十一月六日	澤田兼吉
同　港口	明治四十一年十月二十七日	鈴木力治

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

阿緱廳高士佛　明治四十一年十月二十二日　鈴木力治

分布　北米合衆國、支那、臺灣

病名

和名　稻籾粘病

一九九　もうりんくわ枝枯病菌（第十三圖版、一―三）

Phoma Jasmini-sambactis Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第二、（臺灣博物學會々報、第十六號）一九一四

病徵　枝條及葉ヲ侵ス枝ニアリテハ數セ、メ、乃至十セ、メ、ノ範圍褐色ニ變シ後淡黃褐色トナリ其表面ニ黑色乃至淡色ノ小點ヲ一面ニ生シ其部以上ノ部分ハ枯死ス、葉ニアリテハ病斑ハ大抵葉ノ先端又ハ緣邊ヨリ起リ樺色乃至褐色ヲナシテ圓狀ニ擴カリ漸次古キ部分ヨリ褪色シテ黃褐色乃至帶黃褐白色トナル大サ普通一―二セ、メ、アリ病斑ノ上面ニハ一面ニ黑點ヲ生ス

病原菌　子殼ハ扁球狀ニシテ圓狀、卵狀、楕圓狀等ヲナシ時ニ數箇融合スルモノアリ上面暗褐色乃至褐色下方ニ向ツテ黃褐色ヲナシ又孔口ノ附近ノミ暗褐色ヲ呈スルモノアリ直徑一七〇―二二〇ミユーアリ一孔口ヲ有ス、孔口ハ直徑二八―四〇ミユーアリ擔子梗ハ單條ニシテ直、密生シテ大サ八―一〇×三ミユーアリ柄子ハ無色、單胞、長楕圓形乃至長形長楕圓形ニシテ兩端圓頭又ハ一端鈍頭ヲナスモノアリ普通二箇ノ顆粒ヲ有シ大サ六―八×三―三・五ミユーアリ

寄主植物

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

もうりんくわ（Jasminum sambac Ait.）ノ枝及葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳和尚州　明治四十一年一月十三日　澤田兼吉

同　下坩庄　大正二年六月二十八日　澤田兼吉

同　溪州　明治四十一年十二月三日　澤田兼吉

同　同　大正三年八月二十日　藤黒與三郎

分布　臺灣

記事

Jasminum 屬植物ニ寄生スル Phoma 及 Phyllosticta 菌中我菌ニ近キハ Phoma domestica Sacc. 及 Phoma Jasmini Cook. ノ二アリ我菌ニ比シ前者ハ胞子及擔子梗小形ニシテ後者ハ胞子及子殼大形ナルニヨリテ我菌ト異ル

病名

和名　もうりんくわ枝枯病

大胞狀菌屬 (Genus Macrophoma.)

二〇〇　黃麻立枯病菌

Macrophoma Corchori Sawada.

Sawada, K. -- 臺灣菌類資料、第四、（臺灣博物學會々報、第十九號、）一九一四

病徵　莖及葉ヲ侵シ苗ノ時代ヨリ收穫ニ至ルマデ常ニ發生スレトモ最モ烈シキハ充分成長セル期間ニアリテ黃麻栽培地ニ普ク分布ス苗侵サルレハ莖ノ地際黑褐色ニ變シ其變色部ノ表面ニ無數ノ黑色ナル細點ヲ生シ漸次上方ニ及ボシ幼莖全ク侵サレテ萎凋枯死ス又莖ノ上方ヨリ起ルコトアリ又ハ葉先ツ侵サルヽコトアリ何レノ場合ニ於テモ病斑上ニ黑點ヲ生ス種子ヲ播下シテ苗ノ二三寸ニ伸長シタル頃ヨリ發スルモ其當時ハ被害比較的多カラス然レトモ收穫後種子落下シテ生セシ苗ニハ被害甚シ之レ收穫期ニ近ツキテ甚シク蔓延シタル胞子ノ圃場ニ殘リテ侵スカ爲メナリ前述スルカ如ク五月頃即チ菌ノ二三寸ニ達シタル頃ニハ發病多カラズト雖モ七月下旬又ハ八月ノ初旬頃ニ至レバ罹病株ヲ增シ八月下旬又ハ九月初旬頃ニハ益々蔓延シテ枯死スルモノ多キヲ見、猶進ンデ九月下旬頃即チ收穫期ニ近ケバ益々增加シテ屢々五六割ノ被害ヲ蒙ルコトアリ、充分成長セル莖ニアリテハ突然水ヲ絕チタル如ク心葉萎凋シ數日ニシテ全ク枯死シ終ル而シテ其莖ノ地際ニ注視スレバ普通二三寸ノ高サニ暗褐色ニ變シ其變色部ノ表面ニ一面ニ黑色ノ細點ヲ生シ其部分ノ組織ハ褐變シテ枯死セリ、斯ク組織枯死セシメラルヽカ故ニ水ノ通路絕タレテ萎凋ス更ニ此病株ノ根ヲ檢スレドモ何等異變ナク生活ス然レドモ屢々線蟲 Heterodera radicicola Greef. ニ侵サレテ根ニ夥シク蟲癭ヲ作リ爲メニ枯死スルコトアリ此ノ場合ハ莖ノ地際ニ黑色ナル細點ノ存在ヲ見サルヲ以テ直チニ之レト區別スルコトヲ得又莖ノ地際ノミナラズ上方ニモ發生シ又葉ヲモ侵スコトアリテ是等ノ場合ハ何レモ苗ノ場合ト等シク病斑上ニ黑色ノ細點ヲ生ス

罹病株ハ強風ニ遭遇スル時ハ根元ヨリ折ラレ殆ント悉ク倒伏ス

葉ニ於ケル病斑ハ多クハ緣邊ヨリ起リ際限ナク擴カリ黃褐色ニシテ其上面ニ黑點ヲ生シ裏面ニハ僅カニ生ス、被

害部ニ生スル此黑點ハ病原菌ノ子殼ナリ

病原菌 病患部ノ組織內ニ迷走セル菌絲ハ無色ニシテ隔膜ヲ有シ分枝シ直徑三—八ミユーアリテ細胞膜ヲ貫通ス子殼ハ表皮下ニ生シ、球狀、扁球狀、又ハ卵球狀ヲナシ稀ニ融合スルモノアリ黑色ニシテ一孔口ヲ有シ高サ九八—二二五ミユー直徑八九—二七五ミユーアリ子殼壁ハ數層ノ多角形ナル細胞ヨリ成リ孔口ハ圓狀ニシテ直徑一五ミユーアリ擔子梗ハ無色、圓柱狀、單條ニシテ隔膜ヲ有セス先端ニ向ツテ漸細シ大サ一〇—一四×二・五—三・五ミユーアリ頂ニ胞子ヲ單生ス

柄子ハ無色、單胞、平滑ニシテ卵狀長橢圓狀、長形長橢圓又ハ短棍棒狀、頂端圓頭、基端鈍頭ヲナシ直又ハ稍ニ彎曲シ微細ナル顆粒體ヲ含ミ大サ一六—三二×七—一〇ミユーアリ柄子ヲ水中ニ置ク時ハ其中央ニ一隔膜ヲ形成シ其兩端ヨリ各一本ノ發芽管ヲ出シテ發芽ス發芽管ハ直徑三・五ミユーアリ再生胞子ヲ形成セス

寄主植物

つなそ（黃麻）(Corchorus capsularis L.) 及

やまつなそ（山麻）(Corchorus olitorius L.) ノ莖及葉ニ寄生ス

分布 印度、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年八月十八日	藤黑與三郎
同 同	明治四十二年七月二十九日	澤田兼吉
同 同	明治四十二年八月十六日	藤黑與三郎

臺北廳頂內埔庄		大正二年六月十六日	藤黒與三郎
同	同	大正二年七月十日	藤黒與三郎
同	同	大正二年十二月三日	澤田兼吉
同	同	大正三年十月十二日	澤田兼吉
同	同	大正五年十月六日	澤田兼吉
同	同（やまつなそ）	大正五年十月六日	澤田兼吉
同	木柵	大正五年六月二十九日	澤田兼吉

記事

一、本菌ヲ肉汁寒天培養基ニ培養シタルニ培養基ノ表面ニ及ビ半バ埋モレテ未熟ナル子殼ヲ形成セリ黒色ニシテ直徑九〇―二一〇ミューアリタリ

二、高サ四五寸ノ黃麻ノ苗ヲ五本宛ヲ鉢ニ植エ其一鉢ニ於ケル苗ニハ莖ノ地際ニ消毒針ニテ僅カニ傷ヲ付ケ他ノ一鉢ニ於ケル苗ハ其儘トナシ共ニ本菌ノ胞子ヲ消毒蒸溜水ニ混シタルヲ莖ノ基部ニ流シ直後硝子鐘ヲ以テ之レヲ被ヒ三日後ニ之レヲ取リ去リ置キタルニ傷ヲ付ケタル苗ハ接種五日ニシテ枯死シ始メ一週間目ニシテ全數枯死シ終レリ又無傷ノ苗ハ二十日以內ニ悉ク枯死シ兩者共ニ莖ノ地際變色シ猶微細ナル黒點ヲ一面ニ生シテ本病固有ノ病徵ヲ呈シタリ而シテ其形成セラレタル子殼內ニハ何レモ圃場ニ於ケル場合ト等シキ胞子ヲ形成シタリキ

三、連作、窒素分多用、養分缺乏、又ハ加里分缺之ノ場合ニ被害多シ

四、本病豫防ニ最モ效果アルハ播種前木灰ヲ土壤ニ多用スルニアリ

病名

和名 黃麻立枯病

二〇一 芎蕉黑星病菌

Macrophoma Musae (Cke.) Berl. et Vogl.

Berlese, A. N. et P. Voglino. - Add. Syll. No. 969. 1886.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 199., 1892.

Theitzen, F. - Fungi Aliquot Bombayensis, a Rev. Ed. Blatter Collecti. (Ann. Myc. Vol. IX. p. 152.) 1911.

Sawada, K. - 臺灣ニ於ケル芎蕉ノ主ナル病害（臺灣農事報. 第七十五號）1913.

Reinking, O. A. - Philipphine Econom. Plant Diseases. (Philip. Journ. of Sc. Vol. XIII. No. 4 & 5, p. 220.) 1918.

SYN. Phoma Musae (Cooke) Sacc.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 163., 1884.

SYN. Sphaeropsis? Musarum Cooke.

Cooke, M. C. - Grevillea.

病徵 臺灣ニ於テハ到ル處ニ發生シ葉及果實ヲモ被害ス葉ニアリテハ充分成長セルモノヨリ老葉ニ致ルマテ侵害

ヲ受ケ初メ葉ノ上面ニ極メテ微細ナル黒點（子殼）ヲ群生又ハ散生シ葉脈ニ浴フコト多ク甚シク侵サレタルモノハ葉面黒色ナル粗面ヲナスコトアリ、此黒點ノ群生スル場所ハ漸次周圍黄色ヲ呈シ猶進ンテ褐變シ此時期ニ至レハ黒點ノ散生セル場所モ黄變スルニ至リ葉ハ爲メニ早凋スヘシ果實ニアリテハ花穗ノ苞ノ落下直後ヨリ侵サル、モノアリ、漸次黒點ノ數ヲ増シ上方ニ向ヘル果皮ノ部分ハ黒點ヲ以テ被ハル、ニ至ル斯ク侵サレタル果皮ハ黒變皺縮シ外觀汚ル、ノミナラズ炭疽病等ノ被害ヲ受ケ易シ

芎蕉ノ名產地タル員林地方ニ於テハ冬春季ニ被害多ク爲メニ價格二三割ヲ減スルコトアリトイフ

病原菌　葉ノ上面及果皮上ニ生スル黒點ハ子殼ニシテ子殼ハ概ネ群生シ扁球狀乃至球狀ヲナシ其上半部ハ黒色ヲ呈シ下半部ハ淡褐色ナリ、表皮下ニ埋モレ又ハ其上方ヲ露出シ大サ五〇—九〇×七〇—一五五ミューアリ一箇ノ孔口ヲ有ス、柄子ハ球狀、楕圓狀、卵狀、長楕圓狀又ハ一端ニ狹マレル短圓柱狀ヲナシ兩端圓頭又ハ一端稍〻鈍頭ヲナスモノアリ無色、單胞、平滑ニシテ大サ一二—二三×六—一三ミューアリ、柄子ノ外面ニ粘液ヲ被ルモノアリ又被ラサルモノアリ

寄主植物

芎蕉（Musa sapientum L.）ノ葉及果實ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄		明治四十二年七月二十日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年八月四日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年八月九日	藤黒與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

同　六張犁　明治四十年七月九日　鈴木力治
同　ウライ社　大正四年四月四日　澤田兼吉
臺中廳臺中　明治四十二年十一月十五日　澤田兼吉
嘉義廳土庫　明治四十年五月二十八日　鈴木力治
阿緱廳內埔　明治四十二年十一月七日　澤田兼吉
阿緱廳潮洲　明治四十二年十一月七日　澤田兼吉

分布　印度、菲律賓、臺灣

病名

和名　芎蕉黑星病、バナナ黑星病

一毛子擬球殼菌屬 (Genus Neottiospora.)

二〇二　茶樹一毛子擬球殼菌

Neottiospora Theae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十一號、一三三頁) 一九一五

病徵及病原菌　葉ヲ侵シ病斑ハ不規則ナル形ヲナシ褐色至乃灰色ニシテ周圍帶紫黑色ノ隆起線ヲ周ラス子殼ハ病斑ノ上面ニ黑色ノ細點トシテ散生シ扁球狀乃至球狀ニシテ表皮下ニ生シ孔口ニヨリテ外面ニ開ク子殼ノ大サハ八四―九三×一〇八―一三五ミューアリ柄子ハ無色、單胞ニシテ圓柱狀、兩端圓頭又鈍頭ヲナスコトアリ大サ一二―

一四×三ミューアリテ其一端ニ二或ハ四本ノ纖毛ヲ具フ其長サ九―一二ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉ヲ侵ス

臺灣ニ於ケル分布

新竹廳南庄　明治四十三年五月三日　藤黒與三郎

分布　臺灣

記事

Neottiospora 屬ノ種類ニハ茶樹ニ寄生スルモノナク又本屬中ニハ唯六種發表セラレタルノミニシテ我菌ト符合スヘキモノナシ

和名　茶樹一毛子擬球殼菌

白双胞擬球殼菌亞科 (Subfam. Hyalodidymae.)

双胞葉菌屬 (Genus Ascochyta.)

二〇三　桑葉枯病菌（第十三圖版、四―八）

Ascochyta morifolia Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十三、（臺灣博物學會々報、第三十號）一九一七

病徵　葉ヲ侵シ普通一葉上ニ數箇乃至十數箇ノ病斑ヲ生シ初メ暗褐又ハ栗褐色ニシテ圓狀ニ擴カリ漸次不正形ト

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ナリ不明瞭ナル同心輪ヲ表ハスモノアリ直徑二―一五ミメ、アリ後ニ至リテ中央茶褐色トナリテ破レ孔ヲ穿ツ斑々互ニ相連リ又病斑ヨリ先ノ部分ハ枯死シ遂ニハ全ク破レタル葉トナリテ落下シ甚シク侵サレタル木ハ殆ント葉ヲ失フコトアリ好ンテ嫩葉ヲ侵シ採葉上大ニ影響ヲ蒙ルコトアリ、多濕ナル時期又ハ陰濕ナル場所ニ被害多シ故ニ北部臺灣ニ於テハ春季ニ發生多シ

病原菌　病斑内ノ組織ニハ菌糸迷走シ菌糸ハ分枝シ隔膜ヲ有シ直徑三・五―四ミューアリ病斑ノ上ニハ極メテ微細ナル褐色ノ點ヲ密生ス之レ本菌ノ子殼ナリ

子殼ハ葉ノ上面又ハ兩面ニモ生スルコトアリ表皮下ニ生シ黃褐色ニシテ球狀乃至扁球狀ヲナシ高サ七〇―一三〇ミュー横徑九〇―一六〇ミューアリ一箇ノ孔口ヲ有シテ外面ニ開ク孔口ハ圓形乃至楕圓形ニシテ直徑一〇―一五ミューアリ

子殼壁ハ二―三層ノ細胞層ヨリ構成セラレ其細胞ハ多角狀ニシテ大サ五―一二×四―五ミューアリ擔子梗ハ無色ニシテ短ク多クハ圓錐形ヲナス

柄子ハ無色、楕圓形乃至短圓柱狀ニシテ普通長楕圓形、兩端圓頭中央ニ一隔膜ヲ有シ（極メテ稀ニ二隔膜ヲ有スルコトアリ）普通隔膜ニ於テ縊レヲ有セス極メテ稀ニ縊レヲ有セスルモノアリ大サ七―一二×三―五ミューアリ

寄主植物

桑（廣東種、荊桑）（Morus alba L.）

分布　臺灣、南清（?）

臺灣ニ於ケル分布

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳溪州庄	大正六年四月九日	澤田兼吉
同　安坑庄	大正六年五月二十七日	澤田兼吉
同　頂埔庄	大正六年五月二十一日	澤田兼吉
宜蘭廳宜蘭	大正六年五月二十一日	澤田兼吉
新竹廳早坑仔庄	大正六年六月五日	澤田兼吉

病名

和名　桑葉枯病

赤銹菌寄生菌屬 (Genus Darluca.)

二〇四　赤銹菌寄生菌

Darluca Filum (Biv.) Cast.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 410., 1884.

Engler, A. und K. Prantl. - Naturl. Pflanzenfam., Fungi Imperfecti. p. 368., 1900.

Allescher, A. - Rabh. Kryptogamenfl. von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VI. p. 704., 1901.

記載　粟銹病菌（Uromyces Setariae-italicae（Diet.）Yosh.）ノ粟ノ葉ニ寄生シテ生シタル夏胞子堆ノ稍々古キモノカ恰モ冬胞子堆ヲ生シタル如ク黒色トナリテ隆起ス

子殼ハ群生シ倒卵狀、楕圓狀、球狀等ニシテ上部帶淡褐煤色ニシテ下部ニ向ツテ淡色トナリ淡黃褐色ヲナス表生

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

又ハ半ハ埋モレ其頂ニ孔口ヲ開キ孔口ハ時ニ稍々凸出スル事アリ子殼ノ大サハ八〇—一七八×六〇—一三八ミューアリ

柄子ハ紡錘形乃至長紡錘形ニシテ兩端鋭尖ニシテ各々一本ノ短毛ニ終ル中央ニ一箇ノ横隔ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲ有セサルカ或ハ少シク縊レヲナスモノアリ無色、平滑ニシテ大サ一二—一八×三—四ミューアリ兩端ニ生スル毛ノ長サハ一—二ミューアリ

寄主

粟銹病菌 (Uromyces Setariae-italicae (Diet.) Yosh.) ノ夏胞子堆ニ生ス

臺灣ニ於ケル分布

花蓮港廳花蓮港		明治四十四年六月七日	澤田兼吉
同	加禮宛	明治四十四年六月七日	澤田兼吉
同	荳蘭	明治四十四年六月六日	澤田兼吉
同	吳全城	明治四十四年六月三日	澤田兼吉

分布 歐羅巴、北亞米利加、亞弗利加、錫蘭、日本、臺灣

和名 赤銹菌寄生菌

蠕蟲子擬球殼菌亞科 (Subfam. Scolecosporae.)

多隔菌屬 (Genus Septoria.)

二〇五 菊黑斑病菌

Septoria chrysanthemella Sacc.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XI. p. 542., 1895.

Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VI. p. 804., 1901.

Magnus, - Bericht. der Deutsch. Bot. Gesersch. Bd. XXV. p. 299., 1907.

Sydow, P. - Ann. Mycol. Bd. XI. p. 115., 1913.

Hemmi, T. - 菊ニ寄生スルセプトリア菌ニ就テ（植物學雜誌. 第三十一卷. 第百七十二號.）1917.

SYN. Septoria Chrysanthemi Allesch.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Econom. Plants. p. 461., 1910.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料. 第四.（臺灣博物學會々報. 第十九號. p. 6.）1914.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ圓狀乃至楕圓狀ニ擴カリ褐色乃至暗褐色ニシテ周圍ニ向ツテ濃色普通直徑三—一〇ミメ、アリ一葉上普通數箇ヲ生スルモ時ニ二十箇以上ヲ生スルコトアリ之レカ爲メニ葉ハ褐變枯死ス

病原菌 子殼ハ葉ノ上面ニ生シ又葉裏ニモ生スルコトアリ卵狀ニシテ一孔口ヲ有シ黃褐色、孔口ニ近ク黑褐色ヲナシ大サ七二—八八×五二—七二ミューアリ柄子ハ線狀、針狀ニシテ兩端鈍頭、直又ハ稍々彎曲シ本末ノ太サ餘リ差ナク無色ニシテ微細ナル顆粒體ヲ含ミ〇—四箇ノ隔膜ヲ有シ大サ三〇—五四×二・五—三・七ミューアリ發芽管ニヨリテ發芽ス發芽管ハ直徑約二ミューアリ

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

寄主植物

栽培菊 (Chrysanthemum sinense Sab. var. hortensis Mak.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄	明治四十一年八月二十七日	藤黒與三郎
同　同	明治四十二年七月十三日	澤田兼吉
同　同	大正三年八月四日	澤田兼吉
同　同	大正四年十月十一日	澤田兼吉
嘉義廳嘉義	明治四十二年十一月九日	澤田兼吉

分布 伊太利、支那、日本、臺灣

病名

和名 菊黒斑病

英名 Septoriose of chrysanthemum, Leaf spot of chrysanthemum.

二〇六 菊褐斑病菌

Septoria Chrysanthemi-indici Bubák. et Kabát.

Bubák, Fr. und J. E. Kabát. - Mykolog. Beitr. (Hedwigia. Bd. XLVI. p. 294.) 1907.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XXII. p. 1104., 1913.

Hemmi, T. - 菊ニ寄生スルセプトリア菌ニ就テ (植物學雜誌、第三十一卷、第三百七十二號) 1917.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

SYN. *Septoria obesa* Syd.

Sydow, H. und P. Sydow. - Zweiter Beitr. zur Kenntn. der Parasit. Pilzflora des Nordlichen Japans.
(Ann. Mycol. Vol. XII. No. 2. p. 163.) 1914.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ圓狀又ハ楕圓狀ニ擴カリ病斑ヨリ先端ノ部分ハ自然枯死シ後不正形ニシテ大ナル形トナル初メ暗褐色後褐色トナリ一葉上ニ普通一二箇ノ病斑ヲ生シ下葉ヨリ漸次上葉ニ及ホシテ葉ノ卷縮枯死ヲ來ス

病原菌 子殼ハ重ニ葉ノ上面ニ稀ニ裏面ニモ生スルコトアリ扁球狀、淡暗褐色乃至黃褐色ニシテ一孔口ヲ具ヘ直徑一二〇―一八〇ミューアリ、柄子ハ細長ニシテ頂端ニ向ツテ漸細シ Cercospora 菌ノ分生胞子ニ似タリ無色平滑ニシテ常ニ彎曲シ五―九箇ノ隔膜ヲ有シ大サ四二―一〇八×三―四ミューアリ

寄主植物

栽培菊（Chrysanthemum sinense Sab. var. hortensis Mak.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十二年十二月三日　澤田兼吉

分布 ボヘミヤ、日本、臺灣

記事

余カ採集セル標本ノ病斑上ニ一子囊殼時代ヲ發見セリソハ本菌ノ子殼ハ未タ柄子ヲ充實セルモノヽ存在スル病斑上ニ子殼ト混在シテ黑褐色ノ子囊殼ヲ生セリ子囊殼ハ子殼ト共ニ葉ノ上面ニ生シ表皮下ニアリ球狀ニシテ孔口ニ於テ稍突出シ特ニ孔口ニ於テ黑色ナリ直徑八〇―一〇〇ミューアリテ子囊ヲ多數叢生包藏ス子囊ハ無色棍棒

狀ニシテ大サ五六—六五×一二ミューアリ子嚢胞子ハ未熟ナリ猶精査研究ヲナスベシ

病名

和名　菊褐斑病

英名　Chrysanthemum Leaf Scorch.

二〇七　小麥淡色葉枯病菌（第十三圖版、九—一一）

Septoria glumarum Pass.

Passer. - F. Parm. Sept. n. 147.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 561., 1884.

Frank, A. B. - Krankh. der Pflanz. Bd. II. p. 419., 1896.

Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VI. p. 870., 1901.

Sorauer, P. - Handb. der Pflanzenkrankh. Bd. II. P. 408., 1908.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第九（臺灣博物學會々報、第二十五號、P. 130.）1916.

病徵　小麥ノ苗五六寸ニ生長セル頃ヨリ發生シ下葉ヨリ漸次上葉ニ及ボシ葉ニ汚黃色ナル長サ約二—四ミメ、アル橢圓狀乃至長橢圓狀紡綞形ノ病斑ヲ生シ日ヲ經ルニ從ヒテ病斑大形ナル紡綞形トナリ長サ三セ、メ、ニ達スルモノアリ、病斑上ニハ微細ナル黑點ヲ疎ニ生ス、多數病斑ヲ生セル葉ハ黃變乾枯ス、成熟期ニ近ツクニ從ヒ葉鞘ノ未タ綠色ヲ呈セル間ニ葉ハ殆ント枯死シ出穗スレハ頴ハ褐色ニ變シ葉ノ早枯ト共ニ登熟ニ大ナル影響ヲ及ホス頴上ノ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病斑ニハ葉ニ於ケルヨリ稍々密ニ黑點ヲ生ス、北部臺灣ニ於ケル小麥ノ生育期ハ霖雨引續キ多濕ナルカ故ニ本病ノ蔓延一層盛ニシテ被害モ亦從ツテ多大ナリ

病原菌 子殼ハ葉ノ裏面ニ生シ球狀乃至扁球狀ニシテ孔口ニ於テ稍々凸出シ上方栗褐色ニシテ下方褐黃色ヲナシ大サ八〇—一一五×九二—一二〇ミューアリ擔子梗ハ殆ント見ルヘカラス子殼內壁細胞ヨリ直チニ胞子ニ形成ス柄子ハ圓柱狀又ハ棍棒狀圓柱狀ニシテ圓頭又ハ鈍頭ヲナシ直又ハ稍々彎曲シ無色三箇ノ橫隔ヲ有シ僅カニ顆粒ヲ含ミ大サ一七—二八×三—四ミューアリ

寄主植物

小麥（Triticum vulgare Vill.）ノ葉及穎ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	大正五年一月二十六日	藤黑與三郎
同　同	大正五年二月十六日	藤黑與三郎
同　同	大正五年四月六日	藤黑與三郎
同　同	大正六年三月七日	藤黑與三郎
同　同	大正六年四月十日	澤田兼吉
同　同	大正六年四月十六日	澤田兼吉

分布 伊太利、瑞西、獨逸、臺灣

記事

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

本菌ハ以前小麥ノ穎ヲ侵スコトノミ知ラレタリシカFrank氏ハ西暦一八九四年北獨逸ニ於テ發見シ小麥ノ葉ヲモ侵スコト明カトナレリ此場合ニ於テハSeptoria gramineum及Leptosphaeria Tritici菌ト共ニ發生シ居タリト記セリ本島ニ於テハ印度種ダンデカニノ葉及穎ニ單獨ニ發生ス

病名

和名 小麥淡色葉枯病

二〇八 薄荷圓星病菌

Septoria Menthae (Thuem.) Oud.

Oudemans, C. A. J. A. - Mater. pour Flora Mycol. der Neerl. p. 4., 1867.

Oudemans, C. A. J. A. - Hedwigia. Bd. XV. p. 101., 1876.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 538., 1884.

Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VI. p. 815., 1901.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十二、(臺灣博物學會々報第二十九號、) 1917.

SYN. Depazea Menthae Thuem.

Thuemen. - F. Austr. n. 1275.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ圓狀ニシテ稍々不正形ナルモノヲ交ヘ直徑一—四ミ、メ、アリ、初メ暗褐色ニシテ後漸次中央部ヨリ灰色ニ變スルカ故ニ病斑ハ普通中央部灰色ニシテ周圍暗褐色ヲナシ一葉上ニ普通數箇乃至十數箇ヲ生シ烈

シク侵サレタルモノハ一葉上ニ二十數箇ノ病斑ヲ生スルコトアリ其病斑ノ周圍ヨリ黄色ニ變シ葉ノ早落ヲ來ス而シテ北部臺灣ニ於テハ冬期即チ雨期ニ甚シク發生ス

病斑ノ上面ニ數箇宛ノ黑色ノ細點ヲ生ス之レ子殼ナリ

病原菌 子殼ハ葉ノ上面ニ生シ表皮下ニアリテ孔口ニヨリテ外面ニ開ク黑色ニシテ球狀乃至扁球狀直徑七〇―一〇五ミユーアリ一孔口ヲ有ス柄子ハ無色針狀ニシテ頂端ニ向ツテ漸細シ殆ント鋭頭ニ終ル稍々又ハ强ク彎曲シ三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ二五―六四×一・五―二・五ミユーアリ

寄主植物

薄荷（Mentha arvensis L. var. vulgaris Benth.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十年十二月四日	藤黑與三郎
同　同	明治四十一年十一月七日	藤黑與三郎
同　同	明治四十一年十二月十一日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年七月十七日	澤田兼吉

分布 獨逸、和蘭、佛蘭西、臺灣

記事

本菌ノ記文ヲ見ルニ胞子ハ單胞トアルモ標品ニ就テ精細ニ檢スレハ屢々有隔ノモノヲ認ムベク其隔膜數ハ一箇ヨリ三箇ナリ而シテ其充分成熟セルモノハ必ズ三箇ヲ有ス

病名

和名 薄荷圓星病

擬肉座菌科 (Fam. Nectrioidaceae.)

ジシエー亞科 (Subfam. Zythieae.)

白單胞擬肉座菌列 (Genus-Group Hyalosporae.)

橙色蟲生菌屬 (Genus Aschersonia.)

二〇九 川上橙色蟲生菌

Aschersonia Kawakamii Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第九號、一二七頁、一九一四

Sawada, K. - 植物學雜誌、第二十八卷、第三三一號、一九一四

Hara, K. - 果樹病害論、附錄、二七頁、一九一六

病原菌 子座ハ葉裏ニ生シ介殼蟲ヲ全ク包被シ扁平球狀ニシテ圓頭又ハ切頭ヲナシ革質帶白橙色乃至橙赤色ニシテ直徑二—三ミメ、アリ其周圍ニ帶白色乃至橙赤色ノ薄キ又ハ稍々厚キ Hypothallus ヲ圍ラス其幅〇・五—二・五ミメアリ子座ノ內部ハ橙赤色ニシテ厚膜ナル菌糸カ稍々疎ニ織ラレテ成ル子殼ハ子座內ニ全ク埋モレ子座ノ外輪ニ沿ヒテ環狀ニ竝ヒ又ハ全面ニ不規則ニ生シ其數約十五箇乃至六十箇アリ小ナル孔口ニヨリテ外面ニ開ク子殼ハ形不規則ナルモ卵狀ナルモノ多シ大サ四二六—五六〇×二八五—四六〇

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ミューアリ擔子梗ハ互ニ密ニ癒合シテ分離シ難シ高サ約五〇―六四ミューアリ柄子ハ無色、單胞、紡錘形ニシテ兩端鈍頭ヲナシ粘着性ニシテ大サ六・四―八×一・五―二・〇ミューアリ側絲ヲ介在セス

古キ子座ノ Hypothallus 上ニ半球狀ニシテ單獨又ハ癒合狀ナル直徑〇・五―〇・八ミ、メ、アル小形ナル子座ヲ群生ス又此小子座ハ大子座ノ上ニモ生スルコトアリ其組織ハ大子座ト同樣ニシテ內ニ一又ハ數箇ノ子囊殼ヲ形成ス、子囊殼ハ卵狀ニシテ頂ニ漸細シテ嘴ヲナシ全ク子座內ニ埋モル、未タ子囊胞子ノ形成セラレタルヲ見ス

寄主

Calophyllum sp. ノ葉裏ニ寄生スル Aspidiotus sp. ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺東廳紅頭嶼　大正元年八月一日　川上瀧彌

分布　臺灣

記事

Aschersonia 屬ノ種類ニハ今日知ラレタルモノ約五十餘種アリ然レドモ我菌ニ該當スベキモノヲ見ス子座ノ若キ時代ハ Aschersonia Aleyrodis Webb. 菌ニ相似タル所アルモ子座ノ色彩ハ後者ヨリ濃ク一子座上ニ現ハル、孔口ノ數ハ後者ノ五乃至十數箇ナルヨリ遙カニ多シ又本菌ノ胞子層ニハ側絲ヲ缺キ胞子亦少形ナルニヨリテ異ル

和名　川上橙色蟲生菌

二一〇　大橙色蟲生菌

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Aschersonia marginata Ell. et Ev.

Ellis, J. B. et B. M. Everhart. - Bull. Torrey Bot. Club. Vol. XXII. p. 436., 1895.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XIV. p. 989., 1899.

Miyabe, K. and K. Sawada. - On Fungi Parasit. on Scale Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of Agric., Tohoku Imper. Univ., Sapporo. Vol. V. Pt. 3. p. 78.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告, 第九號, p. 128., 1914.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法, p. 213., 1914.

Hara, K. - 果樹病害論, 附錄, p. 23., 1916.

SYN. *Aschersonia sp.*

Nishida, T. - 柑橘病害論, p. 76., 1907.

病原菌 子座ハ葉ノ兩面ニ生シ又ハ葉柄枝梢上ニモ生ス扁球狀乃至半球狀ニシテ橙赤色又ハ暗黑色トナリ其周圍ニ狹クシテ厚キ Hypothallus ヲ作ルカ或ハ全ク之レヲ有セス、表面平滑又ハ多少波狀ヲナシ直徑一—五ミメ、アリ菌核狀ニシテ之レヲ切斷スレハ内部クリーム色ヲナシ密ニ錯綜セル厚膜ナル菌絲（直徑四—八ミュー）ヨリ組成セラル、子殼ハ不規則ナル形ヲナシ大サ四〇—三〇〇ミューアリテ一箇ノ子座内ニ四—一九箇含マレ圓狀又ハ齲裂狀ノ孔口ニヨリテ外面ニ開ク擔子梗ハ密ニ束ネラレ絲狀ニシテ中位ヨリ繖狀ニ分岐シ大サ一八—三〇×一ミューアリ柄子ハ紡錘形ニシテ無色單胞大サ六—八×一—一・五ミューアリ側絲ヲ缺ク

寄主

柑橘（Citrus.）ノ葉枝上ニ寄生スル
ひめくろかひがらむし（Parlatoria zizyphus Lucas.）及ビ
ふとながかひがらむし（Coccus longulus Dougl.）及ビ
ばんじろう（Psidium Guajava）ノ葉枝上ニ寄生スル介殼蟲ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十四年五月一日	新渡戶稻雄
同　同	明治四十四年五月八日	藤黒與三郎
宜蘭廳鹿埔庄	明治四十一年二月二十九日	鈴木力治
同　蘇澳	大正二年五月十九日	澤田兼吉
新竹廳新埔	大正二年三月	澤田兼吉
同　三叉河	大正二年三月二十一日	澤田兼吉
嘉義廳鹿蔴產	明治四十四年七月十一日	澤田兼吉

分布　布哇、日本、臺灣

記事

一、本菌ハ初メ Heller 氏ハ Sandwich 島ニ於テ Psidium sp. ノ葉上ニ發見シ西曆一八九五年 Ellis 及 Everhart 兩氏ニヨリテ研究發表セラレタルモノナリ然ルニ採集者モ研究者モ共ニ只葉上ニ存在セシノミヲ認メテ更ニ介殼蟲上ニ寄生セルヲ注意セサリキ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

二、日本ニ於テハ西田藤次氏ハ明治三十六年(一九〇三)五月鹿兒島縣下ニ於テ柑橘ニ寄生スルひめくろかひがらむし(*Parlatoria zizyphus* Lucas.)ニ寄生セルヲ發見シタリシモ其種名ヲ確メサリキ。

三、本菌ノ子座ハ黑色ナルモノ多ク又時ニ橙色ナルモノアリ此黑色ナルハ介殼蟲ノ存在ニ隨伴スル所ノ煤病菌ノ爲メニ着色セラレタルモノナリ。

四、本菌ノ擔子梗ハ密ニ束ネラレテ之レカ薄片ヲ作リテ檢シタル場合ハ、恰モ單條ノ如ク思ハル、モ之レヲ分散セシムル方法ニヨリテ檢スレハ明カニ三乃至五本繖狀ニ分岐シ其枝ノ長サ一〇―一六ミュー アルヲ認ムベシ。

和名 大橙色蟲生菌

二二　小丸橙色蟲生菌

Aschersonia Suzukii Miy. et Saw.

Miyabe, K. and K. Sawada. - On Fungi Parasit. on Scale Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of Agric., Tohoku Imper. Univ., Sapporo. Vol. V. Pt. 3. p. 80.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第九號、p. 131, 1914.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法、p. 217, 1914.

Hara, K. - 果樹病害論、附錄、p. 25, 1916.

SYN. Aschersonia Aleyrodis Webb.

Nishida, T. - 柑橘病害論、p. 80, 1907.

病原菌 子座ハ葉ノ兩面及枝梢上ニ生ズ半球狀乃至球狀ニシテ稍々圓錐狀又ハ切頭ヲナスモノアリ表面平滑又ハ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

疣狀突起ニ生シ赤橙色、紅橙色、朱色等ニシテ時ニ橙色ナルコトアリ直徑〇・七―四ミメ、普通一―二ミメ、アリ其基部ノ周圍ニ厚キ同色ノ緣座ヲ有スルモノアリ又之レヲ有セサルモノアリ、內部ハ外面ト同色ニシテ厚膜ナル菌絲（直徑三―六ミュー）ノ密ニ錯綜セルニヨリテ組成セラル

子殼ハ不現則ナル形ヲナシ一子座內ニ四―一六箇ヲ含ム其直徑一三〇―二七〇ミューアリ小孔又ハ裂孔ニヨリテ外面ニ開ク擔子梗ハ密ニ緊束セラレ絲狀ニシテ單條乃至三分岐シ大サ二二―五六×一ミューアリ、柄子ハ單胞、帶橙色乃至無色ニシテ紡錘形ヲナシ兩端銳頭、粘着性ニシテ大サ八―一一×二・五―三・五ミューアリ側糸ヲ缺ク

寄主

柑橘類（Citrus）及てりばざんせう（Fagara nitida）ノ葉枝上ニ寄生スルふとながかひがらむし（Coccus longulus Dougl.）ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十四年十月三日	藤黑與三郎
宜蘭廳蘇澳	大正二年五月十九日	澤田兼吉
嘉義廳鹿蔴產	明治四十二年十一月二十六日	南部詮雄
阿緱廳阿緱	明治四十一年十月二十八日	鈴木力治

分布　日本、臺灣

記事

一、本菌ノ若キモノニアリテハ子座ノ周圍ニ薄キ帶白色ヨリクリーム色、帶赤橙色ニ變化スル hypothallus ヲ作

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

リ後消滅又ハ子座ト同色ナル厚キ縁ヲ作ル

又子座ハ生標本ニアリテハ赤橙色、紅橙色、朱色等ナルモ古キ標本ニアリテハ帯橙黄褐色又ハ類似ノ色ヲ呈シ内部モ亦同色ニ變スルコト屢々ナリ、又柄子ハ古キ乾燥標本ニアリテハ無色ナルモ生標本ニアリテハ橙色ヲ帯ヒ又若キモノハ無色ナリ

二、本菌ハ爪哇産 Aschersonia Eugeniae Koord. ニ似タリ然レトモ子座ノ形及色彩、擔子梗ノ形及分岐、柄子ノ彎曲セサル點ニ於テ異レリ

三、西田藤次氏ハ氏ノ著柑橘病害論ニ本菌ヲ Aschersonia Aleyrodis Webb. 菌ニ當テタリ然レトモ後者ノ性狀（前出）トハ全ク異ルモノナリ

和名 小丸橙色蟲生菌

黑粉菌族 (Order Melanconiales.)

黑粉菌科 (Family Melanconiaceae.)

白單胞黑粉菌亞科 (Subfam. Hyalosporae.)

炭疽病菌屬 (Genus Gloeosporium.)

三三三・芎蕉炭疽病菌

Gloeosporium musarum Cke. et Mass.

Cooke, M. C. and G. Massee.-Grevillea. Vol. XVI. p. 3.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 461., 1892.
Cooke, M. C. - Handb. of Austral. Fungi. p. 363., 1892.
Massee, G. - Text Book of Plant Diseases. p. 428., 1899.
Delacroix. - Sur le Mode de Developt. du Champig. du "Noir des Bananes". (Bull. Myc. de France. Bd. XVIII.) 1902.
Lindau, G. - Handb. der Pflanzenkrankh. Bd. II. p. 414., 1908.
Bancroft, K. - Handb. of Fung. Diseases. of West Ind. Plants. p. 52., 1910.
Laubert. - Gloeosporiumfaule der Banane und die Gloeosporium und Phyllosticta Blattflecken Krankh. des Efeus. (Gartenflora. Bd. 59.) 1910.
Krueger, F. - Beitr. zur Kenntn. einiger Gloeosporien. (Arb. aus der Kaiserl. Biolog. Anst. fuer Land. - und Forst. Bd. IX. Heft. 2. p. 242.) 1913.
Sawada, K. - 臺灣ニ於ケル芎蕉ノ主ナル病害、（臺灣農事報、第75號、）1913.
Cook, M. T. - The Diseases of Tropical Plants. p. 135., 1913.

病徴 果實後熟ニ際シ又ハ成熟後果皮ニ無制限ニ擴カル所ノ暗色ノ大ナル病斑ヲ生シ其中央ヨリ淡紅色ノ粘質ノ粉末ヲ生シ漸次病斑ノ増大スルニ從ヒテ其粉末モ範圍ヲ廣メテ生ズ、遂ニハ果皮全ク暗色トナリテ腐朽シ果肉ハ飴色トナリテ遂ニ腐敗ス

病原菌 病斑上ニ生ズル淡紅色粘質ノ粉末ハ病原菌ノ胞子ニシテ胞子層ヨリ夥シク形成セラル、胞子層ハ病斑上

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ニ夥シク生シ初メ表皮下ニ生シ頓テ表皮破レテ裸出ス其直徑一四〇—二三〇ミューアリ擔子梗ハ胞子層ニ密ニ並列シ單條ニシテ短ク直立シ普通隔膜ヲ有セズ先端鈍頭ヲナシ無色大サ一二—二〇×三—四ミューアリ分生胞子ヲ頂生ス

分生胞子ハ圓柱狀長橢圓乃至短圓柱狀ニシテ直又ハ少シク彎曲シ兩端圓頭又ハ鈍頭ヲナスモノアリ單胞、無色、平滑ニシテ大サ一〇—二〇×四—六・五ミューアリ、子嚢胞子時代ハ未タ發見セラレズ

寄主植物

バナ、(*Musa sapientum* L.) ノ果實ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年八月十日	藤黑與三郎
同	同	明治四十四年八月二十二日	藤黑與三郎
同	同	大正元年十月十九日	澤田兼吉
同	同	大正二年七月二十一日	澤田兼吉
同	同	大正五年三月二十日	澤田兼吉

分布・北米合衆國、西印度諸島、南亞弗利加、印度、クイーンスランド、ニユーサウスヱールス、小笠原島、臺灣

記事

一、本菌ハ臺灣ノ何レノ地ニモ普ク分布シ特ニ店頭ノバナ、ニ此病斑ヲ生ズルモノ甚タ屢々之レヲ見ル內地東

京、神戸、大阪等ノ市場ニモ此病斑ヲ生ズルモノ多シ

二、本菌胞子ノ大サニ就テ Delacroix 氏ハ二一—二三×八ミュー Laubert 氏ハ九—一四×五—七ミュー Krüger 氏ハ一五—一七・五×四・六—六ミュー Saccardo 氏ハ一〇—一二×四—五ミュートセリ而シテ我菌ニアリテハ一〇—一二〇×四—六・五ミューアリ

病名

和名 芎蕉炭疽病、バナヽ炭疽病

英名 Banana Anthracnose.
Ripe Rot of Banana.
Ripe Fruit Rot of Banana.

佛名 Noir des Bananes

二二三 茶樹褐斑病菌

Gloeosporium Theae-sinensis Miyake.

- Miyake, I. - Tokio Bot. Magaz. Vol. XXI. p. 43., 1907.
- Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 440., 1910.
- Ideta, A. - 日本植物病理學、p. 678., 1911.
- Delacoix, G. et A. Maublanc. - Malad. des Plantes Cultiv. dans les Pays Chauds. p. 429, 1911.
- Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XXII. p. 1178., 1913.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Miyake, I. - Tokio Bot. Mag. Vol. XXVII. p. 51., 1913.
Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場、特別報告、第十一號、p. 119., 1915.

病徵　普通成長セル葉ニ現ハレ又若キ葉ヲモ侵スコトアリ病斑ハ多ク葉緣又ハ先端ヨリ現ハレ初メ褐色ニシテ漸次其大サヲ增シ形不規則トナリ又圓狀ニ擴カリ葉ノ半バヲ占ムルコトアリ之レヲ上面ヨリ見ルトキハ普通平カニシテ輪斑ヲ見ザレドモ時ニ之レヲ現ハスコトアリ然レドモ輪斑病(Pestalozzia Theae)ノ場合ノ如ク著シカラズ密ニ灰白色ノ細點ヲ生シ後此細點黒色トナル其配列ハ普通不規則ナレドモ時ニ稍々同心環狀ニ生ズルコトアリ葉枯病(Colletoritchum Camelliae)又ハ輪斑病(Pestalozzia Theae)ニ見ルヨリ小形ニシテ多數生ズルヲ以テ容易ニ肉眼的ニ區別シ得ベシ

病斑ハ古クナルニ從ヒテ灰色トナリ又範圍限定セラレタルモノニアリテハ其周圍ニ暗褐色ノ隆起線ヲ圍ラス葉裏ヨリ之レヲ見ルトキハ病斑ハ普通茶褐色ニシテ僅カニ黒點ヲ生ズルコトアリ本病ニ侵サレタル葉ハ遂ニ枯死落下ス殆ンド年中此發生ヲ見ル

病原菌　病斑上ニ生ズル黒點ハ胞子層ニシテ胞子層ハ初メ表皮下ニ生ジ後表皮破レテ裸出セラル其直徑五〇—一六〇ミューアリ短細ナル擔子梗ヲ密生ス、擔子梗ハ絲狀ニシテ直又ハ彎曲シ先端ニ狹マリ大サ五—九×一—二ミューアリ頂ニ分生胞子ヲ單生ス、分生胞子ハ無色、單胞、長楕圓狀乃至紡錘狀ニシテ兩端鈍頭二箇ノ油球ヲ含ミ大サ四—六×一・五—二・五ミューアリ粘着性ヲ帶ビ常ニ胞子層上ニ塊トナリテ集積ス

寄主植物
茶樹(Thea chinensis Sims.)ノ葉ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

外國ニ於ケル寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）

さざんくわ（Thea Sasanqua Nois.）

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳屈尺	明治四十一年七月十四日	藤黒與三郎
同　頂內埔庄	明治四十二年八月十三日	澤田兼吉
宜蘭廳坪林尾	明治四十一年二月二十六日	鈴木力治
新竹廳新埔	明治四十三年五月六日	藤黒與三郎
同　頭份林	明治四十三年五月五日	藤黒與三郎
同　鹿湖	明治四十年十一月三日	鈴木力治
南投廳魚池	明治四十年十月三十日	鈴木力治

分布　支那、日本、臺灣

記事

本菌ハ茶樹栽培地ニ普通ニ發見セラル、モ被害極メテ少ナシ

病名

和名　茶樹褐斑病

毛炭疽病菌屬（Genus Colletotrichum.）

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

三一四　シザル炭疽病菌

Colletotrichum Agaves Cav.

Cavara. - F. Longob. Exs. Pug. II. No. 100.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XI. p. 570., 1895.
Allescher, A.-Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VII. p. 555., 1903.
Bancroft, K. - Handb. of Fung. Diseases of West Ind. Plants. p. 47., 1910.
Hedgcock, G. G. - Disease of Cultiv. Agaves due to Colletotrichum. (XVI Ann. Rept. of Missouri Bot. Gard. p. 153.)
Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第八、（臺灣博物學會々報 第二十四號、）1916.
Suematsu, N. - シザルヘンプ病害ニ就テ（病蟲害雜誌、第四卷、第一號、p. 38.）1917.

SYN. Colletotrichum Agaves Sacc.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 444., 1910.

病徵　葉ヲ侵ス病斑ハ大小不同ニシテ凹陷シ暗褐色後漸次灰色トナル其表面ニ無數ノ黑色ナル細點ヲ生ス、病斑部ニ於ケル組織ハ腐朽シ纖維ハ褐色トナリテ切斷シ易ク製造用ニ供スベカラザルニ至ル

病原菌　死物寄生及活物寄生ヲナス胞子層ハ病斑ノ兩面ニ生スレトモ上面ニ多シ初メ表皮下ニ生シ後表皮ヲ破リテ裸出ス小疣狀ニシテ普通散生、時ニ同心輪狀ニ生スルコトアリ直徑普通二〇〇—四〇〇ミューアリ胞子層蓐ハ暗褐

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

色ニシテ上方ニ向ツテ淡色ナリ並列シテ組織狀ニ組成セラレ高サ一〇〇ミュー以上ニ達スルコトアリ、擔子梗ハ無色密ニ並列シ直徑三—四ミューアリ

胞子ハ無色單胞平滑直形ニシテ短圓柱狀乃至棍棒狀ヲナシ多クハ一端圓頭他端稍々鈍頭ヲナシ大サ一三—二三×四—七ミューアリ、胞子層ニ剛毛ヲ生ス剛毛ハ黃褐色乃至暗褐色ニシテ普通二—三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ五一—八四×三—五ミューアリ

寄主植物

シザルヘンプ (Agave rigida Mill. var. sisalana) ノ葉及龍舌蘭 (Agave americana L.) ノ葉

分布 伊太利、アンチグワ、獨領東亞弗利加、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳臺北	明治四十二年八月十八日	澤田兼吉
同　同	明治四十四年四月二十八日	澤田兼吉
同　同	大正五年二月十七日	金平亮三

記事

一、Agave 屬ニ寄生スル菌類ニシテ我菌ニ類似ノモノ二アリ一ハ Colletotrichum Agaves Cav. ニシテ他ハ Gloeosporium Agaves Syd. ナリ G. Agaves Syd. 菌ハ胞子ノ幅廣クシテ大サ二〇—三〇×七—九ミューアリトシ C. Agaves Cav. 菌ノ胞子ハ Cavara 氏ニ從ヘハ大サ二二—二六×四—五ミュー Hedgcock 氏ニ從ヘハ大サ一六—三一×五—六ミューアリ我菌ノ胞子ハ長サニ於テ Hedgcock 氏ノ三一ミューニ當ルモノナキモ幅ニ於テ

ハ Cavara 及 Hedgcock. 兩氏ノ記スル所ニ殆ント相伯仲セリ、又剛毛ハ Cavara 氏ニヨレハ九〇―一〇〇×五―六ミユーアリトシ Hedgcock 氏ニ從ヘハ一一〇―一七〇×五―六ミユーアリトセリ而シテ我菌ニアリテハ之レヲ有セザルモノアリ又有スルモノアリテ大サ五一―八四×三―五ミユーアリ余カ檢スル所ニヨレバ胞子ノ大小ハ胞子層ノ老若ニ關係アルモノノ如ク若キ胞子層ニ生スル胞子ハ幅比較的廣ク古キモノニ生スル胞子ハ幅狹キ傾アリ又剛毛ノ大小長短、有無モ亦胞子層ノ老若ニ伴フモノニシテ若キ胞子層ニハ屢々之レヲ缺キ古クナルニ從テ剛毛ヲ形成ス之レ本菌ニ於ケルノミナラス本屬ノ他ノ種類ニモ見ル事實ナリ、然ラハ Sydow 氏ノ Gloeosporium 菌ハ其若キ時代ナラサルカノ疑ヲ生スベキモ之レカ胞子ノ幅餘リニ廣ク余ハ我菌ト同樣ナラザルモノトシテ取扱ハントス而シテ我菌ハ胞子其他ノ大サニ於テ多少ノ差アル如キモ余ハ我菌ニ Colletotrichum Agaves Cav. ナル種名ヲ採用セントス

二、末松直次氏ハ病蟲害雜誌第四卷第一號ニ於テサイザルヘンプニ一種ノ病害アリ暴風雨後ニ殊ニ著シク發生シ葉面ニ初メ淡綠色乃至黃白色ノ病斑ヲ生シ漸次褐色黑褐色トナリ乾燥シテ縱皺ヲ生シ纖維ヲ害ス此病原菌ハ Colletotrichum Agaves Cav. ナリト記セリ

臺灣ニハ屢々斯ノ如キ一種ノ病害發生シテシザル栽培上ノ一問題トナリツヽアリ然ルニ此病害ハ決シテ Colletotrichum Agaves 菌ノ寄生ニヨリテノミ起ルモノニ非ス此病害ハ單ニ暴風雨ノミニ關係ナク雨後又ハ曇天引續後ニ起リ余カ十年間ノ觀察ニ於テハ南部臺灣ニ於テハ三月ヨリ八月ニ至ル間ニ發生シ北部臺灣ニ於テハ冬期ノミニ發生ス而シテ多クノ場合ニ於テハ必ス西方又ハ西南ノ方向ニ起リ北方又ハ東方ニ起ルコト殆ント之レヲ見ス是日射ニ關係ヲ有スルモノヽ如ク西南方ニ立木アリテ影ヲナス場合ハ其影ニ存在スル

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

株ニハ病斑ヲ作ラス日射ノ洩ル、場所ニ存在スル株ニハ少シク病斑ヲ生シ裸出セル株ニハ多クノ病斑ヲ生セシ事實ハ明カニ之レヲ證スルモノ、如ク思ハル

此病害ノ發生初期ヨリ病斑ノ經過ヲ觀察スルニ初メ葉上ニ淡綠黃色ノ不定形ナル斑紋ヲ生シ稍々凹凸アリ時日ヲ經ルニ從ヒテ病斑黃褐色トナリ猶褐色トナリテ著シク凹陷ス更ニ進ミテ病斑上ニ種々ノ黑點ヲ生シ猶進ミテ病斑乾燥シテ縱皺ヲ生シ猶進メハ褪色シテ灰褐色トナリ更ニ葉ノ組織腐朽シ去リテ纖維ヲ露出スルニ至ル而シテ此初期卽チ病斑カ淡綠黃色ニシテ未タ凹陷セサル場合ニ之レヲ檢スレハ柵狀及海綿狀組織ガ死シテ膨腫シ漸次水分ヲ失ヒテ萎凋ス、此時期ニ於テハ絕ヘテ菌糸、細菌其他ノ病原體ト認ムヘキモノヲ檢出シ得ス、次期卽チ病斑乾燥凹陷シ淡黃褐色又ハ褐色ヲ呈スル時期ニハ屢々細菌ノ夥シク發生スルヲ認ムルコトアリ然レトモ決シテ菌糸ノ存在ヲ認メ得ス、更ニ進メハ所々ニ病斑ト異レル色ノ斑點ヲ生シ來ルヘシ而シテ其場所ニハ初メテ菌糸ノ存在ヲ認ム其菌糸カ時日ヲ經ルニ從ヒテ黑點ヲ現ハシ胞子形成ノ時期ニ入ル其胞子ヲ取リテ檢スルニ時期ニヨリテ又箇々ノ病斑ニアリテ雜多ナル菌類ヲ發見ス又一病斑內ニモ種々異レル黑點群ヲ認ムルコト珍シトセス、是等同一期ニ發生セル病斑內ノ菌類ヲ檢スルニ Pleomassaria アリ Colletotrichum アリ Phyllosticta アリ其他ノ菌類モ共ニ存在シテ何レカ早ク生スルトモ定マラス發生ス、以上ノ事實ニヨレハ此病害ハ初メ何等カノ原因ニヨリテ起リ第二次ニ細菌發生シ又第二次及第三次ニ種々ノ菌類ノ發生スルモノナリ而シテ Colletotrichum 菌ノミカ大多數ノ場合ニ發生スル傾向ヲモ認ムヘカラス、卽チ此病害ハ Colletotrichum 菌ヲ病原トスルモノニ非ラサルヲ知ルヘシ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

和名　シザル炭疽病

二一五　苧麻斑點病菌（第十三圖版、一二―一四）

Colletotrichum Boehmeriae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第三、（臺灣博物學會々報、第十七號）一九一四

病徵　葉及莖ヲ侵ス病斑ハ散生シ葉ニアリテハ圓形灰色ニシテ周圍褐色ナリ直徑一―二ミメ、アリ莖ニアリテハ若キモノハ圓形又ハ楕圓形ヲナシ古キモノハ紡錘形ヲナシ灰色ニシテ周圍褐色ナリ屢々病斑縦ニ裂皮ス大サ一―六×〇・八―二ミメ、アリ

莖カ侵サルヽ時靭皮部害サルヽヲ以テ纖維褐色ニ着色シ漂白スルモ完全ニ脱色スルコト難ク且ツ其部分切レ易クシテ劣等品トナル屢々被害大ナルコトアリ

病原菌　活物寄生菌ニシテ寄主組織内ニ迷走スル菌絲ハ無色ニシテ直徑四ミュー アリ胞子層ハ甚ダ小形ニシテ剛毛ヲ介在ス

擔子梗ハ短クシテ密ニ並列シ胞子ハ無色短圓柱狀又ハ一端ニ稍々細キモノアリ兩端圓頭直形ニシテ微細ナル顆粒ヲ含ミ大サ一四―一九×四―五ミュー アリ

剛毛ハ暗褐色ニシテ先端ニ向ツテ漸細シ鋭頭ニ終リ一―二箇ノ隔膜ヲ有シ基部稍々膨大シ大サ四五―八五×四―五ミュー アリ

寄主植物

苧麻（Boehmeria nivea Bl.）ノ莖及葉ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　大正三年六月二十九日　井街顯

分布　臺灣

病名

和名　苧麻斑點病

二二六　茶樹葉枯病菌

Colletotrichum Camelliae Mass.

Massee, G. - Bull. Roy. Bot. Gardens, Kew. 1897.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVI. p. 1007., 1902.

Hennings, p. - Fungi Javanici Novi a cl. Prof. Dr. Zimmermann Coll. (Hedwigia. Bd. XLI. p. 147.) 1902.

Watt, G. and H. H. Mann. - The Pests and Blights of the Tea-Plants. P. 385., 1903.

Speschnew, N. N. von. - Die Pilzparasit. des Teestrauches. 1907.

Yoshino, K. - 茶樹ノ葉枯病（大日本農會報、第294號）

Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣農作物病害目錄、其一、p. 31., 1908.

Delacroix, G. et A. Maublanc. - Malad. des Plantes Cultiv. dans les Pays Chauds. p. 419., 1911.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場、特別報告、第十一號、p. 109., 1915.

病徵　概シテ成長セル葉ヲ侵シ時ニ新葉ヲモ襲フコトアリ故ニ主トシテ嫩葉ヲ侵ス所ノ茶樹腫葉病（Exobasidium

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

vexans）又ハ茶樹白黴病（Exobasidium reticulatum）ニ於ケルガ如キ被害ヲ見ス、病斑ハ普通葉縁ヨリ現ハレ又時ニ中央ヨリ生スルコトアリ新病斑ハ恰モ水分ヲ失ヒタル如ク淡緑色トナリ漸次其範圍ヲ廣ムルト同時ニ稍々古キ部分ハ褐色ニ變シ更ニ時期進メハ最古キ部分ヨリ灰色トナリ同心環ヲ現ハシ又之レヲ生セサルコトアリ又病斑ノ大サカ限定セラル、コトアリ又無定限ニ擴カリテ全葉ニ及フコトアリ大サ限定セラレタル病斑ハ健全部トノ境界ニ暗褐色ノ隆起線ヲ廻ラスヲ常トス、病斑ノ上面ニハ稍々輪斑狀ニ竝ヘル或ハ散生セル細點ヲ生ス此細點ハ病斑ト同色ナルコトアリ又黒色ナルコトアリ病斑ト同色ニ見ユル場合ハ胞子層上ノ被膜ノ未タ剝離セラレサル時ニシテ黒色ニ見ユルハ被膜剝離シテ胞子層ヲ裸出セルモノナリ葉裏ニ於ケル病斑ノ色ハ帶淡黄褐灰色ニシテ僅カニ胞子層ヲ形成スルコトアリ幼梢ヲ侵スコトアルモ極メテ稀ナリ

年中其發生ヲ見ルモ陰濕ナル場所ニ被害多シ

病原菌　胞子層ハ初メ寄主表皮下ニ生シテ表皮ヲ押上ゲ成熟スルニ從ヒテ表皮破レテ裸出セラル胞子層ハ黒色ヲ帶ヘル薄キ細胞層ヨリ成レル基盤ヨリ短キ擔子梗ヲ密生シテ成ル其所々又ハ其周圍ニ剛毛ヲ介在ス

胞子層ノ直徑ハ一五〇—三三〇ミユーアリ擔子梗ハ短クシテ單條隔膜ヲ有セス無色ニシテ大サ九—一八×三—五・五ミユーアリ其頂ニ分生胞子ヲ單生ス

分生胞子ハ長橢圓狀乃至圓柱狀ニシテ兩端圓頭又ハ一端鈍頭ヲナシ直又ハ僅カニ彎曲スルモノアリ單胞、無色平滑ニシテ内ニ微細ナル顆粒體及一箇ノ空胞ヲ含ミ大サ一〇—二〇×四—五・五ミユーアリ發芽スルトキハ概ネ一箇ノ中隔ヲ生シ其兩端ヨリ發芽管ヲ生ス

剛毛ハ普通一胞子層ニ數本アリ先端鋭頭乃至鈍頭ニシテ暗褐色ヲ帶ヒ一—三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ三〇—七二×四—五・五ミユーアリ

未ダ子囊胞子時代ヲ發見セス

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	頂雙溪	明治四十二年七月五日	藤黒與三郎
同	八堵	明治四十三年七月三日	藤黒與三郎
同	深坑	明治四十一年九月三十日	藤黒與三郎
同	頂內埔庄	明治四十年十二月二十一日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年三月二十五日	藤黒與三郎
同	八里坌埔	明治三十九年十二月二十七日	山田秀雄
桃園廳	安平鎮	明治三十九年十二月三十日	鈴木力治
新竹廳	斗換坪	明治四十三年五月三日	藤黒與三郎
同	三叉河	明治四十一年十月二十七日	鈴木力治
同	拐仔湖	明治四十三年四月三十日	藤黒與三郎
阿緱廳	港口	明治四十三年七月八日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

阿緱廳港口　明治四十四年十月七日　藤黒與三郎

分布　印度、錫蘭、爪哇、露西亞、日本、臺灣

病名

和名　茶樹葉枯病

英名　Brown Blight of Tea.

佛名　Anthracnose du Théier.

二一七　甘蔗赤腐病菌

Colletotrichum falcatum Went.

Miyake, T., N. Tsuru and S. Yasukawa. — 臺灣總督府民政部殖産局附屬糖業試驗場特別報告、第四號、一九一六

寄主植物

さとうきび (Saccharum officinarum L.)

臺灣ニ於ケル分布

全島各地

病名

和名　甘蔗赤腐病

二一八　柑橘炭疽病菌

Colletotrichum gloeosporioides Penz.

Penzig, O. - Fungi Agrumicoli. II. p. 6., 1882.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 735., 1884.

Mc Alpine, D. - Fung. Dis. of Citrus Trees in Australia. p. 102., 1899.

Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VII. p. 558., 1903.

Rolfs, P. H. - Wither Tip and Other Dis. of Citrus Trees and Fruits. (U. S. Dept. of Agric., Bureau of Plant Ind. Bull. 52.) 1904.

Hume, H. H. - Florida Agric. Expt. St. Bull. No. 74., 1904.

Duggar, B. M. - Fung. Diseases of Plants. p. 327., 1909.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Dis. of Econom. Plants. p. 189., 1910.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 444., 1910.

Bancroft, K. - Handb. of Fung. Dis. of West Ind. Plants. p. 49., 1910.

Rolfs, P. H. and H. S. Fawcett and B. F. Floyd. - Diseases of Citrus Fruits. (Univ. of Florida. Agric. Expt. St. Bull. 108.) 1911.

Fawcett, H. S. - Univ. of Florida Agric. Experiment St. Rept. for Fisc. Year ending June 30, 1911. p. 96.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Allen, W. J. - Citrus Culture. (Dept. of Agric. New South Wales. Farmer's Bull. No. 90. p. 91.) 1914.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法 p. 103, 1914.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十一、(臺灣博物學會々報、第二十七號、p. 253.) 1916.

Hara, K. - 果樹病害論、p. 274, 1916.

Penzig, O. - Mich. II. p. 450.

SYN. *Vermicularia gloeosporioides* Penz.

病徵 葉、幼莖、枝梢及果實ヲ侵ス、病斑ハ葉ニアリテハ概シテ緣邊ヨリ始マリテ圓狀ニ擴カリ全葉ニ及ホスコトアリ黃褐色ニシテ漸次古キ部分ヨリ灰色ニ變シ不明瞭ナル同心輪ヲ現ハシ其上面ニ黑點ヲ同心輪狀ニ又ハ一面ニ生シ又裏面ニモ生スルコトアリ病葉ハ落下ス

枝梢又ハ苗ノ莖ヲ侵ス時ハ病患部ハ褐色ニ變シ漸次中央灰色トナリ葉ニ於ケルト等シク病斑上ニ黑點ヲ同心輪狀又ハ一面ニ生シ局部以上ノ部分ハ遂ニ枯死スルニ至ル

病原菌 活物寄生ヲナシ胞子層ハ黑色ニシテ稍々密生シ同心輪狀ニ又ハ一面ニ生ス、剛毛ハ暗褐色ニシテ頂端ニ向ッテ漸細シ一—三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ三二—八〇×三・五—五ミューアリ、擔子梗ハ密ニ並列シ無色圓柱狀ニシテ短ク大サ一二—一八×四—四・五ミューアリ胞子ハ長楕圓乃至圓柱狀ニシテ直形、無色、單胞、兩端圓頭又ハ一端鈍頭ヲナスモノアリ微細ナル顆粒ヲ含ミ大サ一二—二三×四—六ミューアリ

寄主植物

夏橙 (Citrus Natsudaidai Hay.)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ざぼん (Citrus Sabon Sieb.)
文旦 (Citrus grandis Osb. form. Buntan.)
雪柑 (Citrus sinensis Osb. form. Sekkan.)
佛手柑 (Citrus medica L. var. sarcodactylis Sw.)
等ノ葉、枝梢、莖、果實等ニ寄生ス

分布 伊太利、北米合衆國、西印度、濠洲、日本、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	（雪柑）	明治四十一年一月二十七日	鈴木力治
同　公館	（夏橙）	大正二年十一月二十五日	藤黑與三郎
同　臺北	（佛手柑）	明治四十二年八月二十四日	澤田兼吉
同　和尚州	（雪柑）	明治四十一年一月十三日	藤黑與三郎
同　樹林坑	（ざぼん）	大正六年五月二十九日	澤田兼吉
同　士林	（文旦）	明治四十四年三月五日	澤田兼吉
同　同	（文旦）	明治四十四年五月五日	澤田兼吉
同　同	（文旦）	大正三年五月七日	澤田兼吉

記事

一、Penzig氏ニ從ヘハ剛毛ハ大サ四〇—九〇×五—六ミュー擔子梗ハ大サ一八—二五×四—五ミュー胞子ハ一六—一

八×四—六ミューアリトシ Mc Alpine氏ニ從ヘハ剛毛ノ大サハ四〇×四ミュー擔子梗ノ大サハ一三—一八×四—四・五ミュー胞子ノ大サハ一二—二三×四—六ミューアリトシ我菌ニアリテハ剛毛ノ大サ三二—八〇×三・五—五四・五ミュー擔子梗ノ大サ一二—一八×四—四・五ミュー胞子ノ大サ一二—二三×四—六ミューアリ是等三者ハ大體ニ於テ殆ント相近シ而シテ剛毛ハMc Alpine氏ノ記スルモノカ小形ノ如クナレトモ稍々若キ胞子層ヨリ得タルモノナルヘク又胞子ハ我菌ニ於テ長キ如ク思ハルヽモ我菌ノ普通形胞子ノ大サハ兩氏ノ記スル所ニ一致ス

本菌ハ文旦類ヲ侵スコト多クシテ屢々苗ヲ枯損セシム

病名

和名 柑橘炭疽病

英名 Leaf Spot of Citrus Tree, Wither Tip of Citrus Tree, Citrus Anthracnose.

二一九 アンバリヘンプ腐爛病菌

Colletotrichum Hibisci Pollacci.

Fujikuro: Y. ト アンバリヘンプ腐爛病ニ就テ(臺灣農事報第六十五號、一三頁)一九一二

寄主植物

アンバリヘンプ (Hibiscus cannabinus L.) ノ莖及葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北

病名

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

和名　アンバリヘンプ腐爛病

三三〇　高粱黒點葉枯病菌

Colletotrichum Lineola Corda.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 736., 1884.

Allescher, A. - Rabh. Kryptogamenflora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VII. p. 556., 1903.

SYN. Colletotrichum falcatum Went.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Econom. Plants. p. 364., 1910.

SYN. Colletotrichum graminicolum (Ces.) Wils.

Butler, E. J. - Fungi and Disease in Plants. p. 217., 1918.

病徴　葉及穂軸ヲ侵シ極メテ普通ニ起ル病害ナリトス、葉ニアリテハ其何レノ部分ヲ選ハス初メ帶褐紫色ノ小斑點ヲ生シ日ヲ徑ルニ從ヒテ漸次其大サヲ増シ紡錘狀又ハ種々ノ形トナリ中央褪色ス故ニ病斑ハ周圍帶褐紫色ヲナシ中央淡ク又ハ藁色トナリ其部分ノ表裏兩面ニ黒色ノ細點ヲ群生ス、中肋ニ生シタル場合ハ病斑上面ニ生シ紡錘形ニシテ甚タ明瞭ナリ長サ普通一五―三〇ミメ、幅五ミメアリテ稍々同心環狀ニ黒點ヲ生ス

又穂軸ヲ侵ス場合ハ初メ小形ナル濃褐紫色ノ病斑ヲ生スルモ遂ニハ軸ノ周圍ヲ繞リ多量ノ子實層ヲ形成シテ黒粉ヲ布ケル如キ觀ヲ呈シ登實ヲ妨ク

普通下葉ヨリ起リテ漸次上葉ニ傳染シ葉ハ紫色ニ變シ遂ニハ乾枯ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病原菌　病斑上ノ黒點ハ子實層ニシテ子實層ニハ無數ノ剛毛ヲ生ス、剛毛ハ基部膨大シテ先端ニ向ッテ漸細シ鋭尖ニ終リ暗褐色ニシテ三―七箇ノ隔膜ヲ有シ大サ七五―一六〇×三・五―七ミューアリ

擔子梗ハ甚タ短クシテ無色隔膜ナク大サ一二―一六×三―四ミューアリ、其頂ニ分生胞子ヲ單生ス、分生胞子ハ鎌狀ニシテ兩端鋭尖、無色、單胞、平滑ニシテ大サ二〇―二八×三―六ミューアリ

寄主植物

高粱（Andropogon Sorghum Brot.）

箒蜀黍（Andropogon Sorghum Brot. var. obovatus Hack.）

蘆粟（Andropogon Sorghum Brot. var. vulgaris, subsp. japonicus Hack.）ノ葉及穗軸ニ寄生ス

外國ニ於ケル寄主植物

Sorghum halepense L.

S. saccharatum Mich.

S. vulgare Pers.

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄		明治四十一年八月十八日	藤黒與三郎
同		明治四十一年八月二十七日	藤黒與三郎
同	同	明治四十二年七月二十日	藤黒與三郎
同	同	明治四十二年十月五日	藤黒與三郎

臺北廳	頂內埔庄	明治四十二年十月十六日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年十月二十六日	藤黑與三郎
同	同	大正二年六月二十七日	藤黑與三郎
同	同	大正三年五月二十七日	藤黑與三郎
同	古亭庄	明治四十年七月十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十一年六月二十一日	藤黑與三郎
同	六張犁	明治四十年七月九日	鈴木力治
同	溪州庄	明治四十年七月三十一日	白玉光
同	同	明治四十一年九月十二日	趙登旺
同	深坑	明治四十一年七月十二日	藤黑與三郎
同	石碇	明治四十一年七月十一日	藤黑與三郎
同	ウライ社	明治四十二年九月五日	澤田兼吉
宜蘭廳	四結	明治四十年七月十八日	鈴木力治
花蓮港廳	馬太鞍	明治四十四年六月一日	澤田兼吉
同	璞石閣	明治四十四年五月三十日	澤田兼吉

分布 伊太利、ルイジアナ、サウスカロリナ、印度、臺灣

病名

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

和名　高粱黒點葉枯病

英名　Red leaf spot of Jowar.

Anthracnose of Sorghum.

二三一　くろとんのき炭疽病菌（第十三圖版、十五―十六）

Colletotrichum Sorauerianum (Allesch.) Hori.

Hori, S. - 園藝の友、第九卷、第十號、1913.

Hori, S. - 植物病害講話、第二編、p. 157., 1916.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十三、（臺灣博物學會々報、第三十號、）1917.

SYN. *Gloeosporium Sorauerianum Allesch.*

Allescher, A. - Zeitschrift fuer Pflanzenkrankh. p. 276., 1895.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XIV. p. 1009., 1899.

病徴　葉ヲ侵シ病斑ハ葉ノ先端又ハ縁邊ヨリ起ルコト多ク褐色後漸次ニ灰色トナリ限界ナク廣カル病斑ノ上面ニ一面ニ黒點ヲ生シ時ニ裏面ニモ生スルコトアリクロトンノキカ寒害又ハ旱害其他ノ事情ニヨリテ葉ノ枯死ニ瀕セル場合ニ多ク發生ス

病原菌　胞子層ハ初メ表皮下ニ生シ黄褐色水泡状ヲナシ後表皮破レテ裸出セラレ黒色トナル直徑普通一八〇―二三〇ミューアリ

擔子梗ハ短圓柱状圓頭ニシテ大サ九―一五×四―五ミューアリテ密ニ並列ス胞子層蓐ハ暗褐色ニシテ菌糸密ニ錯綜

シテ成ル剛毛ハ牛角狀ヲナシ暗黒色ニシテ先端ニ向ツテ稍々淡色トナリ普通一箇ノ隔膜ヲ有シ大サ三〇―三五×四―五・五ミユーアリ、胞子ハ圓柱狀長楕圓ニシテ兩端圓頭、無色單胞、二箇ノ油球ヲ含ミ又數多ノ顆粒ヲ含ミ大サ一六―一九×四・五―七ミユーアリ葉ノ組織內ヲ迷走スル菌糸ハ無色糸狀ニシテ分枝シ隔膜ヲ有シ直徑三・五―四ミユーアリ

寄主植物

クロトンノキ（Codiaeum variegatum (L.) Bl.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正六年二月二十四日　澤田兼吉

分布　日本、臺灣、獨逸、小笠原島

病名

和名　くろとんの炭疽病

二三三　菠薐草炭疽病菌

Colletotrichum Spinaciae Ell. et Halst.

Ellis, J. B. and B. D. Halsted. - Journ. Myc. 1890. p. 34.
Ellis, J. B. and B. D. Halsted. - Bull. New Jersey Agric. Expt. St. No. 70 p. 6.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 469., 1892.
Massee, G. - Dis. of Cultiv. Plants and Trees. p. 445., 1910.
Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Dis. of Econom. Plants. p. 286., 1910.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第八、(臺灣博物學會々報、第二十四號、) 1916.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ圓狀ニシテ乾燥凹陷シ淡黃褐色後猶褪色シテ灰白色トナル直徑一―五ミ、メ、普通三ミ、メ、ニシテ一葉上ニ數十ノ病斑ヲ作ルコト常ナリ

病斑ハ互ニ相融合シ葉ハ黃變衰弱シ食用ニ供スヘカラサルニ至ル陰濕ナル時ニ被害多シ

病原菌 胞子層ハ病斑ノ裏面ニ生シ時ニ上面ニモ生スルコトアリ小黑點トシテ現ハレ一病斑上ニ十數箇ヲ生スルヲ普通トス

剛毛ハ一胞子層ニ普通數本ヲ生シ暗黑色ニシテ殆ント隔膜數ヲ辨セサルコトアリ、頂端ニ向ツテ色淡ク基端少シク膨大シ頂端銳尖直立シテ長シ二―三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ七二―一四二×四―五ミューアリ

擔子梗ハ無色ニシテ隔膜ヲ有セス大サ二〇―三二×三―四ミューアリ、胞子ハ三日月形、紡錘狀等ニシテ直又ハ稍々彎曲シ兩端鈍頭、無色、單胞、中央ニ一空胞ヲ有シ猶微細ナル顆粒ヲ含ミ大サ一八―二五×三―四ミューアリ

寄主植物

ほうれんさう (Spinacia oleracea Mill.) ノ葉ニ寄生ス

分布 北米合衆國 (New Jersey.) 日本、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	大正五年二月十六日	藤黑與三郎
同 同	大正五年二月二十二日	澤田兼吉
花蓮港廳花蓮港	明治四十二年五月八日	澤田兼吉

病名

和名 菠薐草炭疽病

英名 Spinach anthracnose.

白双胞黑粉菌亞科 (Subfam. Hyalodidymae.)

マルッソニア屬 (Genus Marssonia.)

二三三 莓葉枯病菌

Marssonia Potentillae (Desm.) Fisch.

Fischer, A. - Rabh. Fung. Europ. No. 1857.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 770., 1884.

Allescher, A. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VII. p. 607., 1903.

Stevens, F. L. - Fungi which cause Plant Dis. p. 555., 1913.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十二、（臺灣博物學會々報、第二十九號、）1917.

SYN. *Phyllosticta Potentillae Desm.*

Desmazieres. - Ann. Sc. Nat. VIII. p. 31., 1873.

SYN. *Gloeosporium Potentillae Desm. et Oud.*

Oudemans, C. A. J. A. - Hedwigia. Bd. XII. p. 158., 1873.

病徵　葉ヲ侵シ病斑ハ一葉上ニ數多生シ暗紫褐色ニシテ不規則ナル形ヲナシ普通直徑二―六ミメ、アリ漸次大形トナリ數多生セル葉ハ全面暗褐色トナリ後黃褐色トナリテ枯死ス、而シテ病斑ノ上面ニ黑色ノ小點ヲ散生シ又裏面ニモ生スルコトアリ臺灣ニ於テハ冬季盛ンニ發生ス

病原菌　胞子層ハ葉ノ上面ニ生シ時ニ裏面ニモ生スルコトアリ黑色ニシテ散生シ初メ表皮下ニ生スルモ後表皮破レテ裸出セラル直徑一二〇―二〇〇ミューアリ

擔子梗ハ甚タ短クシテ殆ント無柄ニ胞子ヲ形成セル如ク見ユ

分生胞子ハ無色鎌狀ニシテ一箇稀ニ二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ稍々縊ヲナシ上方ノ細胞ハ下方ノ細胞ヨリ稍々大ニシテ普通甚シク彎曲シテ短牛角狀ヲナシ先端銳尖ナリ基部ノ細胞ハ普通直ニシテ基端ニ挾マル胞子ノ大サハ一六―三六×六―八ミューアリ

寄主組織內ニ迷走スル菌絲ハ無色ニシテ直徑二―四ミューアリ

寄主植物

おらんだいちご (Fragaria chilensis Ehrh. var. Ananassa Duch.) ノ葉ニ寄生ス

分布　獨逸、佛蘭西、白耳義、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正六年二月十六日　澤田兼吉

記事

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

一、Fischer 氏ニ從ヘハ胞子ハ大サ二〇―二五×七―九ミューアリトシ又 Oudemans 氏ニ從ヘハ胞子ハ一五―二三×五―七ミューアリトセリ我菌ニアリテハ大サ一六―二五×六―八ミュー普通二〇―二六×六―七ミューアリテ甚タ近シ

二、Marssonia Potentillae 菌ハ元 Potentilla 屬植物ニ發見セラレタルモノナレトモ Stevens 氏ニ從ヘハ歐洲ニ於テおらんだいちごニ寄生スト云フ

三、Saccardo 氏ニ從ヘハ西比利亞ニ於テ Fragaria vesca ニ寄生スル菌ハ胞子小形(一八×五―六ミュー)ナルヲ以テ var. Fragariae Sacc. ナル變種名ヲ與ヘタリ我菌ノ胞子ハ之レヨリ大形ニシテ却ツテ M. Potentillae ノ記載ニ一致ス

病名

和名 苺葉枯病

黑多胞黑粉菌亞科(Subfam. Phaeophragmiae.)

頭毛菌屬(Genus Pestalozzia.)

二三四 稻頭毛菌

Pestalozzia Kawakamii Sawada.

Sawada, K. ― 臺灣農事報、第六十三號、一五頁、一九一二

病徵及病原菌 陸稻ノ葉ニ現ハレ極メテ稀ニ見ルモノナリ病斑ハ大形不正形ニシテ周邊濃褐色、中央褪色シテ槀

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

又ハ灰色ヲ帯ヒ其處ニ微細ナル黒點ヲ散生ス

胞子層ハ初メ表皮下ニ生シ壺狀ニシテ暗褐色ナレトモ漸次表皮破レテ胞子ヲ溢出ス胞子塊ハ黒色ナリ

胞子ハ紡錘形ニシテ五胞ヨリ成リ兩端ノ細胞ハ無色ニシテ中央ノ三胞ハ煤色ヲナセリ、頂端ノ細胞ノ頂ニ二三稀ニ四本ノ毛ヲ具フ毛ハ先端鋭尖ニシテ長サ五―一〇ミュー アリ又基端ノ細胞ニハ擔子梗ヲ附着ス、擔子梗ハ甚タ細クシテ長サ二―三・五ミュー アリ胞子ノ全長二〇―二四ミュー 幅四―五ミュー アリ而シテ其煤色ナル三細胞ノ全長一〇―一七ミュー アリ、胞子ヲ水中ニ置クトキハ煤色細胞ノ基部ノ一細胞ハ先ツ球狀ニ膨大シ光線ヲ屈折セシメ一乃至三本ノ發芽管ヲ抽出ス

寄主植物

陸稻 (*Oryza sativa* L.) ノ葉ヲ侵ス

臺灣ニ於ケル分布

新竹廳食水坑　明治四十一年八月十三日　川上瀧彌

分布　臺灣

和名　稻頭毛菌

二二五　茶樹雲紋病菌

Pestalozzia palmarum Cooke.

Cooke, M. C. Grevillia. t. 86.

Bernard, Ch. - Sur Quelque Malad. de Thea assamica, et Kichxia elastica. et de Hevea brasil. (Bull.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

du Dept. de L'Agric. aux Ind. Neerl. No. VI. p. 1.) 1907.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. III. p. 796., 1884.
Sawada, K. - 臺灣ニ於ケル茶樹ノ病害、（臺灣博物學會々報、第九號、p. 13.）1913.
Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第三、（臺灣博物學會々報、第十七號、）1914.
Sawada, K. - 臺灣産茶樹ノ菌類ニアリテ起ル病害、（臺灣總督府農事試驗場、特別報告、第十一號、）p. 128.）1915.

病徵

一、茶樹ノ場合

葉ヲ侵シ病斑ハ形不規則又ハ圓狀ニ擴ガリ屢々同心圈ヲ畫クコトアリ褐色ニシテ後古キ部分ヨリ灰色トナリ其上面ニ黑色ノ細點ヲ生ス

一、椰子ノ場合

葉及葉鞘ヲ侵ス病斑ハ大形ニシテ灰褐色乃至褐色ニシテ其上面ニ黑色ノ細點ヲ生ス

病原菌　胞子層ハ初メ表皮下ニ生シ球狀乃至扁球狀ヲナシ後表皮破レテ壺狀トナル大サ一〇〇—一二〇×一四〇—二〇〇ミュー アリ其底部ニハ無數ノ短細ナル擔子梗密生シ其各頂端ニ胞子ヲ形成ス

胞子ハ倒卵狀紡錘形ニシテ稍々彎曲セルモノ多ク一七—二五×六—八ミュー アリ四個ノ横隔ヲ有シ中央ノ三胞ハ暗色ニシテ其ノ部分ノ大サ一二—一六×六—八ミュー アリテ其暗色ナル細胞ノ内上方ノ二胞ハ下方ノ一胞ヨリ色濃シ而シテ胞子ノ兩端ノ細胞ハ無色ニシテ三角形ヲナシ其基端ノ細胞ハ胞子柄ヲ附着ス其胞子柄ノ長サハ四—六ミュー

幅一ミューアリ又頂端ノ細胞ノ頂ニハ三本ノ毛ヲ具フ毛ハ無色絲狀ニシテ先端鋭尖大サ一二―三〇×一―一・五ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉及

椰子（Cocos nucifera L.）ノ葉及葉鞘ニ寄生ス

分布　印度、爪哇、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂双溪（茶）　明治四十二年七月五日　藤黒與三郎

阿緱廳蕃薯寮（椰子）大正三年七月五日

記事

本菌ハ初メCooke氏カデメラ、及ベンゴールニ於テ椰子ノ發芽セルモノ及枯葉上ニ發見シタルモノニPestalozzia Palmarum Cooke.ト命名セシカ後西暦一九〇七年 Bernard 氏ハ爪哇ニ於テ若キ椰子ノ葉上ニ發見シ又茶樹ノ葉上ニ發見シ是等ノ比較研究ヲ行ヒ同一ノ菌類ナルヲ確メタリ

病名

和名　茶樹雲紋病、椰子葉枯病

二二六　茶樹輪斑病菌

Pestalozzia Theae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十一號、一一二頁、一九一五

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病徵　普通充分生長セル葉ニ現ハレ又時ニ若キ葉ヲモ侵ス事アリ病斑ハ葉緣又ハ葉ノ先端ヨリ起ルコト多ク初メ褐色ニシテ古キ部分ハ灰色トナル卽チ病斑ノ中央部ハ灰色、周圍ハ褐色ナリ普通直徑一セ、メ、ニシテ又葉ノ半以上ヲ占ムルコトアリ病斑ノ上面ハ常ニ同心輪斑ヲ現ハシ同心輪狀ニ並ヘル或ハ散生セル細點ヲ生ス此細點ハ初メ病斑ノ色ト等シキモ後黑色トナリ又ハ黑汁ヲ溢出ス之レ胞子層ナリ、病斑ヲ葉裏ヨリ見ル時ハ帶淡黃褐灰色ニシテ平坦又ハ輪斑ヲ示ス事アリ上面ト等シク黑點ヲ散生スルコトアレトモ上面ニ比スレハ頗ル少數ナリ又病斑ノ境界限定セラル、コトアリ此場合ニ於テハ葉枯病（Colletotrichum Camelliae）ト等シク周圍ニ暗褐色ノ隆起線ヲ周ラス本病菌ニ侵サレタル葉ハ遂ニ落下又ハ病斑ノ古キ部分ヨリ破壞セラル

病原菌　菌絲ハ寄主組織ヲ貫通シ無色分岐シ直徑二・五―三ミユーアリ胞子層ハ病斑上ニ細點トシテ現ハレ初メ表皮下ニ生シ後表皮破レテ胞子ヲ溢出シ遂ニハ全ク表皮剝離シテ胞子層ヲ裸出スルニ至ル

擔子梗ハ單條短細ニシテ密生シ其頂ニ分生胞子ヲ單生ス胞子脫落スルトキハ常ニ擔子梗ヲモ伴ヘリ

分生胞子ハ紡錘形ニシテ常ニ四箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ多クハ縊ヲ有セス、中央ニ位スル三胞ハ一樣ニ暗褐色ヲ帶ヒ兩端ノ二胞ハ無色ナリ、而シテ上端ノ細胞ノ頂ニハ三又ハ四箇ノ長キ無色纎細ナル毛ヲ具ヘ下端ノ細胞ニハ無色ナル細キ擔子梗ヲ附着ス、分生胞子ノ大サハ二三―三一×五・五―八ミユーアリ又着色部ノ長サハ一六―二一ミユーアリ兩端ノ無色ナル細胞ハ共ニ大サ稍々等シク長サ四―六ミユーアリ毛ハ無色ニシテ隔膜ナク大サ二八―三六×一―二ミユーアリテ其頂端稍々膨大シテ圓頭ヲナス、擔子梗ハ絲狀ニシテ直、大サ四―九×一ミユーアリ胞子發芽スルトキハ着色細胞ハ箇々球狀ニ膨大シテ各細胞ヨリ發芽管ヲ生ス

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）及アッサム茶（Thea assamica）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳瑞芳	明治四十三年七月四日	藤黑與三郎
同　屈尺	明治四十一年七月十四日	藤黑與三郎
同　木柵	明治四十一年九月三十日	藤黑與三郎
同　新店	明治四十一年七月十五日	藤黑與三郎
同　鯉魚窟	明治四十一年七月十三日	藤黑與三郎
同　北勢湖	明治四十年七月九日	鈴木力治
同　頂內埔庄	明治四十年十一月九日	藤黑與三郎
同　同	明治四十一年四月十七日	藤黑與三郎
同　同	明治四十一年十二月十九日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年十一月三十日	藤黑與三郎
同　同	明治四十三年五月四日	澤田兼吉
桃園廳欽仔庄	明治四十一年八月二十一日	澤田兼吉 藤黑與三郎
同　銅鑼圈	明治四十一年八月二十日	藤黑與三郎

桃園廳安平鎮	明治四十年十月十三日	鈴木力治
同　同	明治四十一年八月二十日	澤田兼吉 藤黒與三郎
新竹廳新埔	明治四十三年五月六日	藤黒與三郎
同　三叉河	明治四十年十一月四日	鈴木力治
臺中廳公館	明治四十四年八月八日	藤黒與三郎
南投廳魚池	明治四十年十月三十日	鈴木力治
同　埔里社	明治四十三年十月十二日	澤田兼吉
阿緱廳港口	明治四十三年七月八日	澤田兼吉

分布 印度、馬來、爪哇、錫蘭、臺灣

記事

一、印度方面ニ於テ Pestalozzia Guipini Desm. 菌ニヨリテ起ル Gray Blight ナル茶ノ病害アリ、我病菌ニヨリテ起ル輪斑病ト殆ント互ニ相似タリ川上瀧彌氏ガ印度南洋方面旅行ノ際、印度、馬來、爪哇ヨリ採集セシ標本ニシテ印度駐在ノ菌類學者 Butler 氏ノ鑑定ニヨリ正シク Gray Blight ナリト證セラレタルモノヲ檢スルニ其病徵及病原菌ハ我菌ト全ク符合セリ、卽チ印度方面ニ發生スル Gray Blight ナル病害ハ我輪斑病ト等シキモノナルヲ知レリ

二、我菌ハ Pestalozzia Guipini Desm. 菌ノ記載ト全ク異ナリ又宮部博士ノ厚意ニヨリテ北米合衆國產 Cranberry ニ寄生セル Farlow 氏鑑定ノ Pestalozzia Guipini 菌ヲ檢シタルニ我菌ト全ク異レリ、又更ニ川上瀧彌氏ノ

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

印度及南洋方面ノ此 Gray Blight ノ病斑中ニ Pestalozzia Guipini 菌ノ記載ニ符合スヘキ菌類ヲ發見シ得サリキ

是等ノ事實ハ P. Guipini 菌カ茶樹ノ Gray Blight ヲ起ス病原ニ非ラサルヲ知ルト同時ニ此 Gray Blight ハ我菌ニヨリテ起ルコトヲ知ルヘキナリ

病名

和名 茶樹輪斑病

英名 Gray Blight of Tea plant.

佛名 Maladie de la tache grise du Theier.

糸狀菌族 (Order Hyphomycetes.)

白糸菌科 (Family Mucedineae.)

單胞白糸菌亞科 (Subfam. Hyalosporae.)

灰色黴列 (Genus-group Botrytideae.)

灰色黴屬 (Genus Botrytis.)

二二七 蠶白殭病菌（第十三圖版、二二三—二二七）

Botrytis Bassiana Bals.

Balsanocrivelli, G. - Robin Veg. Parasit. p. 560., 1853.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 119., 1886.

Lindau, G. - Rabh. Kryptog. - Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. VIII. p. 275., 1907.

Sawada, K. - 松蛅蟖驅除ニ寄生菌ノ利用、（臺灣農事報、第百〇二號）1915.

病徵及病原菌　昆蟲ノ幼蟲ハ初メ食慾減シテ遂ニ斃死シ其體ノ外面ニ白粉ヲ以テ被ハル、ニ至リ恰モうどん粉ニテ作レル圓柱形塊ノ如キ狀トナル

擔子梗ハ纖細ニシテ長ク直徑二―三・五ミューアリ疎ニ隔膜ヲ有シ分枝ス其分枝ハ普通ノ分岐ヲナスモノアリ又二菌絲カ一短橫線ニテ結付ケラレタル如ク分枝スルモノアリ又稀ニ數本ノ短橫線ニテ結付ケラレタル如ク分枝スルモノアリ

幾段トナク胞子塊ヲ生シ其狀恰モ團子ヲ緩ク串ニ貫キタル狀ヲナス其胞子塊ハ直徑二五―五五ミューアリ稍々分散セシムヘキ方法ニヨリテ之レヲ檢スレハ其胞子塊ハ擔子梗ノ一節ヨリ一―三箇ノ球狀ナル疣（直徑三―四ミュー）ヲ生シ其疣ヨリ更ニ其周圍ニ數箇ノ疣（直徑二―三ミュー）ヲ生シ一回乃至二回反覆シ其最外部ノ疣ノ頂端ハ數度屈曲セル絲狀ノ小梗トナル

小梗ハ長サ五―一七ミューアリテ數箇乃至十數箇ノ分生胞子ヲ着生スル如ク微細ナル小突起ヲ生シ其頂ニ各々一箇ノ胞子ヲ形成ス

分生胞子ハ球形、無色、單胞、平滑ニシテ直徑一・七―三・五ミューアリ、之レヲ發芽セシムレハ發芽管ヲ生ス直徑一・五―二ミューアリ或ルモノハ其頂ニ近ク數箇ノ小生子ヲ無柄ニ形成ス小生子ハ橢圓形乃至長橢圓狀圓柱狀ヲナス

寄主

まつかれは（Dendrolinus Pini L.）

蠶（Bombyx mori L.）

いちぢくかさん（Ocinara varians Wlk.）

すかしどくが（Perina nuda Fab.）

さつまいものめいが（Zinchenia fascialis Cram.）等ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正四年三月八日　澤田兼吉

分布　獨逸、佛蘭西、伊太利、和蘭、ハンガリー、北亞米利加、日本、支那、臺灣

記事

一、まつかれはカ野外ニテ本菌ニ侵サレテ斃死セルモノヲ取リ來リテソレヨリ本菌ノ純粹培養ヲ得テ其胞子ヲ室內ニテまつかれはノ幼蟲ニ撒布シ四十時間濕氣ヲ與ヘ置キシニ接種四日目ヨリ病狀ヲ呈シ六日目ニシテ斃死シ八、九日目ニハ全數斃死シ十日目頃ヨリ夥シク胞子ヲ形成セリ、而シテ假令結繭セシモノニアリテモ蛹ハ悉ク死シ本菌ノ胞子ヲ生セリ

又野外ニテ霖雨アルトキ純粹培養ヲナシテ得タル胞子ヲ水ニ混シ噴霧器ヲ以テ蟲體ニ撒布シタルニ殆ント前記同樣ノ結果ヲ得タリ

又更ニ室內ニテ蠶兒ニ接種セシニ七日目ニシテ斃死シ始メ十日目ニシテ全數斃死シ頓テ蠶白殭病ト全ク等

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

シキ狀態ヲ示セリ、又更ニいちゃくかさんニ接種セシニ十五匹中約四割ハ本菌ニ侵サレテ斃死シ充分胞子ヲ形成セリ

又すかしどくがノ幼蟲ニ接種シタリシニ約二割五分ハ本菌ニ侵サレテ斃死シ胞子ヲ形成セリ

二、蠶ノ白彊病菌ヲ純粹培養ヲナシまつかれはノ幼蟲ニ接種セシニ五日目ニシテ死シ六日目ニシテ胞子ヲ形成セリ

三、本菌ヲ肉汁ペプトン寒天斜面培養基ニ培養セシニ八日目ニシテ菌絲一面ニ廣カリテ胞子ヲ形成セリ、試驗管一本内ニ生成スル胞子ノ量ハ〇・〇五グラムアリタリ

又菜豆煎汁寒天斜面培養基ニ培養スレハ九日目ニシテ培養基面一面ニ菌絲擴カリテ夥シク胞子ヲ形成セリ

又甘藷片培養基ニ之レヲ培養セシニ八日目ニシテ培養基面一面ニ菌絲擴カリ夥シク胞子ヲ形成セリ

四、蠶白彊病菌ヲ同上培養基ニ培養セシニ何レモ同樣ノ發育ヲ遂ケタリ

五、本菌ハ蠶ノ白彊病菌ト形態、培養、接種ノ結果等全ク同種ナルヲ證セリ

六、本菌ノ胞子ヲシャーレーニ入レ朝ヨリ日沒マテ直接日射ヲ與フルモ死滅スルコトナシ

七、本菌ヲ以テ松蛅蟖ヲ驅除スレハ充分ナル效果ヲ擧ケ得ルモ養蠶ヲ行フ地方ニテハ本菌ノ供用ハ危險ナリ

病名

和名 まつかれは白彊病

蠶白彊病

二二八　灰色菌

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Botrytis cinerea Pers.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 129., 1886.
Humphrey, J. E. - Mass. Rept. 1892. p. 219.
Jones, L. R. - Vt. Rept. V. p. 141., 1892.
Bailey, L. H. - New York (Cornell). Bull. No. 96. p. 387., 1895.
Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Dis. of Econom. Pl. p. 244., 1910.
Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第四號、p. 125., 1912.

病徵　種々ノ植物ノ地上部卽チ葉、枝條、莖ヲ侵シ枯死セシム從ツテ植物ノ種類ニヨリテ多少其病徵ヲ異ニス、萵苣ノ如キ柔カキ草本ニアリテハ葉ノ隨所ニ腐敗スル病斑ヲ生シ漸次範圍ヲ廣メ恰モ菌核病ノ病徵ニ似タルモ白色菌絲ノ多量ニ生スルコト病斑ノ擴大菌核病ノ如ク迅速ナラサルコト及菌核ヲ形成セサルコトニヨリテ區別スヘク病斑上ニハ一面ニ褐灰色ノ短キ黴ヲ生シ葉ヲ腐敗セシメ莖ニ及ボシ遂ニ全莖ノ枯死腐敗ヲ來ス、又蠶豆又ハ同程度ノ堅サヲ有スル植物ニアリテハ病斑褐色ニシテ乾枯シ漸次其大サヲ增シ遂ニ葉ヲ枯死セシムルニ至ル、又紅竹ノ如キ單子葉植物ノ葉ニ現ル、場合ハ紡錘形ノ褐色ニシテ大ナル病斑ヲ生シ何レノ場合ニ於テモ其表裏兩面ニ褐灰色ノ黴ヲ密生ス、其他諸種ノ植物ノ莖又ハ枝條ヲ侵スコトアリ又菌核病ニ侵サレタル部分ニモ生スルコトアリ何レノ場合ニ於テモ褐灰色ノ黴ヲ密生スルヲ認ムヘシ

本病菌ハ北部臺灣ノ雨期卽チ一月ヨリ四月ノ候ニ發生シ極メテ普通ニ發見セラルル冬春季ノ病害トシテ被害比較的多シ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病原菌　擔子梗ハ稍々密生シ數本叢生又ハ單生シ直立シ淡煤褐色ニシテ先端ニ向ツテ淡色、圓柱狀ニシテ數箇ノ隔膜ヲ有シ基部少シク膨大シ頂端單又ハ一二回分岐シ分枝ノ頂端ハ圓狀ニシテ其處ニ頭狀ニ分生胞子ヲ生ス又擔子梗ハ一度胞子ヲ脫落シテヨリ再ヒ其先端ヨリ伸長シテ分生胞子ヲ形成スルモノアリ高サ三〇〇―一五〇〇ミユー直徑九―一二ミユーアリ

分生胞子ハ倒卵狀乃至倒卵狀長楕圓狀ニシテ單胞、平滑、極淡煤色ヲ帶ヒ大サ八―一七×六―一〇ミユーアリ

臺灣ニ於ケル寄主植物

1. Brassica oleracea L.　たまな
2. Capsicum annuum L.　たうがらし
3. Carum Petroselinum Benth.　おらんだぜり
4. Cordyline terminalis Kunth.　紅竹
5. Dolichos Lablab L.　ふぢまめ
6. Dolichos sp.
7. Fagopyrum esculentum Moench.　そば
8. Helianthus annuus L.　ひまわり
9. Hibiscus rosa-sinensis L.　佛桑花
10. Hibiscus Sabdariffa L.　ロゼル
11. Indigofera arrecta Hochst.　なたるこまつなぎ

12. Ipomaea aquatica Forsk. 蕹菜

13. Lactuca Scariola L. var. sativa Bisch. ちしや

14. Morus alba L. くは

15. Passiflora coerulea L. 時計草

16. Phaseolus trinervius Heyn.

17. Ricinus communis L. たうごま

18. Solanum Melongena L. なすび

19. Solanum tuberosum L. 馬鈴薯

20. Sonchus oleraceus L. のげし

21. Vicia Faba L. var. equina Pers. 蠶豆

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	（ロゼル）	大正二年十二月二十五日	澤田兼吉
同　同	（ロゼル）	大正六年一月二十日	藤黒與三郎
同　同	（ちしや）	明治四十五年二月十二日	澤田兼吉
同　同	（ちしや）	大正五年四月七日	藤黒與三郎
同　同	（たうがらし）	大正六年五月二日	藤黒與三郎
同　同	（蠶豆）	明治四十三年三月二十八日	澤田兼吉

臺北廳頂内埔庄	（蠶豆）	明治四十三年四月五日	藤黒與三郎
同　同	（Dolichos sp.）	明治四十五年一月二十二日	澤田兼吉
同　同	（茄）	大正二年三月一日	藤黒與三郎
同　同	（おらんだぜり）	大正六年五月一日	藤黒與三郎
同　同	（Phaseolus trinervius.）	明治四十三年一月二十二日	澤田兼吉
同　同	（Phaseolus trinervius.）	明治四十五年二月一日	澤田兼吉
同　臺北	（時計草）	明治四十五年二月十日	藤黒與三郎
同　頂内埔庄	（紅竹）	大正六年九月九日	藤黒與三郎

分布 獨逸、白耳義、英吉利、伊太利、瑞西、北米合衆國、日本、臺灣

記事

一、擔子梗ノ頂端卽チ分生胞子ヲ着生スル部分ハ分生胞子形成當時ハ圓頭ヲナセトモ分生胞子脫落後ハ萎凋シテ後離去シ極枝ノ頂端ハ切頭ヲナスニ至ル

二、擔子梗ハ單獨離散スルモ猶發芽力ヲ有シ繁殖シ得ルモノナリ卽チ擔子梗ヲ取リテ水滴培養ニ付スル時ハ其基端又ハ先端部ヨリ發芽シテ菌絲ヲ生ス

三、本菌ハ甘藍菌核病ト同時期ニ多ク發生シ又一方ニハ本菌ハ Sclerotinia Fuckeliana, S. Trifoliorum. 等ノ分生胞子ナリトノ記事ニ關聯シテ甘藍菌核病菌ノ分生胞子時代ナラサルカノ疑アリテ其說ヲナスモノアリ又否定スルモノアリキ、余カ研究ニ於テ全ク兩者差異スルモノナルヲ知レリ、Sclerotinia Libertiana Fuck. 菌

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

ノ記事ヲ參照スヘシ

和名　灰色菌

二二二九　百合葉腐病菌

Botrytis Liliorum Fujik.

Fujikuro, Y. - 百合ノ一新病害ニ就テ（植物學雜誌、第二十八卷、第三二九號）一九一四

寄主植物

てつぽうゆり（Lilium longiflorum Thunb.）

たかさごゆり（Lilium philippinense Veitch.）

臺灣ニ於ケル分布

臺北

病名

和名　百合葉腐病

頭子菌列（Genus-group Cephalosporieae.）

頭子菌屬（Genus Cephalosporium.）

二二三〇　桑裏白輪斑病菌（第十三圖版、二八―三〇）

Cephalosporium zonatum Sawada. sp. nov.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病徵　概シテ老葉ヲ侵スモ時ニ飼料ニ適スル如キ葉ヲモ侵スコトアリ病斑ハ葉上ニ生シ圓狀ニ擴カリ褐色、黃褐色又ハ橄欖灰色ヲ混シタル明瞭ナル輪層ヲ嵌工細工狀ニ作リテ漸次外輪ニ擴カル其直徑一―五セ、メ、アリ普通一葉上ニ一乃至數箇ヲ生ス其裏面ニハ帶白色ノ微細ナル粉末ヲ密布シ粗面ヲナス大ナル病斑ハ中央ヨリ破レテ穿孔スルニ至ル斯ノ如クシテ多ク蔓延スルトキハ葉ハ殆ント總テ破ラレ早ク落葉ス、陰濕ナル場所、通風惡シキ場所又ハ降雨多キ地方等ニ蔓延甚シ

病原菌　病斑ノ裏面ノ周緣ニ近ク帶白色ノ菌絲匍匐シ其中央部ハ總テ帶白色ノ細點ヲ密布シ粗面ヲナス菌絲ハ多ク分枝シ絲狀ニシテ隔膜ヲ有シ無色ニシテ直徑約三ミューアリ

擔子梗ハ直立シ單條稀ニ分枝シ無色ニシテ〇―四箇ノ隔膜ヲ有シ大サ二二―一三二×二―三ミューアリ

分生胞子ハ擔子梗ノ頂端ニ單生シ、無色、單胞、長橢圓形乃至長形長橢圓形、兩端圓頭、直又ハ稍々彎曲シ大サ四―九×二・五―三・五ミューアリテ稍々粘着性ヲ有ス故ニ擔子梗上ニ逐次形成セラル、分生胞子ハ集マリテ頭狀ヲナス其直徑七―一五ミューニ達スルモノアリ・

寄主植物

、しまぐは(在來種)(Morus acidosa Gr.)ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十二年十月二十六日　澤田兼吉

嘉義廳關仔嶺　明治四十一年十月三十日　澤田兼吉

分布　臺灣

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

記事

本菌ハ Cephalosporium acremonium Corda. 菌ノ記載及繪ニ相似タリ然レトモ我菌ノ分生胞子ハソレヨリ大形ナリ Corda 氏ノ記載ニ從ヘハ分生胞子ノ大サハ四×一ミューアリトシ Hypoxylon purpureum 上ニ寄生セルヲ發見セルモノナリ、次テ Penzig 氏ハ Alternaria tenuis 上ニ附着セルヲ發見シ其分生胞子ハ大形（四・五—五×二—二・五ミュー）ナリトテ其變種トシテ var. majus Penz. ナル學名ヲ命シタリ、又 Massee 氏ハ Rubus, Heracleum ノ莖上及腐朽セル材上ニ發見シ其分生胞子ノ大サハ四—五×二ミューナリトセリ、我菌ハ明カニ桑ノ寄生菌ニシテ其分生胞子ノ大サハ四—九×二・五—三・五ミューアリテ前者トハ異レルモノナリ

病名

和名　桑裏白輪斑病

輪生白子菌列 (Genus-Group Verticillae.)

スピカリヤ屬 (Genus Spicaria.)

三三一　蜘蛛菌（第十三圖版、二一—二二）

Spicaria Araneae Sawada.

Sawada, K., - 植物學雜誌、第二十八卷、第三三一號、一九一四

病原菌　蜘蛛ノ屍體ハ帶紫褐灰色ノ綿狀物ニ全ク被ハレ只肢ヲ現ハセリ、菌絲ハ若キモノハ無色ニシテ古キモノハ帶淡褐灰色ヲナシ絲狀、隔膜ヲ有シ分枝シ直徑四—五ミューアリ擔子梗ハ無色纖細ニシテ疎ニ隔膜ヲ有シ長サ約五〇〇ミュー直徑三—四ミューアリ單條又ハ稀ニ分枝シ其頂端ニ近ク三—五段ノ輪生狀ニ密ニ分タレタル多クノ短分枝

ヲ生ス其短分枝ハ數回分枝シ互生又ハ對生シ極枝ハ德利狀ニシテ大サ七―八×二―二・五ミューアリ、分生胞子ハ連鎖狀ニシテ長楕圓乃至短圓柱狀ニシテ兩端圓頭、無色、單胞、平滑ニシテ二箇ノ油球ヲ含ミ大サ三・五―五・五×二―二・五ミューアリ

寄主

蜘蛛ノ屍體上ニ生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳林口庄　大正二年六月十日　藤黑與三郎

分布　臺灣

記事

本菌ハ *Spicaria prasina* (Maubl.) (*Nomuraea prasina* Maubl.) ニ近シ然レトモ其色淡綠色ニシテ擔子梗ハ細ク直徑二―三ミューアノ又分生胞子ハ卵狀ナルヲ以テ我菌トハ全ク異レルモノナリ

和名　蜘蛛菌

多胞白糸菌亞科 (Subfam. Phragmosporae.)

稻熱病菌屬 (Genus Dactylaria.)

二三三　ふくじんさういもち病菌

Dactylaria Costi Sawada.

Sawada, K. - 稻いもち病菌論、(臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十六號、六六頁) 一九一七

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病徵及病原菌　葉ヲ侵シ病斑ハ小形ニシテ一葉上ニ多數生シ圓形ニシテ直徑一―一・五ミメ、決シテ大ナル紡錘形トナルコトナク中央灰色周圍褐色ヲナス

擔子梗ハ叢生又ハ單生シ單條、基部稍々膨大シ帶褐灰色、頂端ニ向ツテ淡色ニシテ普通二又ハ三箇ノ隔膜ヲ有シ其頂ニ近ク數箇ノ分生胞子ヲ形成シタル跡ヲ存ス

分生胞子ハ長洋梨狀乃至棍棒狀紡錘形ニシテ無色二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲ有セス頂端鈍頭、基端鈍頭又ハ稍々圓頭ヲナシ臍ハ小形ニシテ一小突起ヲナシ直徑一・五―一・七ミユーアリテ胞子ハ決シテ臍ニ向ツテ伸長形ヲナサス胞子ノ大サハ二〇―三〇×七・五―一〇ミユー平均二四×八・六ミユーアリ其頂端細胞ノ長サハ八・五―一一ミユー平均一〇・六ミユーアリ各細胞ノ長サハ殆ント等長ナリ

寄主植物

ふくじんさう (Costus speciosus Sm.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

嘉義廳中埔　大正二年十月十五日　川上瀧彌

分布　臺灣

記事

本菌ハ胞子ノ形態大サ及病斑ニ於テ他ノいもち病菌ト異ナル

病名

和名　ふくじんさういもち病

三三四 めひしばらもち病菌

Dactylaria grisea (Cooke.) Shirai.

Miyake, I. - Ueber Chinesische Pilze. (Tokio Bot. Mag. Vol. XXVIII. No. 327.) 1914.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十一、（臺灣博物學會々報、第二十七號、）1916.

Sawada, K. - 稻いもち病菌論（臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十六號、）1917.

SYN. Trichothecium griseum Cooke.

Cooke. - Rav. Americ. Fungi. No. 580.

SYN. Dactylaria parasitans Cav.

Cavara, F. - Fungi Longob. Excicc. No. 47., 1892.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XI. p. 601., 1895.

SYN. Piricularia grisea. (Cook) Sacc.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 217., 1886.

Hori, S. - 農事試驗場特別報告、第一號、1898. (P. P.)

Kawakami, T. - 札幌農學會報、第二卷、1901. (P. P.)

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVIII. p. 545., 1906.

Nishikado, Y. - Studies on the Rice Blast Fung. I. (Berichte des Ohara Inst. fuer Landwirt. Forschung. Bd. I. Heft. 2. p. 214.) 1917.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病徵　主ニ葉ヲ侵シ時ニ葉鞘ヲモ侵スコトアリ葉ニ於ケル病斑ハ圓形又ハ圓狀直徑一―五ミ、メ、アリ初メ帶暗綠褐色ニシテ後中央藁色トナリ又暗色ヲ呈スルコトアリ周圍褐色又ハ紫褐色ヲナス而シテ決シテ大形ナル紡錘形ヲナスコトナシ葉鞘ニ生スル場合ハ多ク楕圓狀紡錘狀ニシテ長サ六ミ、メ、ニ達スルコトアリ、五、六月ノ頃ヨリ十月頃ニ至ル最モ暑キ季節ニ盛ンニ發生シ降雨多キ時又ハ暴風雨ノ後等ニハ甚シク發生シ甚シキ時ハ葉ヲ殆ント枯死セシムルコトアリ

病原菌　擔子梗ハ葉ノ兩面ニ生スレトモ多クハ葉裏ニ生ス叢生又ハ單生シ單條ニシテ時ニ基部ニ近ク分枝スルコトアリ基端稍々膨大シ褐灰色ニシテ先端ニ向ツテ淡色トナリ普通二―三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ　一八―一三五×三・五―五ミュー　アリ頂端ニ近ク一―一〇箇ノ胞子着生ノ跡ヲ有シ稍々屈折線形ヲナス、分生胞子ハ披針狀乃至棍棒狀ヲナシ無色二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサス、頂端ニ向ツテ長ク漸細シ稍々鋭頭ニ終リ、基端鈍頭ヲナシ一箇ノ臍ヲ有ス、臍ハ小形ニシテ直徑一・五―一・七ミューアリテ決シテ稻いもち病菌(Dactylaria Oryzae)ノ如ク長ク伸長スルコトナシ、分生胞子ノ大サハ一七―四〇×六・五―一〇ミューアリ平均(五十箇)二三・六×八・一ミューアリ、其頂端細胞ノ長サハ六・五―一七・五ミュー平均八・八ミューアリ又中央細胞ノ長サハ五―八・五ミュー平均六・三ミュー　アリ又基端細胞ノ長サハ五―一〇ミュー平均七・五ミュー　アリテ中央細胞ハ兩端細胞ヨリ著シク短シ

胞子ヲ水中ニ置ク時ハ發芽管ニテ發芽ス而シテ發芽管ハ直徑三―三・五ミューアリ胞子ヲ水中ニ置キテヨリ二十時間ニシテ發芽管約三八〇ミュー　ノ長サニ伸長セルモノアリタリ、發芽管ノ先端ニ厚膜胞子ヲ形成ス、厚膜胞子ハ球狀乃至倒卵狀ニシテ淡褐灰色ヲ帶ヒ大サ九―一〇×八ミューアリ、又甚タ稀ニ發芽管ハ直チニ擔子梗トナリテ再ヒ分生胞子ヲ形成スルコトアリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

寄主植物

めひじは (Panicum sanguinale L.)

粟 (Setaria italica Beauv.) 及

むらさきめひじは (Panicum violascens Kunth.) ノ葉及葉鞘ニ寄生ス

分布 北米合衆國、伊太利、支那、日本、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	頂内埔庄	明治四十四年九月十四日	藤黒與三郎
同	同	大正二年一月三十日	藤黒與三郎
同	同	大正二年七月十日	澤田兼吉
同	同	大正三年六月二十二日	澤田兼吉
同	同	大正三年七月十日	澤田兼吉
同	同	大正四年七月十六日	澤田兼吉
同	同	大正四年十一月三十日	澤田兼吉
同	同	大正五年八月三日	澤田兼吉
同	同	大正五年十月一日	澤田兼吉
同	同	大正五年十月二十九日	澤田兼吉
同	景尾	大正六年五月二十七日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

宜蘭廳宜　蘭		明治四十一年四月	鈴木力治
同	九芎湖	明治四十二年七月八日	藤黒與三郎
新竹廳旱坑仔庄		大正六年六月五日	澤田兼吉
同	太　湖	大正六年六月六日	澤田兼吉
臺南廳柘南社		大正五年六月	澤田兼吉
阿緱廳阿　緱		大正六年六月十八日	澤田兼吉
同	阿里港	明治四十一年十月三十日	鈴木力治
同	龜仔角	明治四十一年十月十七日	鈴木力治
花蓮港廳廸佳		明治四十四年五月三十日	澤田兼吉
同	呉全城(ムラサキメヒシバ)	明治四十四年六月三日	澤田兼吉

記事

一、本菌ハ初メ北米合衆國ニ於テ發見セラレ Cooke 氏ハ之レニ Trichothecium griseum Cooke. ト命名セシカ西暦一八八〇年 P. Saccardo 氏ハ Piricularia 屬ヲ創設シテ之レニ移シ Piricularia grisea (Cooke.) Sacc. ト改名セリ、後稻いもち病菌ト混同シ稻いもち病菌ヲ含メタルモノニ白井博士ハ Dactylaria grisea (Cooke.) Shirai. ナル學名ヲ與ヘラレタリ而シテ此學名ハ今日稻いもち病菌ノ學名トシテ知ラル然レトモ余ハ之レカ研究ヲ行ヒ稻いもち病菌トめひじはいもち病菌トハ全ク異レル種類ナルヲ知リシヲ以テ余ハ此白井博士ノ命名ニ係ル學名ノ範圍ヲ狹メテ之レヲめひじはいもち病菌ノ學名ニ採用セントス如何トナレハ此學名ノ種

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

名ハ元 Cooke 氏ニヨリテめひじはいもち病菌ニ與ヘラレタルモノナレハナリ

二、本菌カ作ル病斑ハ稻いもち病菌カ作ルモノトハ全ク異リ、終リ迄圓形ヲナシテ決シテ大形ナル紡錘形トナルコトナシ

三、本菌ト稻いもち病菌トノ胞子ハ互ニ明カニ區別シ得ヘキ形態ヲ有ス即チ前者ノ胞子ハ狹長ニシテ先端ニ向ツテ長ク伸ヒテ臍小形決シテ臍ニ向ツテ長ク伸ヒルコトナク後者ノ胞子ハ幅廣クシテ頂端ニ向ツテ伸ヒルコト長カラス臍ハ大形ニシテ屢々胞子臍ニ向ツテ長ク伸フ又後者ノ胞子ヲ構成セル各細胞ノ長サハ殆ント等長ノ觀アレトモ前者ノ胞子ニアリテハ中央細胞常ニ著シク短クシテ兩端細胞長シ

四、本菌ハ菉豆煎汁寒天培養基、肉汁寒天培養基、及おほぬかきび煎汁寒天培養基等ヲ暗色ニ着色セシムル性ヲ有ス而シテ稻、あしがき、おほぬかきび等ノいもち病菌ハ決シテ上記培養基ヲ斯ク染色スルコトナシ

五、本菌ヲ稻ニ接種スルモ決シテ感染セス又稻いもち病菌ヲめひじはニ接種スルモ亦決シテ感染セス

六、本菌ヲ粟ニ接種スレハ感染シ又稻いもち病菌ヲ粟ニ接種スルモ亦感染ス然レトモ其感染シテ生シタル病斑ヨリ胞子ヲ取リテ檢スレハ稻いもち病菌ヲ接種シタルモノニハ稻いもち病菌ノ特徴ヲ有スル胞子ヲ形成シめひじはいもち病菌ヲ接種シタルモノニハめひじはいもち病菌ノ特徴アル胞子ヲ形成シ互ニ迷フコトナシ

七、むらさきめひじはノいもち病菌ハ其作ル病斑及胞子ノ特徴全ク本菌ニ一致ス

病名

和名　めひじはいもち病

二三四　あしがきいもち病菌

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Dactylaria Leersiae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十一（臺灣博物學會々報、第二十七號 p. 252,）1916.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十六號、1917.

病徵　葉ヲ侵シ病斑ハ初メ圓形ニシテ暗褐色直徑一―三ミメ、アルモ漸次突角ヲ生シテ不正形ノ病斑トナリ更ニ進ンテ紡錘形トナリ中央灰色又ハ藁色ヲナシ周圍暗褐色ヲナシ大サ五×二ミメ、ニ達スルモノアリ之レカ爲メニ葉ハ漸次ニ黃變枯死ス

病原菌　擔子梗ハ多ク葉裏ニ生シ叢生又ハ單生、單條、帶褐色ニシテ先端ニ向ツテ淡色ヲナシ基端稍々膨大シ普通二―三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ四八―八八×四―五ミュー アリ、其先端ニ近ク屈折線形ヲナシ普通數箇乃至七八箇ノ胞子ヲ形成セル跡ヲ存ス

分生胞子ハ無色披針形ヲナシ頂鈍頭基部圓頭ヲナシ一箇ノ小形ナル臍ヲ有ス而シテ臍ニ向ツテ伸長スルコトナシ臍ノ直徑ハ一・二―一・八ミューアリ、二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナサス

胞子ノ大サハ二〇―三五×七―一〇ミュー平均二七×八・六ミューアリ、其頂端細胞ノ長サハ六―一三ミュー平均八・七ミューアリ又中央細胞ノ長サハ七―一二ミュー平均八・二ミューアリ又基端細胞ノ長サハ七―一一ミュー平均九・〇ミューアリ

分生胞子ヲ水中ニ置クトキハ發芽管ヲ以テ發芽ス發芽管ハ直徑三―四ミューアリ其頂端ニ厚膜胞子ヲ形成ス、厚膜胞子ハ球狀灰色ニシテ大サ九・五―一二×九―一〇ミューアリ

寄主植物

あしがき（Leersia hexandra Sw.）ノ葉ニ寄生ス

分布　臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正三年七月三日　澤田兼吉
同　同　大正四年四月十五日　澤田兼吉
同　同　大正四年十二月四日　澤田兼吉
同　同　大正五年八月十八日　澤田兼吉
同　同　大正五年十月一日　澤田兼吉
同　同　大正五年十一月十四日　澤田兼吉
同　士林　大正五年九月二十三日　澤田兼吉

記事

一、本菌ハ胞子ノ大サ及其各細胞ノ長サニ於テ稻いもち病菌ニ近シ然レトモ稍小形ニシテ稻いもち病菌ノ大形且ツ著シク突出セルト異リ又胞子カ頂端ニ向ツテ漸細スル程度長シ

二、本菌ヲ種々ノ培養基ニ培養シテ稻いもち病菌ト比較スルニ本菌ノ胞子ハ直徑狹クシテ且ツ基端ノ細胞長ク伸ヒル性質アリ

又本菌ハ培養基面ニ生スル氣中菌絲ハ稻いもち病菌ヨリ常ニ極メテ少クシテ且ツ胞子ヲ形成スル量多シ

又稻いもち病菌ハおほぬかきび煎汁寒天培養基ニ能ク發育スルモあしがきいもち病菌ハ全ク發育セス

三、本菌ノ厚膜胞子ハ稻いもち病菌ノソレヨリ大ナリ

四、本菌ヲ稲、めひしは、粟其他ノ植物ニ接種スルモ感染セス

病名

和名　あしがさいもち病

二三五　稲いもち病菌

Dactylaria Oryzae (Cav.) Saw.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十一、（臺灣博物學會々報、第二十七號、）1916.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十六號、1917.

SYN. *Piricularia Oryzae Cav.*

Cavara, F. - Fungi Longob. Excicc. No. 49., 1892.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 563., 1892.

Frank, A. B. - Krankh. der Pflanz. Bd. II. p. 340., 1896.

Briosi, G. e F. Cavara. - I Funghi Parasit. d. Plante Colt. Utili. 1900.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Econom. Plants. p. 352., 1910.

SYN. *Piricularia Oryzae Br. et Cav.*

Nishikado, Y. - Stud. on the Rice Blast Fungus. I. (Bericht. des Ohara Inst. fuer Landwirt. Forsch. Bd. I. Heft. 2. p. 213.) 1917.

SYN. *Piricularia grisea (Cooke) Sacc.*

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Hori, S. - 農事試驗場特別報告、第一號、1898. (P. P.)

Kikkawa, S. - 農事試驗場特別報告、第五號、1900.

Kawakami, T. - 札幌農學會報、第二卷、1901. (P. P.)

Duggar, B. M. - Fung. Diseases of Plants. p. 297., 1909.

Hara, K. - 病蟲害雜誌、第三卷、第九號、p. 15., 1916.

SYN. *Dactylaria parasitans Cav.*

Shirai, M. - 植物學雜誌、第十九卷、第217號、p. 19, 1905. (P. P.)

Yamada, G. - 植物病理學、p. 405., 1904.

Takahashi, R. - 稻及米の研究、稻の卷、p. 425., 1915.

Nishikado, Y. - 稻いもち病菌ニ就テ（豫報）、（植物學雜誌、第三十一卷、第361號）1917.

SYN. *Dactylaria grisea (Cook.) Shirai.*

Miyake, I. - 植物學雜誌、第二十三卷、第267號. 1909.

Miyake, I. - Journ. of Coll of Agric., Imper. Univ. Tokio. Vol. II. No. 4. p. 262., 1910.

Ideta. A. - 日本植物病理學. p. 723., 1911.

Hara, K. - 農學會報、第109號., 1911.

Sawada, K. - 臺灣農事報、第63號., 第64號., 1912.

病徵 葉、葉鞘、稈節、穗頸、籾等ヲ侵ス、葉ニアリテハ帶暗綠褐色ノ圓狀又ハ稍々楕圓狀ナル小斑點ヲ生シ普

通直徑一ミ、メ、アリ後其周圍褐色トナリ漸次其大サヲ增シ大形ナル紡錘形トナリ中央灰色トナリ長サ四又ハ五セ、メ、ニ達シ病斑多數發生スルトキハ互ハ相融合シ又病斑ノ周圍黃色トナリ葉ハ爲メニ枯死スルニ至ル殊ニ苗代ニ發生セシ時ニ於テハ一群ノ枯死ヲ來シ又ハ苗代ノ大半火ニ炙リタル如ク枯死スルコトアリ

葉鞘ニアリテハ病斑常ニ長形ヲナスノミニシテ他ハ葉ニ於ケル場合ニ類ス、又穗頸、稈節ヲ侵シタル場合ニ於テハ暗褐色ヲナス穗頸ニアリテハ普通二―四セ、メ、ニ廣カリ胞子脫落セシムレハ褪色セラレテ白色ヲ呈セリ、而シテ穗ハ自カラ枯死セシメラレ白穗トナルニ至ル、又籾ニアリテハ圓狀又ハ橢圓狀ノ周圍褐色、中央灰色ノ病斑ヲ生ス、偏肥、天候陰濕、冷水灌漑等ノ場合ニ於テ殊ニ被害ヲ增大ス臺灣ニ於テ大正一、二年阿緱廳管內ニ大發生ヲナセリ之レ灌漑水中ニ製糖所ノ汚水ヲ灌注シタルニヨリ約五百町步ニ亘リ數割ノ損失ヲ來セリ

病原菌　擔子梗ハ氣孔ヲ通シテ或ハ表皮ヲ破リテ抽出セラレ叢生又ハ單生ス、單條又ハ基方ヨリ一二ノ分枝ヲ生シ基端稍々膨大シ褐灰色ニシテ先端ニ向ツテ淡色普通二乃至三箇ノ隔膜ヲ有シ時ニ之レヲ缺クコトアリ其頂端ニ分生胞子ヲ單生シ頓テ其直下ヨリ短キ分枝ヲ生シ其頂端ニ再ヒ分生胞子ヲ形成シ斯ク繼續シテ擔子梗ノ先端部ハ假單條ノ屈折線狀ヲナシ一擔子梗上ニ普通四―一〇箇ノ分生胞子ヲ形成ス、擔子梗ノ大サハ九六―一三二×四―五ミューアリ

分生胞子ハ洋梨狀乃至紡錘狀洋梨形ヲナシ基部楔形ヲ帶ヒ無色ニシテ二箇ノ隔膜ヲ有シ時ニ隔膜部ニ於テ縊レヲナスコトアリ臍ノ直徑ハ一・八―三・〇ミューアリ屢々胞子ノ基端ハ臍ニ向ツテ伸長シ長サ八ミューニ達スルコトアリ分生胞子ノ大サハ一六―三二×七―一一ミュー五十箇平均二六×八・八ミューアリ其頂端ノ細胞ハ長サ五―一一ミュー平均八・五ミュー中央細胞ノ長サ六・五―一二ミュー平均八・七ミュー最基ノ細胞ノ長サハ六・五―一二ミュー平均九・〇ミューアリテ各

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

細胞ノ長サハ殆ント等長ナリ

分生胞子ヲ水中ニ置クトキハ發芽管ニテ發芽シ何レノ細胞ヨリモ發芽スルモ重ニ兩端細胞ヨリ又一細胞ヨリ二發芽管ヲ生スルコトアリ、水中ニ置キテ二十時間後ニハ發芽管ノ長サ約三〇〇ミューニ達シタルモノアリテ其直徑三—三・五ミューアリ無色ニシテ隔膜ヲ有シ其頂ニ厚膜胞子ヲ形成スルモノアリ、厚膜胞子ハ球狀又ハ倒卵狀ニシテ淡褐灰色大サ七・五—一〇×六—八ミューアリ

寄主植物

稻（Oryza sativa L.）

粟（Setaria ttalica Beauv.）

大麥（Hordeum sativum Jessen. var. vulgare.）

稞麥（Hordeum sativum Jessen. var. hexastichon.）及

小麥（Triticum vulgare Vill.）ノ葉、葉鞘、稈節、籾及穗頸等ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔稻（水稻、陸稻）〕

臺北廳	八　堵	明治四十二年七月三日	藤黑與三郎
同	頂內埔庄	明治四十一年八月二十七日	藤黑與三郎
同	同	明治四十一年九月五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年三月十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年五月三十日	增田朋來

同	同	明治四十二年六月十五日	藤黒與三郎
同	同	明治四十二年六月二十六日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年五月四日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年七月五日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年九月九日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年九月二十日	藤黒與三郎
同	同	明治四十四年七月一日	藤黒與三郎
同	同	大正三年六月二十四日	澤田兼吉
同	同	大正二年七月三日	藤黒與三郎
同	同	大正二年十月二十七日	藤黒與三郎
同	同	大正三年六月二十三日	澤田兼吉
同	同	大正四年七月十五日	澤田兼吉
同	同	大正五年八月二日	澤田兼吉
同	同	大正七年三月十四日	澤田兼吉
同	大坪林	明治四十一年七月十五日	藤黒與三郎
同	深坑	明治四十年七月十日	藤黒與三郎
同	同	明治四十年七月十二日	鈴木力治

臺北廳新店	明治四十一年七月十三日	藤黒與三郎
宜蘭廳楨仔寮	明治四十二年七月五日	藤黒與三郎
同　礁溪	明治四十二年七月六日	藤黒與三郎
同　宜蘭	明治四十二年七月七日	藤黒與三郎
同　紅柴林	明治四十二年七月八日	藤黒與三郎
新竹廳粗坑	明治四十三年五月五日	藤黒與三郎
同　大坪	明治四十年十一月九日	川上瀧彌
同　北埔	明治四十三年五月四日	藤黒與三郎
同　南庄	明治四十三年五月三日	藤黒與三郎
同　斗換坪	大正六年六月六日	澤田兼吉
同　大坪林	明治四十一年五月九日	藤黒與三郎
同　同	明治四十四年八月十一日	藤黒與三郎
同　公館庄	明治四十一年五月九日	藤黒與三郎
新竹廳南湖庄	明治四十一年五月九日	藤黒與三郎
同　食水坑	明治四十一年五月八日	藤黒與三郎
臺中廳東勢角	明治四十年二月九日	鈴木力治
同　二林	大正二年十月十四日	藤黒與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

同　中寮庄	大正六年七月十四日	藤黒與三郎
南投廳新城庄	明治四十年十月三十日	鈴木力治
同　魚池	明治四十年十月三十日	鈴木力治
同　水社	明治四十年十月三十一日	鈴木力治
同　集々	明治四十年十一月一日	鈴木力治
嘉義廳店仔口	明治四十一年六月七日	井街顯
臺南廳阿公店	明治四十一年十二月二十四日	川上瀧彌
阿緱廳阿緱	大正二年五月二十八日	川上瀧彌
同　北新勢	大正二年五月四日	澤田兼吉
同　社皮	大正二年五月八日	澤田兼吉
同　同	大正六年六月十七日	澤田兼吉
同　萬丹	大正六年六月十七日	澤田兼吉
同　內埔	大正二年五月五日	澤田兼吉
花蓮港廳吳全城	明治四十二年五月五日	澤田兼吉

〔粟〕

臺北廳頂內埔庄	大正五年十月十六日	澤田兼吉
花蓮港廳薄々社	明治四十二年五月八日	澤田兼吉
臺東廳知本	明治四十二年四月二十六日	澤田兼吉

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

分布　伊太利、北米合衆國、日本、朝鮮、支那、臺灣

記事

一、余カナセル臺灣ニ於ケル研究以前ハ稻いもち病菌ハ稻ノ外十三種ノ植物ニ寄生シ得ルモノトセラレ從ッテ稻いもち病ノ豫防ノ一法トシテ田圃ノ雜草刈除スヘキヲ擧ケラレタリ

余ハ田圃ニ於ケル觀察ニ於テ稻いもち病ハ他ノ雜草ニ關係ヲ有セサル如キ狀態ニアルヲ觀破シ大正三年ヨリ大正五年ニ亘ル三年間之レカ研究ヲ行ヒ稻いもち病菌ハ雜草ニ關係ナクシテ却ッテ大麥、小麥、稞麥及粟ニ關係アルヲ知レリ

二、西門氏ハ粟いもち病菌ハ稻いもち病菌ト全ク異レル種類ニシテ稻ニ感染セサルヲ以テ Piricularia Setariae ナル新種トナセリ然レトモ余ノ研究ニ於テハ粟いもち病菌ト稻いもち病菌トハ同一種ニシテ野外ニ於テ形成セラレタル粟いもち病菌ノ胞子ハ全ク野外ニ於テ形成セラレタル稻いもち病菌ト等シクシテ且ッ稻いもち病菌ヲ粟苗ニ接種スレハ感染シ再度之レヲ確メタリ

三、本菌ノ學名ニ就テ余ハ Dactytaria 屬ヲ採用シ西門氏(一九一七)ハ Piricularia 屬ヲ採用セリ

Piricularia 及 Dactylaria 屬ハ西暦一八八〇年 Saccardo 氏ニヨリテ同時ニ創設セラレタル屬ニシテ前者ト後者ト主ナル區別點ハ前者ハ活物寄生ニシテ胞子單生、後者ハ屍物寄生ニシテ胞子頭狀ニ形成セラル、ニアリ、是等兩者ヲ收容スル所ノ Mucedineae (黴菌科)ニハ活物兼屍物寄生又ハ屍物兼活物寄生ヲナス性質ノ菌多ク且ッ假令活物寄生ヲナストセラレタル Piricularia 屬ニ於テモ其後屍物寄生ヲナスモノ發見セラレ又 Dactylaria 屬ニハ活物寄生ヲナスモノ發見セラル、ニ至リタルト同時ニいもち病菌ハ活物寄生ヲナスト同

時ハ屍物寄生ヲモ行フコト知ラルヽニ至レリ、卽チ活物寄生ヲナスト屍物寄生ヲナストハ今日是等兩屬ニハ確タル限界ヲ有セサルナリ

更ニ胞子着生狀態ニ就テ西門氏ハ Saccardo 氏ノ acrogenous ヲ "Solitary or nearly so" ナル意義トナシ Piricularia 屬ニ納メサルヘカラサルヲ主張セリ然ルニ Saccardo 氏カ Dactylaria 屬ヲ創設シタリシ基本種タル Dactylaria purpurella Sacc. 菌ノ繪ヲ見ルニ (Engler 及 Prantl 兩氏著、Die Natürlichen Pflanzenfamilien. I. Theil. Abt. 1. p. 449. Fig. 232. J.) Saccardo 氏ハ capitate ナリトナセルトモ其胞子着生狀態ハ何等いもち病菌ノソレト異ナルコトナシ而シテ Piricularia 屬ノ acrogenous ハ胞子着生狀態ノ單獨頂生スルヲ意味スルモノニシテ Cavara 氏ノ Piricularia Oryzae 菌ヲ畫キタル繪ト等シキ狀態ヲ示シタルモノナルヘシ故ニめひじはいもち菌及稻いもち菌ノ兩者ヲ研究セシ Cavara 氏ハ稻いもち菌ハ胞子單獨頂生セシカ故ニ Piricularia 屬ニ納メめひじはいもち菌ハ胞子稍々頭狀ニ形成セラルヽヲ以テ之レヲ Dactylaria 屬ニ納メ Dactylaria parasitans トナセシナリ

既ニ斯ノ如キ事實ノ存スル以上タトヒ Piricularia 屬ハめひじはいもち菌ヲ基本トシテ創設シタリシトハイヘいもち菌ハ Dactylaria 屬ニ符合スヘキモノナルヲ以テ Dactylaria 屬ニ納メサルヘカラサルモノナリ、Piricularia 屬ハ胞子頂生ナルハ此屬設定上重要ナル意義ヲ有スルモノニシテ Piricularia 屬設定ニ就キ想像スルニ若シ Cooke 氏ハ北米產めひじはノいもち菌ヲ胞子 solitaria acrogena ナラストいもち病菌ノ性質ヲ精査シタル上ニ記載ヲ與ヘシ場合ニ於テハ或ハ Saccardo 氏ハ特ニ Piricularia 屬ヲ設ケスシテ Dactylaria 屬ニ納メタルヤモ計ラレス胞子 solitaria acrogena ナルト活物寄生ナルトニヨリテ Dactylaria 屬ヲハいも

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ち菌類似ノ Dactylaria purpurella 菌ヲ以テ特ニ saprophila ナル條件ヲ加ヘタルモノナラサルカ一般ヨリ觀察シテ誤レル記載ニヨル屬ヲ保存スヘキカ又適合スヘキ屬ヲ廢スヘキカハ充分考慮ヲ要スヘキ點ナリトス而カモ是等兩屬ハ同年同雜誌ノ同頁ニ揭ケラレタルモノナルニ於テヲヤ

病名

和名 稻いもち病

英名 Blast of Rice Plant.

伊名 Blusone del Riso.

二三六　おほぬかきびいもち病菌

Dactylaria Panici-paludosi Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第六、(臺灣博物學會々報、第二十二號) p. 78, 1915.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場特別報告、第十六號、1917.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ初メ圓形、帶暗綠褐色、直徑二—三ミメ、ニシテ盛ンニ胞子ニ形成スル時期ニハ裏面暗色ヲナス、病斑ハ漸次擴大シテ大ナル紡錘形トナリ周圍褐色、中央藁色トナリ大サ五—二三×二—四ミメ、トナル夏季極メテ普通ニ發生シ降雨繼續後又ハ暴風雨後ニ旺ニ發生ス

病原菌 擔子梗ハ多ク葉裏ニ生シ叢生又ハ單生シ單條又ハ基方ヨリ分岐スルモノアリ帶褐灰色ニシテ先端ニ向ツテ淡色ヲナシ基端稍々膨大シ一—三箇ノ隔膜ヲ有シ頂端ニ近ク屈折線形ヲナシ一—一〇箇ノ分生胞子ヲ形成セシ跡ヲ存ス大サ八〇—一六〇×四—六ミュー アリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

分生胞子ハ無色洋梨狀又ハ長洋梨狀ニシテ頂端圓頭、基端モ亦圓頭、二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ多少縊レヲナシ基端ニ一箇ノ臍ヲ有シ臍ハ中位大ニシテ直徑一・七—二ミューアリ稻いもち病菌ノ如ク臍ニ向ツテ伸長スルコトナシ、胞子ノ大サハ一七—二八×八・五—一一・二ミュー平均二二・五×一〇・二ミューアリ其頂端細胞ノ長サハ四—一一ミュー平均七・四ミュー中央細胞ノ長サハ五—八・五ミュー平均七ミューアリ又基端細胞ノ長サハ六—一〇ミュー平均八・一ミューアリ分生胞子ヲ水中ニ置ク時ハ發芽管ニテ發芽ス發芽管ハ直徑三—三・五ミューアリ未タ厚膜胞子ノ形成セルヲ見ス

寄主植物

おほぬかきび (Panicum paludosum Roxb.) ノ葉ニ寄生ス

分布 臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	頂內埔庄	明治四十年四月五日	鈴木力治
同	同	明治四十年十月二十五日	鈴木力治
同	同	明治四十一年八月十三日	藤黑與三郎
同	同	明治四十一年十一月十六日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年六月五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十二年六月十九日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年十月六日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年五月十六日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺北廳頂内埔庄	明治四十三年九月二十三日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年十月二日	藤黒與三郎
同　同	明治四十四年九月四日	澤田兼吉
同　同	大正三年六月二十二日	澤田兼吉
同　同	大正三年七月十日	澤田兼吉
同　同	大正三年七月十四日	澤田兼吉
同　同	大正三年八月七日	澤田兼吉
同　同	大正四年七月十五日	澤田兼吉
同　同	大正四年十月十八日	澤田兼吉
同　同	大正四年十一月二十一日	澤田兼吉
桃園廳東勢庄	大正六年六月二日	澤田兼吉
同　双連坡	大正六年六月二日	澤田兼吉
新竹廳舊港	大正四年十月十日	澤田兼吉
臺中廳臺中	大正二年十月十一日	藤黒與三郎
同　東勢角	明治四十年六月三日	鈴木力治
臺中廳坑口庄	大正六年六月十一日	澤田兼吉
南投廳林圯埔	明治四十年五月二十七日	鈴木力治

臺南廳港仔墘　明治四十二年十一月八日　澤田兼吉

花蓮港廳璞石閣　明治四十二年五月十二日　澤田兼吉

同　同　明治四十四年五月三十日　澤田兼吉

記事

一、本菌ノ胞子ハ稻、めひじは、あしがき、ふくじんさう、薑、茗荷、粟其他ノ上ニ寄生スルいもち病菌ト全ク異ル所ノ特殊ナル形態ヲ有ス、卽チ胞子ノ幅著シク廣クシテ且ツ兩端圓頭ヲナシ隔膜ニ於テ縊レヲナシ恰モ達磨形ヲナセリ、種々ノ培養基ニ培養スル場合モ此性質ヲ失ハスシテ他ノ種類ト全ク異ル

二、本菌ヲ諸種ノ植物ニ接種スルモおほぬかきびノ外他ノ植物ニハ全ク感染セス

病名

和名　おほぬかきびいもち病

黑糸菌科 (Fam. Dematiaceae.)

單胞黑糸菌亞科 (Subfam. Amerosporae.)

ペリコニア菌列 (Genus-group Periconiae.)

ペリコニア屬 (Genus Periconia.)

二三七　桑枯葉菌

Periconia pycnospora Fres.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV p. 271, 1886.
Lindau, G. - Rabenhorst's Kryptogamenflora., Bd. I. Abt. VIII p. 613, 1907.
Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第四、(臺灣博物學會々報第十九號) 1914

病徴 葉ノ縁邊ヨリ進メル稍々古キ褐色ナル病斑上ニ煤黒色ノ黴ヲ生シ又枯死セル枝條ノ表面ニモ生ス此病斑ハ恐ラクハ他ノ原因例ヘハ寒氣、風等ニヨリテ生シタルモノナルヘクシテ本菌ノ寄生ニヨリテ起リタルモノナラサルヘシ

菌ノ記載 屍物寄生ヲナシ擔子梗ハ圓柱狀、單條、暗色ニシテ數箇ノ隔膜ヲ有シ大サ三八〇—六〇〇×一二—一五ミュー アリ其頂端ニ分生胞子ヲ頭狀ニ形成ス之レヲ精細ニ檢スレハ擔子梗ノ頂端ニ卵狀ヲナセル數多ノ小梗ヲ簇生シ其頂ニ一乃至三箇ノ胞子ヲ形成ス

分生胞子ハ單獨ニ又ハ連鎖狀ニ形成セラレ球形暗色ニシテ微細ナル刺ヲ滿面ニ生シ直徑九—一五ミュー アリ

寄主植物

桑（Morus alba L.）ノ葉及枯枝ノ上ニ生ス

外國ニ於ケル寄主植物

Urtica, Tamus, Rumex, Leucanthemum, 禾本科、唇形科

分布 獨逸、伊太利、佛蘭西、西印度、臺北

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正三年十二月一日　藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

新竹廳食水坑　明治四十一年五月九日　藤黒與三郎

記事

原記載ニ比較スルニ我菌ハ擔子梗長クシテ胞子ノ直徑稍々短キカ如キモ Saccardo 氏ノ記スル所ニヨレハ變種ノ如クシテ現ハセルモノ内ニハ我菌ト全ク符合スルモノアリ

和名　桑枯葉菌

雙胞黑糸菌亞科 (Subfam. Didymosporae.)

瘡痂病菌列 (Genus-group Cladosporieae.)

瘡痂病菌屬 (Genus Cladosporium.)

二三八　柑橘瘡痂病菌（第十四圖版、三一五）

Cladosporium Citri Mass.

Massee, G. - Text Book of Plant Diseases. p. 310., 1899.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 474., 1910.

Fawcett, H. S. - Cladosp. Citri Mass. and Cladosp. elegans Penz. confused. (Mycologia. Vol. II. p. 245.) 1910.

Fawcett, H. S. - Florida Agric. Expt. St. Rept. for Fisc. Year ending June 30, 1910. p. 54.

Fawcett, H. S. - Florida Agr. Expt. St. Rept. for Fisc. Year ending June, 1911. p. 95.

Rolfs, P. H., H. S. Fawcett and B. F. Floyd. - Florida Agric. Expt. St. Bull. 108. p. 41., 1911.

Fawcett, H. S. - Florida Agric. Expt. St. Bull. 109., 1912.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XXII. p. 1367., 1913.

Nishida, T. - 柑橘病害ト豫防法、p. 40., 1914. (P. P.)

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十六、(臺灣博物學會々報、第三十五號、p. 5.) 1918.

SYN. *Cladosporium elegans Penz.*

Tubeuf, K. F. von. and W. G. Smith. - Diseases of Plants. p. 509., 1897.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Econom. Plants. p. 188., 1910.

SYN. *Cladosporium Citri Briosi et Cav.*

Cook, M. T. - Diseases of Tropical Plants. p. 119., 1913.

SYN. *Cladosporium sp.*

Swingle, W. T. and H. J. Webber. - Principal Dis. of Citrus Fruits in Florida, (U. S. Dept. of Agr., Div. of Veget. Physiol. and Pathol. Bull. No. 8. p. 21.) 1896.

Lindau, G. - Handb. der Pflanzenkrankh. Bd. II. p. 447., 1908.

Ideta, A. - 日本植物病理學、p. 737., 1911. (P. P.)

Wester, P. J. - Citricult. in Philippine Isl. (Dept. of Public Instruct., Bureau of Agric. Bull. No. 27. p. 56.) 1913.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Allen, W. J. - Citrus Cult. (Dept. of Agr. New South Wales. Farm. Bull. No. 90. p. 95.) 1914.
Hara, K. - 果樹病害論、p. 250., 1916.

病徴　嫩幼ナル葉、梢、果實等ヲ侵ス葉ニ於テハ病斑ハ兩面ニ生スレトモ多ク裏面ニ生ス初メ直徑約〇・三ミメ、アル圓狀ノ水濕的病斑ヲ群生又ハ散生シ其中心帶白色ニシテ稍々凹陷シ之レヲ肉眼ニテ見ルトキハ極淡橙黃色ノ細點ノ如ク見ユ漸次日ヲ經ルニ從ヒテ凸起シ來リ其頂ニ木栓層ヲ生シ約一ミメ、ノ直徑トナリ黃褐色ナル瘡痂狀トナリ更ニ稍々紫色ヲ加ヘ其疣ノ頂端煤黑色トナル此疣ハ柑橘ノ種類ニヨリテ稍々異リ椪柑、桶柑ノ如キ種類ニアリテハ圓錐狀ノ突起トナリ高サ三又ハ四ミメ、ニ達スルコトアリ然レトモ柚仔、文旦等ニ於テハ斯ノ如ク甚シキ突起トナルコト稀ナリ

此瘡痂狀ノ疣ハ多ク生スル時ハ群生シテ互ニ癒合シ之レカ爲メニ葉ハ開展シ能ハス卷縮シテ生育ヲ阻害セラル

嫩梢ニアリテモ病斑ハ葉ト殆ント等シケレトモ甚シキ突起ヲ作ラス瘡痂狀トナリ梢ノ發育ヲ阻害ス

果實ヲ侵ス時ハ數多ノ黃褐色ナル粗面ノ疣ヲ生シテ甚シク發生セシモノハ充分ナル發育ヲ遂ケ能ハスシテ畸形ヲ呈シ又少シク侵サレタルモノハ果實ノ生長スルニツレテ疣モ亦著シク突起シ來リ外觀ヲ損シ酸味強ク價格モ亦著シク遞減ス

臺灣ニ於テハ北部地方ニ被害特ニ多ク生產セラレタル果實カ殆ント此被害ヲ蒙ラサルモノナキコトアリ、之レニ反シ南部地方ニ於テハ斯ノ如ク被害多カラス之レ北部地方ハ嫩葉萠出期及果實ノ幼キ時期ニ降雨多キカ故ナリ

病原菌　罹病シテ生シタル疣內ノ組織ニハ僅カニ菌絲ノ存在スルヲ認ム菌絲ハ無色ニシテ隔膜ヲ有シ細胞膜ヲ貫通シ直徑三ミュー アリ

擔子梗ハ夥多叢生シ淡煤色ニシテ單條又ハ時ニ分枝スルモノアリ直立シ普通一二箇ノ隔膜ヲ有シ又之レヲ有セサルモノ又ハ三箇ヲ有スルモノアリ高サ一六―四〇ミュー直徑三・五―四ミューアリ分生胞子ヲ頂生ス

分生胞子ハ無色乃至煤色ニシテ長卵狀乃至紡錘形ニシテ兩端鈍頭、單胞又ハ二胞時ニ三胞ヨリ成リ隔膜ニ於テ少シク縊レヲナスモノアリ、大サ八―一七×三―五ミューアリ、發芽管ニテ發芽ス

寄主植物

椪柑 (Citrus nobilis Lour. var. poonensis Hay.)

桶柑 (Citrus Tankan Hay.)

溫州柑 (Citrus nobilis Lour. var. Unshu (Mak.) Sw.)

酸橘 (Citrus nobilis Lour. var. Sunki Hay.)

年柑 (Citrus Tankan Hay.)

斗柚 (Citrus Sabon Sieb.)

文旦 (Citrus grandis Osb. form. Buntan.)

等ノ葉、梢及果實ニ寄生ス

分布 北米合衆國（フロリダ、ルイジアナ、カリフォルニア）キユバ、布哇、墨西哥、錫蘭、支那、菲律賓、濠洲、日本、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳基隆（柚仔）明治四十五年六月八日　藤黒與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

同	水返脚	（柚仔）	明治四十年七月二十一日	鈴木力治
同	古亭庄	（溫州）	明治四十年七月十五日	藤黒與三郎
同	頂內埔庄	（柚仔）	明治四十年十二月十五日	鈴木力治
同	同		明治四十一年六月五日	鈴木力治
同	同	（溫州）	明治四十一年九月二十六日	藤黒與三郎
同	同		明治四十二年四月二十六日	藤黒與三郎
同	同	（溫州）	明治四十三年二月三日	藤黒與三郎
同	同		大正五年五月十二日	藤黒與三郎
同	內埔	（柚仔）	明治四十一年十月十日	澤田兼吉
同	二十張庄	（年柑）	大正四年十二月二十三日	藤黒與三郎
同	景尾	（年柑）	大正六年五月二十七日	澤田兼吉
同	內湖庄	（年柑）	大正五年三月九日	黃金
同	同	（桶柑）	大正五年四月二十五日	藤黒與三郎
同	粉寮	（柚仔）	大正六年五月二十八日	澤田兼吉
同	木柵	（文旦）	大正五年六月二十九日	澤田兼吉
同	深坑	（柚仔）	明年四十一年七月十日	藤黒與三郎
同	同	（柚仔）	明治四十一年八月十日	藤黒與三郎

臺北廳竹仔易	（椪柑）	明治四十一年七月十一日	藤黑與三郎
同　ウライ社		大正三年四月十二日	藤黑與三郎
同　和尚州	（桶柑）	明治四十一年一月十三日	藤黑與三郎
同　樹林坑	（柚仔）	大正六年五月二十九日	澤田兼吉
宜蘭廳頭　圍	（椪・柑）	明治四十年七月十七日	鈴木力治
同　宜　蘭	（椪柑）	明治四十一年四月	鈴木力治
同　結頭份	（年柑）	大正六年五月二十二日	澤田兼吉
同　員　山	（椪柑）	大正二年五月二十一日	澤田兼吉
同　枕頭山	（年柑）	大正二年五月二十三日	澤田兼吉
同　吧荖鬱	（柚仔）	大正六年五月二十二日	澤田兼吉
同　大湖庄	（年柑）	大正二年五月二十一日	澤田兼吉
同　阿里史	（椪柑）	大正六年五月二十四日	澤田兼吉
同　下三結	（椪柑）	大正六年五月二十四日	澤田兼吉
同　叭哩沙	（文旦 年柑）	大正六年五月二十四日	澤田兼吉
同　白米甕		大正二年五月十九日	澤田兼吉
同　同		大正六年五月二十五日	澤田兼吉
新竹廳新　埔	（椪柑）	明治四十三年五月六日	藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

同　同	（椪柑）	大正三年十二月二十三日	澤田兼吉
同　旱坑仔庄	（文旦）	大正六年六月五日	澤田兼吉
同　大山背	（柚仔）	明治四十三年五月五日	藤黒與三郎
同　北埔	（椪柑）	明治四十三年五月四日	藤黒與三郎
同　苗栗	（文旦）	明治四十三年五月二日	藤黒與三郎
同　尖山	（椪柑）	明治四十年十一月四日	鈴木力治
臺中廳石圍墻	（椪柑）	大正二年五月十四日	澤田兼吉
同　員林	（椪柑）	大正二年四月二十六日	澤田兼吉
同　關帝廳	（柚仔）	大正二年四月二十七日	澤田兼吉
南投廳龜仔頭	（柚仔）	明治四十三年十月十日	澤田兼吉
同　魚池	（柚仔）	明治四十年十月三十日	鈴木力治
同　炭寮	（椪柑）	明治四十三年十月七日	澤田兼吉
嘉義廳南仔庄	（椪柑）	明治四十年五月二十八日	鈴木力治
同　土庫		明治四十年五月二十八日	鈴木力治
臺南廳蔴荳	（文旦）	明治四十一年十月二十八日	澤田兼吉
阿緱廳阿緱	（椪柑）	明治四十二年十一月六日	澤田兼吉
同　內埔	（椪柑）	明治四十二年十一月七日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

花蓮港廳荳蘭（柚仔） 明治四十四年六月六日 澤田兼吉
同　大庄（柚仔） 明治四十二年五月十三日 澤田兼吉
臺東廳里壠（柚仔） 明治四十四年五月二十九日 澤田兼吉

記事

一、柑橘瘡痂病即チ Scab 又ハ Verrucose トシテ北米合衆國ヲ初メ日本、支那、菲律賓、濠洲、臺灣等ニ發生スル病害ハ各々其病徵等シクシテ柑橘潰瘍病即チ Citrus Canker トハ全ク異ルモノナリ、此瘡痂病ヲ起スヘキ病原菌ハ Massee 氏ニヨリテ命名セラレタル Cladosporium Citri Mass. ナル學名ヲ負フヲ至當トスヘシ同氏ノ其記載ヲ見ルニ擔子梗ハ大サ三〇—七五×二—四ミュー分生胞子ハ〇—三箇ノ隔膜ヲ有シ大サ八—九×二・五—四ミューアリト記セリ、而シテ我臺灣ニテ發生スル柑橘瘡痂病ノ病徵ハ全ク他國ノモノト等シキモ我菌ノ擔子梗ハ大サ一六—四〇×三・五—四ミューアリテ稍々短クシテ分生胞子ハ八—一七×三—五ミューアリテ著シク大形ナリ、然レトモ我菌ニ於テ Massee 氏ノ記スルモノト符合スヘキモノヲ含ム或ハ我菌ノ發生場所ハ濕氣多キカ故ニ胞子モ大形トナリシモノナラザルカ

二、本菌ノ寄主植物トシテ Swingle 及 Webber 兩氏ハ Lemon 及 Orange ヲ侵ストシ Massee 氏ハ Sour orange ヲ記シ Fawcett 氏ハ Sour orange, Lemon, Satsuma, Sweet orange ヲ記シ堀正太郎氏ハ九年母、天狗蜜柑ヲ記シ西田藤次氏ハ溫州、河內蜜柑、ヒラ蜜柑、金香子、橙、九年母、橘、ジャカタラ、カブス、枸橘ヲ記シ Wester 氏ハ菲律賓ニ於テ Rough lemon, Sweet orange, Pomelo, Lime, Lemon, Cabuyao 等ヲ記シ Cook 氏ハ Sour orange, Lemon, Mandarin, Pomelo, Sweet orange, Shaddock 等ヲ記シ又 Hume 氏ハ Sour orange,

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Bitter-sweet, Lemon, Satsuma, Rangpur Lime, King Mandarin, Pomelo, Kumquat. 等ヲ記セリ

病名

和名 柑橘瘡痂病

英名 Scab, Scabbing, Verrucose.

二三九 里芋田蟲病菌（第十四圖版、一―二）

Cladosporium Colocasiae Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第九（臺灣博物學會々報、第二十五號、一二五頁）一九一六

病徴 葉ヲ侵ス病斑ハ葉ノ兩面ニ生スルモ上面ニ生スル場合多ク淡黃褐色ニシテ圓狀ニ擴カリ大小不定ナリ病斑ノ組織ハ枯死セシメラル、コトナキヲ以テ決シテ乾燥又ハ腐敗スルコトナク持久的ナリ、病斑多數生セル葉ハ漸次ニ衰弱黃變シ萎凋ヲ早ム、殆ンド全島ニ分布シ夏季ニ發生盛ンナリ

病原菌 擔子梗ハ叢生又ハ單生シ淡褐色ニシテ一―六箇ノ隔膜ヲ有シ大サ七〇―一三四×四・五―六ミユーアリ其頂端ニ近ク數箇ノ胞子着生ノ跡ヲ存ス

分生胞子ハ單胞又ハ二胞ヨリ成リ長楕圓狀短棍棒狀又ハ繭形ニシテ無色乃至極淡黃褐色、平滑ニシテ二胞ヨリ成レルモノハ隔膜ニ於テ縊ヲナシ大サ一四―一八×六・五―八ミユーアリ

寄主植物

さといも及水芋（Colocasia antiquorum Schott.）ノ葉ニ寄生ス

分布 臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳臺北　大正二年七月十日　澤田兼吉

記事

里芋屬植物ニ寄生スル菌類ハ七種發表セラレタルモ本菌ニ符合スヘキ菌類ノ寄生セル記事ヲ見ス

病名

和名　里芋田蟲病

多胞黑糸菌亞科 (Subfam. Phragmosporae.)

葉枯病菌列 (Genus-group Helminthosporieae.)

葉枯病菌屬 (Genus Helminthosporium.)

二四〇　燕麥斑葉病菌

Helminthosporium Avenae-sativae (Briosi et Cav.) Lindau.

Lindau, G. - Rabenhorst's Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. IX. p. 35., 1910.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XXII. p. 1393., 1913.

SYN. *Helminthosporium teres Sacc. var. Avenae-sativae Br. et Cav.*

Briosi, G. e F. Cavara. - I Funghi Parasit. N. 80. ic, 1889.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

SYN. *Helminthosporium Avenae* Eidam.

Eidam. - In der Landw. Bd XXVII. p. 509., 1891.

Stevens, F. L. - The Fungi which cause Plant Disease. p. 613., 1913.

SYN. *Helminthosporium Avenae* Br. et Cav.

Ideta, A. - 日本植物病理學, p. 752., 1911.

病徵 葉、葉鞘、穎及芒等ヲ侵シ病斑ハ單獨ニ生シ散生シ初メ小線形ニシテ藁色乃至赤褐色ナレトモ漸次大サヲ增シ長サ普通一三ミ、メ、トナリ猶進ンテ其長サ及幅ヲ增シ大ナル長紡錘形黃褐色ノ病斑トナリ其兩面ニ煤色ノ黴ヲ薄ク生ス病斑多數生セル葉ハ早ク枯死セシメラル

病原菌 擔子梗ハ單生シ圓柱狀ニシテ直又ハ多少彎曲シ一—六箇ノ隔膜ヲ有シ大サ七二—二二八×八—一一ミューアリ其基部球狀ニ膨大シ直徑一六—二〇ミューアリ煤色ニシテ先端ニ近ク淡色ヲナス

分生胞子ハ單獨頂生シ圓柱狀ニシテ兩端圓頭、眞直ニシテ二—七箇ノ隔膜ヲ有シ普通隔膜ニ於テ縊レヲナサス、淡黃煤色乃至帶黃色ニシテ平滑大サ四〇—一一六×一一—二〇ミューアリ其基端ニ一箇ノ臍ヲ具ヘ其直徑六—八ミューアリ胞子ノ膜壁ハ普通薄ケレトモ厚サ五ミューニ達スルモノアリ

寄主植物

燕麥 (Avena sativa L.) ノ葉、葉鞘、穎及芒等ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正六年四月二十二日　澤田兼吉

分布 伊太利、獨逸、丁抹、日本、臺灣

記事
本菌ノ分生胞子ハ Helminthosporium gramineum Rab. ノソレニ酷似スレトモソレヨリ幅廣クシテ黄色ヲ帶ヒ且ツ臍ハ大形ナルニヨリテ異ル

病名
和名 燕麥斑葉病
獨名 Braunfleckigkeit des Hafers.

二四一 たうろうさう瘡痂病菌 （第十四圖版、一一—一二）

Helminthosporium Bryophylli Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十三（臺灣博物學會々報第十三號）一九一七

病徴 葉ヲ侵シ病斑ハ初メ葉ノ上面ニ生シ圓狀ニ擴カリ汚褐色粗面ニシテ瘡痂狀ヲナシ直徑普通一—三セ、メ、アリ漸次病斑部ノ組織枯死シテ葉裏マテ透達ス、此病斑ノ上面ニハ後ニ至リテ煤狀ノ黴ヲ生ス此病害發生スレハ群生セル一團ノ植物ノ葉ニハ夥シク此病斑ヲ生シテ勢力衰フルヲ見ル

病原菌 擔子梗ハ病斑ノ上面ニ生シ黑褐色又ハ暗褐色ニシテ殆ント不透明ナリ圓柱狀ニシテ稍々彎曲シ頂端ニ近ツキテ小屈曲アリ五—九箇ノ隔膜ヲ有シ大サ一一〇—一六〇×八—九ミュー アリ頂ニ分生胞子ヲ單生ス
分生胞子ハ灰色乃至淡煤色、砲彈形卽チ基端圓形頂ニ向ツテ漸細シ頂ニ於テ急ニ鈍角ニ狹マル基端ニ一箇ノ臍ヲ有シ二—四箇ノ隔膜ヲ有シ普通隔膜ニ於テ縊ヲナサス稀ニ縊レヲナスモノアリ平滑ニシテ大サ二八—四八×一一

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

一一一三ミュー アリ

寄主植物

たうろうさう (Bryophyllum calycinum Salisb.) ノ葉ニ寄生ス

分布 臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳北投	大正四年三月二十二日	藤黒與三郎
宜蘭廳大湖庄	大正六年五月二十二日	澤田兼吉
桃園廳湊合	大正六年四月三日	澤田兼吉

記事

Helminthosporium 屬ノ既知種類ハ約二百三十五種ニ達スレトモ我菌ニ符合スヘキ種類ナク又 Bryophyllum 屬ニ寄生セル記事ヲ見ス

病名

和名 たうろうさう瘡痂病

二四三 大麥斑葉病菌

Helminthosporium gramineum Rabh.

Rabenhorst, L. - Klotzsch. Herb. Myc. II, Ed. p. 332, 1856.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 615., 1892.

Raven, F. K. - Ueber Einige Helminthosporium Arten und die von deselben hervorgerufenen Krankh. bei Gerate und Hafer. (*Zeitsch.* fuer Pflanzenkrankh. Bd. XI. p. 1.) 1911.

Lindau, G. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutsch., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. IX. p. 34., 1910.

Ideta, A. - 日本植物病理學, p. 746., 1911.

SYN. Helminthosporium gramineum (Rabh.) Eriks.

Eriksson. - Ueber eine Blattfleckenkrankh. der Gerste. (Refer. Bot. Centralb. Bd. XXIX. p. 89.) 1887.

Frank, A. B. - Die Krankh. der Pflanz. Bd. II. p. 316., 1896.

Lindau, G. - Handb. der Pflanzenkrankh. Bd. II. p. 449., 1908.

Hori, S. - 農作物病學, p. 162., 1908.

SYN. Pleospora gramineum Died.

Stevens, F. L. - Fungi which cause Plant Disease. p. 261., 1913.

病徴　病斑ハ葉及葉鞘ニ生シ初メ葉ニ縱黄斑ヲ生シ其長サ一―一〇セ、メ、トナリ一葉上ニ普通數條乃至十數條ヲ生シ縞葉ノ觀ヲ呈ス、其黄斑上ニ多數ノ大小不同ナル暗褐色ノ短線狀ノ枯死セル部分ヲ生シ漸次病斑ヨリ枯死シ遂ニ全ク枯葉スルニ至ル、被害多キ畑ニ於ケル大麥又ハ稞麥ノ葉ハ殆ント悉ク侵サレ幼植物侵サルレハ植物ノ生育ヲ甚シク阻害シ夥シキ減收ヲ來スコトアリ

病原菌　擔子梗ハ葉ノ兩面ニ生シ單生又ハ叢生シ圓柱狀ニシテ基端膨大（直徑一五―一七ミュー）シ三―八箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲ有セス煤色ニシテ大サ八〇―一九〇×八―一〇ミューアリ其頂端ニ分生胞子ヲ單生スルモ

其胞子脱落セル後ハ胞子着生直下ヨリ短枝ヲ生シ再ヒ其頂ニ分生胞子ヲ形成シ再三繰返サレ後ニハ擔子梗ハ假單條ヲナス

分生胞子ハ圓柱狀ニシテ兩端圓頭大抵眞直ニシテ灰色乃至煤色ヲナシ平滑ニシテ基端ニ一箇ノ臍(直徑四―五ミュー)ヲ有シ一―九箇普通三―五箇ノ隔膜ヲ有シ普通隔膜ニ於テ縊レヲ有セサレトモ時ニ縊レヲナスモノアリ大サ四〇―一〇八×一二―二〇ミューアリ其膜壁ハ厚サ五ミューニ達スルモノアリ

發芽管ハ直徑四―八ミューアリ、稀ニ其頂端ニ小生子ヲ形成スルコトアリ其形楕圓形ニシテ一隔膜ヲ有シ無色ニシテ大サ二〇×一二ミューアリ

寄主植物

大麥(Hordeum sativum Jessen. var. vulgare)及

稞麥(Hordeum sativum Jessen. var. hexastichon)ノ葉及葉鞘ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

〔大　麥〕

臺北廳頂內埔庄		明治四十二年三月十七日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年三月二十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年三月二日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年三月十五日	藤黑與三郎
同	同	明治四十五年一月二十二日	藤黑與三郎

臺北廳頂內埔庄	大正二年一月十三日	藤黒與三郎
同　同	大正二年二月十四日	澤田兼吉
嘉義廳元長庄	大正八年二月二十七日	澤田兼吉
同　草湖庄	大正八年二月二十五日	澤田兼吉
（稞麥）		
臺北廳頂內埔庄	大正六年四月十日	澤田兼吉
同　同	大正六年四月二十五日	澤田兼吉

分布 和蘭、獨逸、丁抹、北米合衆國、日本、臺灣

病名

和名 大麥(稞麥)斑葉病

英名 Yellow leaf disease of Barley.

二四三 玉蜀黍葉枯病菌

Helminthosporium inconspicuum C. et Ell.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 411, 1886.

Frank, A. B. - Krankh. der Pflanzen. Bd. II. p. 317, 1896.

Lindau, G. - Rabh. Kryptogamenfl. von Deutschl., Oesterr. und der Schw. Bd. I. Abt. IX. p. 37. 1907.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Econom. Plants. p. 342, 1910.

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Reinking, O. A. - Philippine Econom. Plant Diseases. (Philippine Journ. of Science. Vol. XIII. No. 5. p. 251.) 1918.

病徵 葉及苞ヲ侵シ病斑ハ甚タ大形トナル初メ葉脈ニ沿ヒテ帶青灰色ノ紡錘狀ノ病斑ヲ生シ漸次大サヲ增シツヽ灰褐色又ハ藁色トナリ周邊暗色ヲ呈シ大サ普通八―二〇×一―二セ、メ、トナリ其表面ニ微カニ煤色ノ黴ヲ生ス一葉上ニ數多ノ病斑生スレハ爲メニ葉ハ枯死シ收穫期ニ至ル迄ニハ葉ハ殆ント全ク侵サレテ乾枯ス

病原菌 擔子梗ハ數本乃至六七本叢生シ直又ハ多少彎曲シ煤色ニシテ三又ハ四箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナサス大サ一一五―二〇〇×八―一〇ミュー アリ其頂端ニ分生胞子ヲ形成ス

分生胞子ハ長紡錘形ニシテ直又ハ少シク彎曲スルモノアリ兩端鈍頭、淡煤色ニシテ若キ胞子ニ於テ隔膜ヲ認メ難キコトアルモ三―六箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナサス比較的薄膜ニシテ大サ七五―一一三×一六―二〇ミューアリ

寄主植物

たうもろこし(Zea Mays L.)ノ葉及苞ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	大砂灣	明治四十二年七月三日	藤黑與三郎
同	頂內埔庄	明治四十年七月八日	鈴木力治
同	同	明治四十二年六月十六日	藤黑與三郎
同	同	明治四十三年六月八日	澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

新竹廳苗栗　明治四十三年五月二日　藤黒與三郎
臺南廳大目降　明治四十三年六月二十三日　澤田兼吉

分布　北米合衆國、菲律賓、臺灣

病名

和名　玉蜀黍葉枯病

英名　Yellow Leaf Disease of Maize, Helminthosporiose of Maize.

二四四　稻葉枯病菌

Helminthosporium Oryzae Miy. et Hori.

Hori, S. - 稻葉枯病、(農事試驗場報告、第十八號、p. 67.) 1901.

Hori, S. - 農作物病學、p. 105., 1904.

Yamada, G. - 植物病理學、p. 412., 1904.

Kawakami, T. and R. Suzuki. - 臺灣農作物病害目錄、其一、p. 1., 1908.

Miyake, I. - 我國ニ於ケル稻ノ菌類ノ研究 (植物學雜誌、第二十三卷、p. 138.) 1909.

Miyake, I. - Studien ueber die Pilze der Reis-Pflanze in Japan. (Journ. of Coll. of Agric., Imp. Univ. of Tokio. Vol. II. No. 4. p. 263.) 1910.

Ideta, A. - 日本植物病理學、p. 743., 1911.

Sawada, K. - 臺灣農事報、第六十三號、p. 16., 1912.

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

Kurosawa, G. - Notes on Some Diseases of Rice and Camphor Tree. (Miyabe-Festschrift. p. 47.) 1913.

Miyake, I. - Ueber Chinesische Pilze. (Bot. Mag., Tokio. Vol. XXVIII. No. 327. p. 54.) 1914.

Hara, K. - 稻ノ病害, p. 59., 1918.

病徵 水陸稻ノ葉、葉鞘、稈節及籾ヲ侵シ第一期作及第二期作共ニ苗代時代ヨリ收穫期ニ至ルマテ發生ス

葉及葉鞘ニアリテハ病斑ハ散生シ橢圓狀乃至紡錘形ニシテ血褐色ヲ帶ヒ小ナリ、然レトモ日ヲ經ルニ從ヒテ葉脈ニ沿ヘル大形ナル紡錘形トナリ褐色トナリ多數病斑ヲ生セル葉ハ遂ニ黃變枯死ス殊ニ苗代時代ニ於テ烈シク侵サレタル時ハ葉ハ褐色ノ見エヲナシ衰弱シ發育良好ナラス、大形トナレル病斑上ニハ煤色ノ黴ヲ微カニ生ス、又籾ヲ侵ス場合ハ黃熟ノ候ニ起リ籾ノ表面ニ煤色絨毛樣ノ黴ヲ密生シ子實ハ爲メニ實ラス、又登實充分ナラス普通一穗中數粒ヲ侵スモ濕氣多キ山地ニ於テ一穗中ノ穀粒ノ約過半數ヲ侵セルヲ見タリ

又稈節ヲ侵ス時ハ黑變シ恰モ稻いもち病菌カ稈節ヲ侵シタル場合ト彷彿タリ之レカ爲メニ局部以上ノ部分ハ衰弱ス窒素分ノ多キ場合ニ之レヲ見ル

病原菌 擔子梗ハ氣孔ヨリ數本叢生シ單條ニシテ直立又ハ多少彎曲シ茶褐色ニシテ頂端ニ近ク淡色トナリ基部稍々膨大シ厚膜ニシテ三—八箇ノ隔膜ヲ有シ長サ一一〇—二〇〇ミュー直徑六—八ミューアリ其頂端ニ分生胞子ヲ單生ス分生胞子ハ稍々斜形ヲナセル紡錘形ニシテ兩端鈍頭茶褐色ニシテ四—一〇箇ノ隔膜ヲ有シ厚膜トナリ大サ三二—一一三×一二—二〇ミューアリ

寄主植物

稻（Oryza sativa L.）ノ葉、葉鞘、稈節及籾ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	大武崙	明治四十二年七月十二日	藤黒與三郎
同	八堵	明治四十二年七月三日	藤黒與三郎
同	頂双溪	明治四十年七月十九日	鈴木力治
同	錫口	明治四十年七月八日	藤黒與三郎
同	頂内埔庄	明治四十年十一月四日	鈴木力治
同	同	明治四十一年六月五日	藤黒與三郎
同	同	明治四十一年七月九日	藤黒與三郎
同	同	明治四十一年十月十五日	藤黒與三郎
同	同	明治四十一年十月三十一日	藤黒與三郎
同	同	明治四十二年六月二十四日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年七月五日	澤田兼吉
同	同	明治四十三年四月五日	藤黒與三郎
同	同	明治四十三年十月四日	澤田兼吉
同	同	大正二年六月二十七日	藤黒與三郎
同	同	大正四年七月十二日	澤田兼吉
同	同	大正五年三月十日	藤黒與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

同	景尾	明治四十年七月五日	藤黒與三郎
同	溝仔口	明治四十一年七月二十九日	藤黒與三郎
同	深坑	明治四十年十月十二日	鈴木力治
同	大坪林	明治四十一年七月十五日	藤黒與三郎
同	双溪	明治四十一年七月十一日	藤黒與三郎
同	木柵	大正五年六月二十九日	澤田兼吉
同	小基隆	明治四十年十月十九日	鈴木力治
同	淡水	明治四十二年七月十三日	藤黒與三郎
宜蘭廳	坪林尾	明治四十年十月十四日	鈴木力治
同	宜蘭	明治四十年七月十五日	鈴木力治
同	羅東	明治四十二年七月九日	藤黒與三郎
同	鹿埔庄	明治四十一年二月二十九日	鈴木力治
同	叭哩沙	明治四十二年七月八日	藤黒與三郎
同	利澤簡	明治四十年七月十五日	鈴木力治
新竹廳	新埔	明治四十年十月十二日	鈴木力治
同	新竹	明治四十一年二月	鈴木力治
同	中港	明治四十年十月十日	鈴木力治

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

新竹廳中港	明治四十三年五月三日	藤黒與三郎
同　横山	明治四十三年五月五日	藤黒與三郎
同　公館庄	明治四十一年五月九日	藤黒與三郎
同　同	明治四十一年七月十五日	藤黒與三郎
同　大湖	明治四十一年五月九日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年五月一日	藤黒與三郎
同　拐仔湖	明治四十三年四月三十日	藤黒與三郎
同　鯉魚潭	明治四十三年五月一日	藤黒與三郎
臺中廳後里庄	大正六年七月二十五日	藤黒與三郎
同　新社	明治四十二年十一月十六日	澤田兼吉
同　同	明治四十四年八月九日	藤黒與三郎
同　石圍墻	大正二年五月十四日	澤田兼吉
同　東勢角	明治四十年二月八日	鈴木力治
同　臺中	明治四十二年十一月十五日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年十一月十六日	澤田兼吉
同　彰化	明治四十二年十一月十四日	澤田兼吉
同　員林	大正二年十月十三日	藤黒與三郎

同	二林	大正二年十月十四日	藤黒與三郎
南投廳	草鞋墩	大正五年十月三日	藤黒與三郎
同	土城區	明治四十年十月二十七日	鈴木力治
同	同	大正二年十月十九日	藤黒與三郎
同	紫橋頭	明治四十三年十月十三日	澤田兼吉
同	手眼山	大正二年十月十八日	藤黒與三郎
同	埔里社	大正二年十月十八日	藤黒與三郎
同	福興庄	大正二年十月十八日	藤黒與三郎
同	魚池	明治四十年十月三十日	鈴木力治
同	林圮埔	明治四十三年十月十三日	澤田兼吉
嘉義廳	西螺	明治四十二年十一月十三日	澤田兼吉
同	埤頭塡庄	明治四十二年十一月十二日	澤田兼吉
同	嘉義	明治四十一年十一月五日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年六月二十二日	南部詮雄
同	同	明治四十二年十一月九日	澤田兼吉
同	同	明治四十二年十一月十一日	澤田兼吉
同	水堀頭	明治四十一年十一月五日	澤田兼吉

嘉義廳小東庄	明治四十二年十一月十二日	澤田兼吉
同　撲仔脚	明治四十二年十一月五日	澤田兼吉
同　關仔嶺	明治四十一年十月二十九日	澤田兼吉
臺南廳蔴荳	明治四十三年十月一日	川上瀧彌
同　大目降	明治四十一年十一月一日	澤田兼吉
同　虎頭埤	明治四十二年十一月一日	澤田兼吉
同　臺南	明治四十二年十月三十一日	澤田兼吉
同　同	明治四十一年十一月四日	澤田兼吉
同　楠梓坑	明治四十二年十一月三日	澤田兼吉
同　田草埔	明治四十一年十月六日	鈴木力治
同　林仔邊	明治四十一年十月九日	鈴木力治
阿緱廳阿緱	明治四十二年十一月六日	澤田兼吉
同　同	明治四十四年十月三十日	藤黑與三郎
同　蕃薯寮	明治四十二年十一月四日	澤田兼吉
同　阿里港	明治四十一年十月三十日	鈴木力治
同　同	明治四十二年十一月五日	澤田兼吉
同　同	明治四十四年十月二十九日	藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

同　同　大正二年五月七日　澤田兼吉
同　茄苳脚　明治四十二年十一月五日　澤田兼吉
同　萬丹　大正六年六月十七日　澤田兼吉
同　潮州　明治四十二年十一月七日　澤田兼吉
同　蚊蟀　明治四十四年十一月七日　藤黑與三郎
花蓮港廳花蓮港　明治四十二年五月七日　澤田兼吉
同　薄々社　明治四十二年五月六日　澤田兼吉
同　六階鼻　明治四十二年五月九日　澤田兼吉

分布　支那、日本、臺灣

病名

和名　稻葉枯病

二四五　罌粟葉枯病菌（第十四圖版、九—一〇）

Helminthosporium Papaveris Sawada.

Sawada K.—臺灣菌類資料第十四、（臺灣博物學會々報、第三十二號）一九一七

病徵　葉、莖、花梗及果實ヲ侵ス葉ニアリテハ不正形ニ擴大セラル、褐色ノ病斑ヲ生シ病斑大形トナルニ従ッテ其中央ヨリ破レ又中肋侵サルレハ褐變シテ腐敗シ葉ノ基部侵サルレハ葉ハ垂下枯死シ猶ソレヨリ莖ニ及ホシ葉ノ着生部ヨリ上下ニ變色シテ擴カリ汚黃褐色トナリ皮層部ハ勿論木質部ヲモ侵シ莖ノ枯死ヲ來ス、又單ニ莖部ヲ侵

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

スコトアリ初メ暗褐色ニシテ縦ニ紡錘形ヲナシ後前記葉柄ヨリ擴カル場合ト等シキ病徴トナル又花梗ヲ侵ス場合ハ莖ヲ侵ス場合ト等シキ狀態ヲナス烈シク侵サルレハ殆ント綠葉ヲ失フニ至ル是等ノ場合ハ何レモ病斑上ニ煤色ノ黴ヲ生ス

果實ニアリテハ病斑圓狀ニ擴カリ黃褐色乃至褐色ニシテ其周圍黑褐色ヲナシ中央ヨリ煤色ノ黴ヲ密ニ一面ニ生シ時ニ同心圈ヲ畫クコトアリ、直徑普通一・五—二セ、メニシテ遂ニハ全ク果實ヲ被ヒ枯死セシメ液汁採集ヲナシ得サルノミナラス種子モ亦黑變悉ク死滅セシメ罌粟栽培上恐ルヘキ一病害ナリ

北部臺灣ニ於テ殊ニ蔓延烈シク被害甚タ多シ之レ罌粟ハ十一月頃ヨリ播種シ三四月ニ至リテ採汁スルヲ以テ此時期ハ北部臺灣ニ於ケル降雨期ニシテ霖雨繼續シ濕潤ナルカ為メニシテ降雨少ナキ年ニハ被害亦少ナシ

病原菌　擔子梗ハ叢生シ圓柱狀ニシテ二、三乃至五、六本ノ分枝ヲ生シ數多ノ隔膜ヲ有シ黃褐色ニシテ各分枝ノ頂ニ胞子ヲ單生ス胞子脫落後其着生部ノ側方ヨリ更ニ伸長シ再ヒ頂ニ胞子ヲ形成ス擔子梗ハ大サ八六—一三〇×六—七ミユーアリ

分生胞子ハ圓柱狀兩端圓頭三—一〇箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ稍々縊ヲナシ黃褐色平滑ニシテ大サ二二—一一二×七—一一ミユーアリ

寄主植物

罌粟（Papaver somniferum L.）ノ葉、莖、花梗及果實ニ寄生ス

分布　臺灣

臺灣ニ於ケル分布

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

臺北廳臺　北　大正六年四月二十五日　澤田兼吉
同　頂內埔庄　大正六年四月二十一日　澤田兼吉
嘉義廳竹頭崎　大正七年三月十日　素木得一

病名

和名　罌粟葉枯病

二四六　大麥葉枯病菌（第十四圖版、六—八）

Helminthosporium sativum Pamm., King et Bakke.

Pammel, L. H., King, C. M. and A. L. Bakke. - Iowa Bull. 116, 1910.

Stevens, F. L. - Fungi which cause Plant Disease. p. 613., 1913.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十六、（臺灣博物學會々報、第三十五號、p. 4.) 1918.

病徵　病斑ハ葉ニ生シ初メ小形暗褐色ニシテ長サ約一ミメナレトモ漸次其大サヲ增シ長楕圓狀乃至圓柱狀大サ約一乃至十ミメトナリ暗褐色ヲナセトモ遂ニハ紡綞形黃褐色ノ大形ナル病斑トナリ葉ヲ枯死セシム

病原菌　擔子梗ハ病斑ノ兩面ニ生シ數本叢生、圓柱狀ニシテ基端稍々膨大シ直徑一〇—一二ミユーアリ、直又ハ多少彎曲シ大サ五四—一一二×八—一〇ミユーアリ二—四箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナサス淡黃褐色ニシテ頂端ニ近ク淡色トナル頂ニ一箇ノ分生胞子ヲ形成ス

分生胞子ハ帶綠黃褐色乃至淡暗色紡綞形ニシテ兩端圓頭又ハ鈍頭ヲナシ多少彎曲又ハ直ナリ平滑ニシテ薄膜又ハ厚膜ニシテ厚サ五ミユーニ達スルモノアリ四—九箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊ヲナサス大サ五二—一二〇×一六—

二一ミューアリ其基端ニ一箇ノ臍ヲ有ス臍ノ直徑四ミューアリ

寄主植物

稞麥(Hordeum sativum Jessen. var. hexastichon)及

大麥(Hordeum sativum Jessen. var vulgare.)ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　大正六年四月十日　澤田兼吉

分布　北米合衆國(Iowa, South Dakota, Minnesota, Saskatchewan.)及臺灣

病名

和名　大麥(稞麥)葉枯病

英名　Destructive late blight of Barley.

二四七　粟葉枯病菌

Helminthosporium Setariae Sawada.

Sawada, k.－臺灣農事報, 第六十四號, 一九頁, 一九一二

病徵　葉ヲ侵シ病斑ハ暗褐色ノ細點ニ初マリ小紡綞形トナリ漸次其大サヲ增シ遂ニ灰褐色緣邊褐色ヲナセル大ナル紡綞形トナリ大サ普通一〇－四〇×二－四ミ、メ、遂ニ葉ヲ枯死セシム病斑ノ表面ニハ煤色ノ黴ヲ生ス

病原菌　擔子梗ハ叢生シ圓柱狀、直又ハ多少彎曲シ煤色ニシテ六－九箇ノ隔膜ヲ有シ基端稍々膨大シ先端ニ分生胞子ヲ着生スルモ其脫落後、數囘伸長、胞子ヲ生成シ多少屈曲ス、普通一擔子梗ハ數箇ノ胞子ヲ着生セシ跡ヲ印

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

セリ、大サ一三五—一八〇×五・五—六・五ミューアリ

分生胞子ハ紡錘形ニシテ常ニ多少彎曲シ淡煤色乃至帯暗褐色ニシテ厚膜六—一〇箇ノ隔膜ヲ有シ平滑ニシテ大サ四二—九七×一一—一五ミューアリ

寄主植物

粟（Setaria italica Beauv.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

花蓮港廳	薄々社	明治四十二年五月八日	澤田兼吉
同	拔仔庄	明治四十二年五月十日	澤田兼吉
臺東廳	德高社	明治四十四年五月二十九日	澤田兼吉
同	知本社	明治四十二年四月二十六日	澤田兼吉

分布 日本、臺灣

病名 和名　粟葉枯病

二四八　ねずみのを煤穂病菌

Helminthosporium tonkinensis Karst. et Roum.

Karsten, P. A. et Roumeguere. - Rev. Myc. p. 78., 1890.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 616., 1892.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十一、（臺灣博物學會會報、第二十七號、）1916.

病徵　穗ヲ侵シ穗ノ表面一面ニ或ハ一部分ニ煤色ノ黴ヲ生シ烈シク發生スレハ穗ヲ糊着セシメ猶其表面ニ煤色ノ黴ヲ密ニ生ス秋冬ノ候ニ至レハ此ノ菌類ノ發生旺ニシテ殆ント總テノ穗ハ皆黑變スルヲ見ル

病原菌　擔子梗ハ多數叢生シ多クハ基部ヨリ分枝シ又所々ヨリモ分枝ヲ生スルコトアリ又稀ニ單條ナルモノヲ交フルコトアリ圓柱狀帶暗黃褐色ニシテ多クノ隔膜ヲ有シ高サ約二〇〇ミュー直徑四—八ミューアリ其頂ニ分生胞子ヲ單生ス

分生胞子ハ紡錘形、棍棒狀紡錘形又ハ稍々圓柱狀ニシテ兩端圓頭、直又ハ多少彎曲シ基端ニ擔子梗ニ附着セシ痕跡ヲ存シ帶暗黃褐色、平滑ニシテ二—七箇ノ隔膜ヲ有シ普通隔膜ニ於テ縊レヲナサ、ルモ時ニ縊レヲナスモノアリ大サ三二—八四×一二—一九ミューアリ

寄主植物

ねずみのを (Sporobolus elongata R. Br.) ノ穗ニ寄生ス

分布　爪哇、トンキン、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年三月二日	鈴木力治
同	明治四十一年十一月二日	鈴木力治
同	明治四十一年十二月二十四日	澤田兼吉
同	大正二年二月八日	澤田兼吉
同	大正五年十一月十二日	澤田兼吉

同　林口庄	明治四十二年十二月三日	澤田兼吉
新竹廳樹圯林	明治四十年十月十一日	鈴木力治
臺中廳右里庄	明治四十一年五月六日	藤黒與三郎
同　臺中	大正二年十月十一日	藤黒與三郎
南投廳水社	明治四十年十月三十一日	鈴木力治
嘉義廳斗六	明治四十二年十一月十三日	澤田兼吉
同　嘉義	明治四十一年十一月五日	澤田兼吉
同　水屈頭	明治四十二年十一月十一日	澤田兼吉
同　鹽水港	明治四十一年十月二十六日	澤田兼吉
臺南廳虎頭埤	明治四十一年十一月一日	澤田兼吉
同　臺南	明治四十一年十月三十一日	澤田兼吉
同　鳳山	大正六年六月十六日	澤田兼吉
阿緱廳鵞鑾鼻	明治四十一年十月十八日	鈴木力治

記事

Sporobolus 屬植物ノ穗上ニ生スル Helminthosporium 菌トシテ知ラレタルモノ三種アリ卽チ

（一） H. Ravenelii Curt. et Berk.

初メ Sporobolus indica ノ穗ニ寄生シタルヲ發見シ後諸種ノ禾本科植物ノ穗上ニ發見シ米國、キユバ及濠洲

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

等ニ分布シ擔子梗ハ隔膜ナク分生胞子ハボート形ニシテ三—四箇ノ隔膜ヲ有シ長サ五〇ミューアリ

(二) H. Tonkinensis Karst. et Roum.

トンキンニテ Sporobolus tenacissimus ノ穗ニ發見セラレ擔子梗ハ直徑六—九ミューアリ分生胞子ハ三—五箇ノ隔膜ヲ有シ大サ六七—七八×一三—一七ミューアリ

(三) H. crustaceum P. Henn.

爪哇ブイテンゾルグニテ Sporobolus 屬植物ノ穗ニ發見セラレシモノニシテ擔子梗ハ直徑四—七ミュー分生胞子ハ三—五箇ノ隔膜ヲ有シ大サ四〇—六〇×一二—一六ミューアリ

是等三種ハ各々其原標本ヲ檢スルニ非ラサレハ其同否ヲ斷言スルニ難ケレトモ何レモ酷似セルモノナリ而シテ(一)ハ記載不完全ニシテ(二)及(三)ハ我菌ニ殆ント符合スル如ク思ハル

病名

和名　ねずみのを煤穗病

二四九　高粱斑葉病菌

Helminthosporium turcicum Pass.

Passerini. - La Nebbia del grau turco., 1876.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 420., 1886.

Frank, A. B. - Krankh. der Pflanzen. Bd. II. p. 316., 1896.

Stevens, F. L. - Fungi Which cause Plant Disease. p. 613., 1913.

病徵　葉ヲ侵シ屢々被害大ナリ、初メ葉脈ニ沿ヒテ紫紅色ヲ帶ヘル紡錘狀ノ病斑ヲ生シ病斑ノ增大スルニ從ヒテ中央部帶青灰色トナリ其周邊紫紅色ニシテ大サ普通三〇―五〇×四―六セメトナル中央部ハ遂ニ灰色ニ變シ其處ニ一面ニ煤色ノ黴ヲ生ス、葉ハ之レカ爲メニ乾枯セシメラル

病原菌　擔子梗ハ數本叢生シ直又ハ少シク彎曲シ帶暗褐色ニシテ基部少シク膨大シ一―四箇ノ隔膜ヲ有シ大サ九〇―一五〇×八・五―九・五ミューアリ其頂端ニ分生胞子ヲ着生ス

分生胞子ハ長紡錘形兩端鈍頭又ハ圓頭ヲナシ基端小突起ヲ有スルモノアリ、帶暗褐色ニシテ三―八箇ノ隔膜ヲ有シ大サ八〇―一三五×一八―二五ミューアリ其膜壁ハ厚成セラル

寄主植物

高粱（Andropogon Sorghum Brot. var. vulgaris.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂内埔庄　明治四十二年十月五日　藤黒與三郎

同　同　明治四十二年十月九日　藤黒與三郎

同　同　明治四十三年九月二十七日　澤田兼吉

分布　伊太利、北米合衆國、日本、印度、臺灣

記事

本菌ハ Helminthosporium inconspicuum C. et Ell. 菌ニ近似スルモ胞子ノ膜壁厚クシテ其色濃ク隔膜ノ數亦多シ

病名

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

和名 高粱斑葉病

英名 Leaf Blight of Sorghum.

輪生多胞黑子菌屬 (Genus Spondylocladium.)

二五〇 馬鈴薯瘡痂病菌

Spondylocladium atrovirens Harz.

Harz, C. O. - Einige Neue Hyphomyceten. (Bull. Soc. Imp. Nat. Moscou. XLIV. I. p. 129.) 1872.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 483., 1886.

Lindau, G. - Sorauer Handb. der Pflanzenkrakh. Bd. II. p. 451., 1908.

Clinton, G. P. - Conn. Experiment St. Rept. 1907-1908. p. 357.

Lindau, G. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. IX. p. 142., 1910.

Massee, G. - Diseases of Cultiv. Plants and Trees. p. 478., 1910.

Stevens, F. L. - Fungi which cause Plant Disease. p. 614., 1913.

SYN. *Dematium atrovirens Harz.*

Harz, C. O. - Einige neue Hyphomyceten. 1972.

SYN. *Cladosporium abietinum Zukal.*

Zukal, H. - Neue Ascomyc. p. 8., 1889.

SYN. *Phellomyces sclerotiophorus Fr.*

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Frank. - Kampfbuch. p. 182, 1897.

Frank. - Ber. der Deutsch Bot. Ges. Bd. XVI p. 273, 1898.

Appel et Laubert. - Konidienform des Kartoffelpilz. Phellomyc. sclerotiophorus Fr. (Ber. der Deutsch. Bot. Ges. Bd. XXIII. p. 218.) 1905.

SYN. Spondylocladium abietinum (Zukal.) Sacc.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. X. p. 662, 1892.

病徴　馬鈴薯ヲ收穫スル時ニ屢々薯ノ表面ニ褐色ノ木栓質狀ニ腐蝕セル如キ多數ノ斑紋ヲ生スルヲ見ルヘシ又市場ニ販賣スルモノニモ屢々斑紋ヲ生スルヲ見ルヘシ、之レ此病害ニ侵サレタルモノナリ

初メ薯ノ表面ニ淡煤色ノ黴カ圓狀(直徑約五—一〇ミ、メ、)ニ擴カルヲ認ムヘク更ニ進ミテ其發生セル部分ノ表皮剝離シテ内部ヨリ暗褐色ノ腐朽セル木栓質ノ如キ物質ヲ顯出シ來リ猶進ミテハ其範圍ヲ增シ侵蝕ノ度ヲ增シテ恰モ多數ノ瘡痂ヲ生シタル如キ見エトナル其大サ普通三—二〇ミ、メ、ニ達シ一箇ノ薯ニ數十ノ瘡痂ヲ生スルモノアリ、此瘡痂ハ漸次内方ニ侵蝕シ普通五ミ、メ、乃至一〇ミ、メ、ノ深サニ達シ貯藏スルニ於テハ殆ント食用ニ堪ヘサルニ至ラシム

病原菌　病斑ハ汚褐色ニシテ腐蝕凹陷シ縁邊少シク隆起シ僅カニ外皮ノ裂片ヲ以テ被ハレ直徑三—三〇ミ、メ、アリ擔子梗ハ暗褐色單生又ハ二三叢生シ直立シ單條ニシテ剛毛狀ヲナシ稍々厚膜五—一一箇ノ隔膜ヲ有シ大サ一二〇—三二〇×七—八ミューアリ、其約上半部ニ於ケル各節間ノ上方ニ近ク周圍ニ二—四箇ノ分生胞子ヲ無柄ニ輪生シ又擔子梗ノ頂上ニモ生ス胞子着生部ハ胞子脫落後極微細ナル臍點ヲ印ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

分生胞子ハ長圓錐形ニシテ頂端殆ント鋭尖ニ終リ基端圓頭ナリ淡煤色乃至暗褐色ニシテ膜壁ハ基方ニ向ツテ厚成セラレ其厚サ三ミュー二達ス、三―七箇ノ横隔ヲ有シ大サ二八―五四×六・五―一四ミューアリ

寄主植物

馬鈴薯(Solanum tuberosum L.)ノ塊莖ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳臺北市場　大正五年十二月二十六日　藤黒與三郎

同　頂内埔庄　大正六年三月十三日　澤田兼吉

分布　墺太利、英國、北米合衆國、日本、臺灣

記事

一、本病菌ハ内地ヨリ移入セラル、馬鈴薯ニ附隨シ來ルモノアリテ市場ニテ屢々賣買セラル、馬鈴薯ヲ侵セルモノヲ發見ス

二、本島ニ於テ馬鈴薯ヲ栽培スレハ亦此被害ヲ蒙ル、我菌ハ Massee. Lindau 及 Saccardo 氏等ノ記事ニ殆ント一致ス

三、Zukal 氏カ墺太利ニ於テ Cladosporium abietinum Zukal. ト命名セシ菌アリ之レヲ Saccardo 氏ハ Spondylocladium abietinum (Zukal) Sacc. ト改メ氏ノ著 Sylloge Fungorum. Vol. X. ニ載セ其胞子ハ短カケレトモ Spondylocladium atrovirens. 菌ナルヘキハ殆ント疑ナシト記セリ、其擔子梗ハ二五〇―三五〇×四―八ミューアリトシ我菌ト殆ント一致シ胞子ハ隔膜數三―四箇アリテ大サ三八×九ミューアリトセリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

被害程度ノ甚シク進ミタル標本ヨリ胞子ヲ取リテ檢シ又胞子ノ稍々若キモノヲ檢スル場合ニ之レト殆ント一致スルモノヲ見出ス而シテ Zukal 氏カ胞子ノ大サヲ只三八×九ミュートナシタルハ暗ニ少數ノ胞子ニ就テ記載ヲ與ヘタルヲ意味スルモノニシテ他ノ記事ヨリシテモ Saccardo 氏ノ説ノ如ク Spondyl. atrovirens菌ト同一種ナルヘシト思ハル

病名

和名 馬鈴薯瘡痂病

英名 Dry scab of Potato.

二五一 桑輪斑病菌（第十三圖版、三一―三五）

Spondylocladium Mori Sawada. sp. nov.

病徴 病斑ハ葉上ニ生シ一葉上ニ一二箇時ニ約十箇ヲ生スルコトアリ圓狀ニ擴カリ明瞭ナル同心輪帶ヲ現ハシ中央淡黃褐色ニシテ漸次外方ノ輪帶ハ褐色ヲナシ最外輪帶ハ橄欖灰色ヲナシ而シテ各輪帶ノ境界線ハ常ニ褐色ナリ、病斑ハ恰モ輪環狀嵌工細工ノ如クニシテ普通一―四セ、メ、アリ、其裏面ニハ紫褐色ヲ帶ヘル粉末ヲ一面ニ布ケリ、此病害ハ秋ニ入リテ甚シク發生シ落葉ヲ早ム

病原菌 擔子梗ハ葉ノ下面ニ生シ直又ハ斜出シ淡褐色ヲ帶ヒ多クノ隔膜ヲ有シ二三分枝ヲ分ツ高サ一八〇―二七〇ミュー直徑三―四ミューアリ、擔子梗ハ先端ヨリ約三―八箇ノ各細胞上ニハ同方向ニ各一箇ノ瘤狀突起ヲ生シ其瘤上ニハ更ニ多クノ細疣ヲ生シ其細疣上ニ分生胞子ヲ形成ス

分生胞子ハ長楕圓形乃至短圓柱狀棍棒狀ニシテ稍々彎曲シ其頂圓頭、基部斜ニ鈍頭ヲナシ平滑ニシテ三箇ノ隔膜

ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサス無色乃至灰色大サ一三―二四×三・五―四・五ミューアリ

寄主植物

桑(魯桑)(Morus alba L.)ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十一年十月十七日　藤黑與三郎

同　同　明治四十二年十月二十六日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

Spondylocladium 屬既知種類中ニハ我菌ト符合スヘキモノナシ

此病菌ニヨリテ侵サレテ生スル病斑ハ頗ル Cephalosporium zonatum Saw. 菌ニ侵サレテ生セシモノト甚タ近似セリ、然レトモ其裏面ニ生スル黴ハ肉眼的ニ於テモ明カニ異ナレリ

病名

和名　桑輪斑病

・ 蠕蟲子黑絲菌亞科(Subfam. Scolecosporae.)

尾子菌屬(Genus Cercospora.)

二五二　山麻黑星病菌(第十四圖版、一八―一九)

Cercospora Corchori Sawada.

Sawada, K. ‑ 臺灣菌類資料、第十（臺灣博物學會々報、第二十六號、一七九頁）一九一六

病徵 葉及莖ヲ侵ス、病斑ハ葉ニアリテハ葉脈ニ限ラレテ多角狀又ハ不正複角形ニシテ暗色ヲ呈シ數多散生シ長サ一―六ミメ、アリ病斑多數生セル葉ハ黃變落下シ烈シク侵サレタル株ハ比較的若キモノモ下葉ヲ失フニ至ルコトアリ、莖ニアリテハ暗褐色ノ種々ノ形ヲナセル病斑ヲ生シ遂ニハ纖維ヲ着色セシム

病原菌 胞子ハ葉ノ裏面ニ生ス、擔子梗ハ淡褐色ヲ帶ヒ氣孔ヨリ四本乃至十數本叢生シ單條頂ニ近ク屈曲シ一二ノ隔膜ヲ有シ又ハ之レヲ缺クモノアリ大サ二五―七五×四―六ミュー アリ又叢生箇所ヨリ匍匐セル短枝ヲ生シ其上ニ短キ擔子梗ヲ分出スルコトアリ

分生胞子ハ狹披針形ニシテ基部切斷狀ニシテ頂端ニ向ツテ漸細シ頂端銳角ヲナス無色ニシテ二乃至七箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサス大サ三五―一一二×三―五ミュー アリ

寄主植物

やまつなそ（Corchorus olitorius L.）ノ葉ニ寄生ス

分布 臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十二年七月十七日	藤黑與三郎
同　同	明治四十二年七月三十日	澤田兼吉
同　同	明治四十三年六月二十五日	藤黑與三郎

臺北廳頂内埔庄　明治四十三年八月二十五日　藤黒與三郎
同　同　大正二年七月二十五日　藤黒與三郎
同　同　大正六年六月三十日　澤田兼吉

記事

本菌ハ山麻ノ生育期中常ニ發生シ收穫期ニ近ツクニ從ツテ發生盛ントナル而シテ黄麻卽チつなそ（Corchorus capsularis L.）ニハ全ク寄生スルコトナシ

本菌ニ就テ未タ嘗テ記錄セラレタルモノアルヲ見ス

病名

和名　山麻黒星病

二五三　うしがやつり葉枯病菌（第十四圖版、一三―一四）

Cercospora Cyperi Sawada.

Sawada, K. — 臺灣菌類資料、第三、（臺灣博物學會々報第十七號）一九一四

病徵　葉及花梗ヲ侵シ病斑ハ鼈甲色ニテ限界ナク擴カリ漸次ニ擴大シ後黄褐色ニ變シ之レカ爲メニ植物ハ萎凋枯死ス、秋季ニ發生ス

病原菌　擔子梗ハ數本宛叢生シ淡褐色ニシテ單條、頂ニ近ク稍々屈折形ヲナスモノアリ隔膜ヲ有セサルカ又ハ一箇ヲ有ス大サ四二―五五×四―五ミューアリ

分生胞子ハ無色、圓柱狀棍棒狀ニシテ基部切斷狀、頂端ニ向ツテ漸細シ鈍頭ニ終ル五乃至九箇ノ隔膜ヲ有シ大サ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

四〇—八八×五—六ミユアリ

寄主植物

うしがやつり (Cyperus pilosus Vahl.) ノ葉及花梗ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正二年十一月八日　澤田兼吉

分布　臺灣

病名

和名　うしがやつり葉枯病

二五四　はませんだん煤點病菌

Cercospora Evodiae Syd.

Sydow. H. et P. - Beitrag zur Kenntn. der Parasit. Pilze der Insel Formosa. (Ann. Myc. Vol. XII. no. 2. p. 112.) 1914.

寄主植物

はませんだん (Evodia meliaefolia Benth.)

臺灣ニ於ケル分布

宜蘭廳大湖庄　大正二年五月二十一日　澤田兼吉

病名

和名　はませんだん煤點病

二五五　かきばかんこのき葉枯病菌（第十四圖版、一五—一七）

Cercospora Glochidionis Sawada.

Syn. Gloeosporium Glochidionis Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第八、（臺灣博物學會々報、第二十四號）一九一六

病徴　葉ヲ侵シ病斑ハ圓狀又ハ不規則ニシテ普通五—一五ミ、メ、大ナルハ三セ、メ、ニ達スルモノアリ初メ赤褐色ニシテ漸次帶紫暗褐色トナリ後中央ヨリ灰色トナル故ニ病斑ハ中央灰色ニシテ乾燥シ周圍帶紫暗褐色ヲナシ其灰色トナレル部分ノ上面ニ一面ニ黑色ノ微細ナル點ヲ生ス又時ニ裏面ニモ生スルコトアリ之レカ爲メニ葉ハ乾枯落下スルニ至ル

病原菌　擔子梗ハ主ニ葉ノ上面ニ生シ時ニ裏面ニモ生ス無數ニ密生シ一群約五六十乃至百本以上ヲ算スヘシ其基部ハ暗色ナル組織狀ヲナシテ表皮下ニ達ス

擔子梗ハ淡灰色ヲ帶ヒ隔膜ヲ有セサルカ或ハ一箇ヲ有シ頂端ニ一二箇ノ胞子附着セル跡ヲ印シ鈍頭ヲナシ大サ一八—二六×四—六ミューアリ

分生胞子ハ無色乃至極淡色ヲ帶ヒ平滑圓柱狀ニシテ頂端ニ向ツテ漸細シテ鈍頭ニ終リ基端モ亦僅カニ狹マル、直又ハ稍々彎曲シ二—五箇ノ隔膜ヲ有シ大サ二八—六四×三—三・五ミューアリ

寄主植物

かきばかんこのき（Glochidion hongkongense Muell. Arg.）ノ葉ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

分布　臺灣

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳臺北　明治四十一年十二月十六日　澤田兼吉

同　頂内埔庄　大正五年二月十九日　澤田兼吉

同　同　大正七年三月十日　澤田兼吉

記事

一、Glochidion 屬又ハ Phyllanthus 屬中ニハ未タ本菌ノ寄生セル記錄ヲ見ス

二、本菌ノ若キ胞子層ニハ短キ擔子梗密生シテ半ハ寄主組織内ニ埋モレ且ツ稈狀ノ單胞胞子ヲ形成スルヲ以テ Gloeosporium 屬ノ如ク見誤ルコトアリ

病名

和名　かきばかんこのき葉枯病

二五六　キヤツサバ斑點病菌

Cercospora Henningsii Allesch.

Hennings, P. - Pilz. Ostafr. p. 35.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XIV. p. 1104, 1899.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十二、（臺灣博物學會々報、第二十九號、）1917.

病徵　葉ヲ侵ス、病斑ハ圓狀又ハ不正形ニシテ直徑五—一二ミメ、普通五—七ミメ、アリ初メ赤褐色ニシテ後灰色ト

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ナリ其上面ニ黑色ノ細點ヲ多數生ス、病斑ハ褐色ノ線ヲ以テ境シ猶其周圍ハ廣ク紫褐色ヲ呈シ病斑多ク生セル葉ハ早ク落下ス

病原菌　擔子梗ハ葉ノ上面ニ生シ數本乃至數十本叢生シ黃褐色、單條、隔膜ヲ有セサルカ又一二箇ノ隔膜ヲ有シ短クシテ頂ニ數箇ノ分生胞子着生セシ跡ヲ印ス大サ二一—五二×四—六ミューアリ

分生胞子ハ頂生シ棍棒狀圓柱狀又ハ稍々圓柱狀ニシテ頂端圓頭二乃至五箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲ有セス直又ハ稍々彎曲シ無色又ハ淡色平滑ニシテ大サ二七—六八×四・五—七ミューアリ

寄主植物

キャツサバ（Manihot utilissima Pohl.）ノ葉ニ寄生ス

分布　熱帶亞弗利加、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

南投廳眉　溪	明治四十年十月二十九日	鈴木力治
臺南廳蕭　壠	明治四十一年十月二十七日	澤田兼吉

記事

我菌ノ胞子ハ亞弗利加產ニ比シ稍々大形ナルカ如キモ普通ノ大サノモノハ全ク之レニ一致ス

病名

和名　キャツサバ斑點病

二五七　煙草白星病菌

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

Cercospora Nicotianae Ell. et Ev.

Ellis, J. B. et B. M. Everhart. - New Sp. North Americ. Fungi. (Proceed. Acad. S. N. Philad. 1893. p. 170.)

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XI. p. 628., 1895.

Raciborski, M. - Parasit. Alg. und Pilze Javas., Theil II. p. 40., 1900.

Selby, A. H. - Tobacco Diseases and Tobacco Breeding. (Ohio Agric. Expt. St. No. 156.) 1905.

Jensen, H. - Versuche mit Drei Tabakkrankh. (Jahrb. Dept. Land. Nederl. Indie. 1903. p. 100-107.

Duggar, B. M. - Fung. Diseases of Plants. p. 315., 1909.

Stevens, F. L. and J. G. Hall. - Diseases of Econom. Plants. p. 303., 1910.

Pressecker, K. - In Dalm. und Galizien Jahr. 1910. Aufgetret. Schadl. Krankh. und Anderweit. Beschadig. des Tabaks. (Fachliche Mitteil. der Oesterr. Tabakregie, Wien. 1911 Heft. 13. p. 127-130.)

Cook, M. T. - Diseases of Tropical Plants. p. 153., 1913.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十二、(臺灣博物學會々報、第二十九號) 1917.

SYN. Cercospora Raciborskii Sacc. et Syd.

Saccardo, P. -Syll. Fung. Vol. XVI. p. 1070, 1902.

病徴　葉ヲ侵ス、病斑ハ散生シ圓狀ニシテ初メ褐色後中央ヨリ灰色トナリ屢々圓心輪ヲ現ハスコトアリテ兩面ニ煤色ノ黴ヲ生ス直徑一―一〇ミ、メ、普通四―六ミ、メ、アリテ時ニ病斑一葉上ニ百以上ヲ生スルコトアリ病斑多ク生セ

ル葉ハ黃變未熟ニシテ凋枯シ假令少數生セルモノト雖モ製造用ニ適セサルニ至ル

病原菌　擔子梗ハ病斑ノ兩面ニ生シ普通十數本宛叢生シ黃褐色ヲ帶ヒ單條直又ハ稍々彎曲シ二—一五箇ノ隔膜ヲ有シ頂端ニ近ク二三又ハ七八箇ノ胞子着生セシ跡ヲ存ス又其先端更ニ發芽生長シテ再ヒ胞子ヲ形成スルコトアリ長サ七二—三六〇ミュー幅四—六ミューアリ

分生胞子ハ針狀ニシテ先端ニ向ツテ漸細シ殆ント鋭角ニ終リ基部切斷狀、無色、平滑、直又ハ稍々彎曲シ五—一二箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサス大サ四〇—二一五×三・五—五ミューアリ

寄主植物

煙草（Nicotiana Tabacum L.）ノ葉ニ寄生ス

分布・北米合衆國、西印度、爪哇、錫蘭、スマトラ、クイーンスランド、墺國、日本、臺灣

臺灣ニ於ケル分布

宜蘭廳叭哩沙	明治四十二年七月八日	藤黑與三郎
新竹廳大坪林	明治四十四年八月十一日	藤黑與三郎
臺中廳太平庄	明治四十四年八月六日	藤黑與三郎
嘉義廳刺桐巷	明治四十二年十一月十三日	澤田兼吉
阿緱廳恒春テラツ	明治四十三年七月八日	澤田兼吉
花蓮港廳薄々社	明治四十四年六月六日	澤田兼吉
同　大庄	明治四十四年五月三十日	澤田兼吉

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

同　公　埔　明治四十四年五月二十九日　澤田兼吉

臺東廳嗄吧灣　明治四十四年五月二十五日　澤田兼吉

同　都　壢　明治四十四年五月二十二日　澤田兼吉

同　都　鑾　明治四十二年四月二十九日　澤田兼吉

同　知　本　明治四十四年五月十九日　澤田兼吉

記事

一、Ellis 及 Everhart 兩氏カ西暦一八九三年米國ニ於テ本菌ヲ發見シ Cercospora Nicotianae ト命名發表セシヲ創トス、西暦一九〇〇年 Raciborski 氏カ爪哇ニ於テ之レヲ發見シ Cercospora Nicotianae ナル學名ノ下ニ記載セシカ Saccardo 及 Sydow 兩氏カ其胞子ノ甚シク長形ニシテ且ツ擔子梗短キ等ノ理由ニヨリ新種トナシ Cercospora Raciborskii ト命名發表セリ、然レトモ余カ觀察スル處ニ於テハ兩者同一ノモノト認メサルヲ得ス

Ellis 及 Everhart 兩氏ノ記スル所ヲ見ルニ胞子ハ葉ノ兩面ニ生シ擔子梗ハ大サ七五—一〇〇×四—五ミュー アリ胞子ハ四〇—七五×三—三・五ミュー アリテ六箇ノ隔膜ヲ有ストセリ更ニ Raciborski 氏ノ記スル所ヲ見ルニ擔子梗ハ葉ノ裏面ニ生シ一乃至二箇ノ隔膜ヲ有シ大サ四〇—九〇×六ミュー アリトシ又胞子ハ三—五箇ノ隔膜ヲ有シ大サ六〇—一八〇×四—四・五ミュー アリトセリ

然ルニ我菌ニアリテハ病徵全ク前兩者ト等シク胞子ハ葉ノ兩面ニ生シ時ニ上面ニ多ク生スルヲ見又稀ニ裏面ニ多ク生スルヲ見ル又擔子梗ハ隔膜二—一五箇アリ大サ七〇—三六〇×四—六ミュー アリ又胞子ハ五—一

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

二箇ノ隔膜ヲ有シ大サ四〇—二一五×三・五—五ミューアリ

是等三者ヲ比較觀察スルニ亞米利加產卽チ Ellis 及 Everhart 兩氏ノモノト爪哇產卽チ Raciborski 氏ノモノトハ互ニ相違スルモノノ如キモ我菌ハ兩者ニ相等シク何レトモ區別シ得ヘカラス

Saccardo 及 Sydow 兩氏ハ擔子梗及分生胞子ノ長短ニヨリテ別チタルモ我菌ニ就テ觀察スルニ或者ハ短ク或者ハ長ク病斑ノ新舊ニヨリ又天候場所ノ乾濕ニヨリテ異ルモノ、如ク一葉上ノ或ル病斑ニハ擔子梗ノ七〇ミュー又ハ八〇ミュー位ノ長サヲ有スルモノアリ又他ノ病斑ニハ一〇〇ミュー以上ノ長サヲ有スルモノノミヲ生スルモノアリテ一定セス從ツテ其隔膜數モ異リ猶擔子梗ノ再三頂端ニ於テ發芽伸長セシモノニアリテハ著シク其數ヲ增セリ、此事實ハ本菌ニ於ケルノミナラス本屬ノ他ノ種類又ハ他菌類ニ於テモ認メラル、所ニシテ此一事ヲ以テ分類上ノ重要ナル條件トナスヘカラス

更ニ胞子ノ長短ニ就テ觀察スルニ一病斑內ニ生セシ胞子ニテモ成熟セシモノニテ五〇ミュー位ノモノ七〇ミュー又ハ八〇ミュー位ノモノ及一〇〇ミュー以上ノモノヲ交フルコトアリ又一病斑內ニ生スル胞子ノ多クハ七〇—九〇ミュー位ナル場合ニ一五〇ミュー以上ノ長サヲ有スルモノヲ交フルコトアリテ一定セス又隔膜ノ數モ胞子ノ長短ニ支配セラレテ異ル卽チ此場合ニ於テハ分生胞子ノ長短ヲ以テ分類上ノ條件トナシ難シ

又 Ellis 及 Everhart 兩氏ハ胞子ハ病斑ノ兩面ニ生ストシ Raciborski 氏ハ裏面ニ生ストセリ然レトモ我觀察ニ於テハ前記スル如ク上面ニ多量ニ生スルコトアリ又裏面ニ多ク生スルコトアリ或ハ Raciborski 氏ノ觀察ノ不充分ナラザリシナキカヲ疑フ

以上述フル所ニヨリテ余ハ米國產ト爪哇產トハ等シキ種類ニシテ我菌モ亦等シキモノナリト思考ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病名

和名　煙草白星病

英名　Cercosporose, Leaf spot, Frog eye.

二五八　梨裏煤病菌（第十四圖版、二〇）

Cercospora piricola Sawada.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第三、（臺灣博物學會々報、第十七號）一九一四

病徵　葉ヲ侵シ病斑ハ葉裏ニ現ハレ葉脈ニテ區劃セラレタル多角形ノ小斑點ヲナシ灰色ナリ直徑一—三ミ、メ、アリ、多數生スルトキハ斑々相連リテ全葉ヲ占ムルニ至ル而シテ病斑ハ時日ヲ經ルニ從ヒテ漸次褐色ニ變色スルヲ以テ多角形ニ色ノ濃淡ヲ表ハス、多數ノ病斑ヲ生スル葉ハ落下ヲ早ム

病原菌　擔子梗ハ數本乃至十數本叢生シ短クシテ直又ハ彎曲シ灰色ニシテ隔膜ヲ有セサルモノアリ及一二箇ヲ有スルモノアリ頂端ニ近ク二三ノ分生胞子着生ノ跡ヲ存シ大サ一五—二七×三—四ミューアリ分生胞子ハ灰色ヲ帶ヒ又ハ殆ント無色ナリ線形ニシテ兩端ノ太サノ差著シカラス頂端鈍頭ヲナシ多少彎曲シ三—五箇ノ隔膜ヲ有シ大サ二八—五七×二・五—三・五ミューアリ

寄主植物

梨（Pirus communis 及 Pirus sinensis L.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年一月十五日　藤黑與三郎

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

同　同	明治四十四年九月二日	澤田兼吉
臺中廳太平庄	明治四十四年八月六日	藤黒與三郎
嘉義廳斗六	大正二年四月三十日	澤田兼吉

分布　日本、臺灣

記事

本菌ハ北米合衆國ニテ發見セラレシ Cercospora minima Tracy. et Earl. 菌ニ近似ス然レトモ後者ニアリテハ葉ノ表面ニ生シ限界ナク不規則ナル病斑ヲ生スルモ我菌ニアリテハ葉ノ裏面ニ生シ葉脈ニテ限ラレタル多角形ノ病斑ヲ生スルニヨリテ異ル、又米國種ニアリテハ擔子梗ハ大サ一〇—一五×四ミューアリ胞子ハ無色ニシテ大サ四〇—六〇×二ミューアルモ我菌ニアリテハ擔子梗ハソレヨリ長クシテ大サ一五—二七×三—四ミューアリ又胞子ハ灰色ヲ帶ヒテ長サ二八—五七ミュー幅二・五—三・五ミュー普通三ミューアリテ異ル、

病名

和名　梨裏煤病

二五九・桑淡汚葉病菌

Cercospora pulvinulata Sacc. et Wint.

Saccardo, P. et Winter. - Atti. Ist. Venet. Sci. Lett. et Arti. Ser. 6. III. 728., 1885.
Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. IV. p. 474., 1886.
Lindau, G. - Rabh. Kryptog.-Flora von Deutschl., Oesterr. und der Schweiz. Bd. I. Abt. IX. p. 92., 1910.

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

病徵　葉ヲ侵ス、僅カニ侵サレタル葉ハ上面所々ニ稍々黄緑色トナレル部分ヲ生シ烈シク侵サレタルモノハ全面黄緑色トナル其裏面ヲ見ルトキハ小葉脈ニ分劃セラレタル小部分卽チ多角狀ニ灰色ヲ呈シ微カニ粉末狀ヲナシ直徑普通一—三ミメ、ナレトモ後漸次ニ多數生シテ葉裏全面ヲ被フニ至ル此病斑ハ後赤褐色ヲ呈シ遂ニハ褐色トナリテ早落ス秋季及春季ニ發生ス

病原菌　擔子梗ハ葉裏ニ生シ氣孔ヨリ叢生シ灰色ニシテ一—二箇ノ隔膜ヲ有シ其頂端ニ二三箇ノ分生胞子脱落セル痕跡ヲ印シ大サ一六—三六×三—五ミューアリ

分生胞子ハ頂生シ倒棍棒狀乃至圓柱狀倒棍棒狀ニシテ頂端鈍頭、灰色ヲ帶ヒ三—五箇ノ隔膜ヲ有シ直又ハ稍々彎曲シ大サ二五—五四×三—三・五ミューアリ

寄主植物

桑（在來種）（Morus acidosa）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十三年十一月三十日　澤田兼吉

分布　北米合衆國、瑞西、臺灣

記事

桑ニよごれ葉病ナルモノアリ Cercospora Mori (Syd.) Sawada. (Clasterosporium Mori Syd.) 菌ノ寄生ニヨリテ起ル我菌ニヨリテ起ル病害ハ此よごれ葉病ノ一種ナリ

前者ハ葉裏ニ生スル黴ハ暗黑色ニシテ甚タ著シキ外觀ヲ呈スレトモ我菌ニヨル病害ハ斯ク著シカラス頗ル色淡

ク灰色ヲナス、前者ノ分生胞子ハ我菌ノソレヨリ太クシテ且ツ隔膜數多ク色亦濃シ又我菌ノ擔子柄ハ短クシテ且ツ色淡キニヨリ容易ニ區別シ得ヘシ

二六〇　胡麻葉枯病菌

Cercospora Sesami Zimm.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVIII. p. 595., 1906.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第三、（臺灣博物學會々報、第十七號）一九一四

病名

和名　桑淡汚葉病（クワウスヨゴレハビヤウ）

病徵　葉ヲ侵ス、病斑ハ多クハ葉脈ニ限ラレテ多角狀ヲナシ黃褐色乃至帶褐灰色ニシテ乾燥シテ脆ク葉ニ凹凸ヲ生シ直徑二―一五ミメアリ收穫期ニ近ツクニ從ヒテ蔓延甚シク一葉上ニ數十ノ病斑ヲ生シ葉ハ卷縮シテ早ク落下シ爲メニ收穫ヲ減殺ス

病原菌　擔子梗ハ葉ノ兩面ニ生シ短クシテ數本乃至十數本宛叢生シ淡黃褐色ニシテ隔膜ヲ有セサルモノアリ又一―二箇ヲ有スルモノアリ大サ一二―六二×三―五ミューアリ

分生胞子ハ無色針狀甚タ長クシテ先端ニ向ツテ漸細シ鋭尖ニ終ル基端切斷狀ヲナシ三―一〇箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナス大サ五二―二〇七×二―四ミューアリ

寄主植物

胡麻（Sesamum indicum L.）ノ葉ニ寄生ス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十二年七月八日	澤田兼吉
同　同	明治四十二年七月十七日	藤黒與三郎
同　同	明治四十三年六月二十五日	藤黒與三郎
同　同	明治四十四年八月八日	藤黒與三郎
同　同	大正二年六月二十七日	藤黒與三郎
同　溪州庄	明治四十年七月三十一日	川上瀧彌
同　新店	明治四十一年七月十五日	川上瀧彌
宜蘭廳宜蘭	明治四十一年四月	鈴木力治
同　叭哩沙	明治四十二年七月八日	藤黒與三郎
嘉義廳土庫	明治四十年五月二十八日	鈴木力治
同　庵古坑庄	大正六年六月二十一日	澤田兼吉
臺東廳卑南社	明治四十四年五月二十日	澤田兼吉
同　知本社	明治四十四年五月十九日	澤田兼吉

分布　東部亞弗利加、朝鮮、臺灣

記事

本菌ハ西暦一九〇四年 Zimmermann 氏カ東部亞弗利加ニテ發見命名シタルモノニシテ氏ノ記スル所ヲ見ルニ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

病斑帶黃白色ニシテ周緣黑色大サ一—二ミ、メアリトスルモ本島ニ於テモ稍々之レニ似タル病斑卽チ周圍暗褐色又ハ紫褐色ニシテ中央灰色又ハ淡黃褐色ヲナスモノアリ之恐ラクハ病斑形成後永ク乾燥時期ニ入リシ為メナラサルカ病斑ノ大サモ栽培セラレシ場所ニヨリ又天候ノ乾濕ニヨリ又植物ノ老若ニヨリテ異ルモノナリ、擔子梗及胞子ハ總テ兩者互ニ符合ス

病名

和名 胡麻葉枯病

二六一 茶樹圓赤星病菌

Cercospora Theae Breda de Haan.

Breda de Haan, von. - Bull. de L'Instit. Bot. de Buitenzorg. Vol. VI. p. 12.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVIII. p. 598., 1906.

Speschnew, N. N. von. - Die Pilzparasit. des Teestrauches. 1907.

Delacroix, G. et A. Maublanc. - Malad. des Plantes Cultiv. dans les Pays Chauds. p. 429., 1911.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場、特別報告、第十一號、p. 126., 1915.

Hara, K. - 茶樹ノ新病害、(農業世界、第十三卷、第十號) 1918.

病徵及病原菌 葉ヲ侵ス病斑ハ圓狀ニシテ小形直徑〇・八—三・五ミ、メ、アリ褐色ニシテ乾燥凹陷シ周圍ニハ普通暗褐色ノ隆起線ヲ以テ繞ラシ中央ニ近ク數多ノ灰白色乃至暗灰色ニ見ユル小點ヲ生ス此小點ハ擔子梗ノ叢生セルモノナリ

擔子梗ハ十數本叢生シ灰色單條ニシテ隔膜ヲ缺キ頂ニ近ク數箇ノ胞子ノ着生跡所ヲ示シ大サ一二—三〇×三—四ミューアリ

分生胞子ハ頂生シ絲狀ニシテ先端ニ向ツテ漸細シ多少彎曲シ無色乃至灰色ヲ帶ヒ光線ヲ屈折シ四—六箇ノ隔膜ヲ有シ稍々不明瞭ニ見ユ大サ四二—一〇六×二・五—三・五ミューアリ

寄主植物

茶樹（Thea chinensis Sims.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

新竹廳拐仔湖　明治四十三年四月三十日　藤黑與三郎

同　三重埔　明治四十三年五月六日　藤黑與三郎

分布　爪哇、印度、錫蘭、日本、臺灣

記事

Breda de Haan 氏ニヨレハ分生胞子ハ大サ一〇〇—一四〇×二・五—三ミューアリテ臺灣種ヨリモ長シ Cercospora 屬ノ種類ノ分生胞子ノ長短ハ其存在セシ場所ノ事情ニヨリテ異ルコト多ク或種類ノ胞子ノ長サハ數倍以上ニ達スルモノヲ生スルコトアリ本菌モ胞子ノ長短ニ著シキ差アルモノノ一ニシテ他ノ點ニ於テ相符合スルヲ以テ我菌ハ爪哇ノ種類ト同一ナルモノト認メタリ

病名

和名　茶樹圓赤星病

農業部農業試驗所
TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE
1895

英名 Shot Hole Fungus of Tea Plant.

束絲菌科 (Fam. Stilbaceae.)

白束絲菌亞科 (Subfam. Hyalostilbae.)

單胞白束絲菌列 (Genus-group Amerosporae.)

ギベルラ屬 (Genus Gibellula.)

二六二　蛹白珊瑚病菌（第十三圖版、一七―二〇）

Gibellula formosana Sawada.

Sawada, K.- 植物學雜誌、第二十八卷、第三百三十一號、一九一四

病原菌　蛾ノ一種ノ蛹ニ寄生ス、蛹ノ皮上ノ全面ニ菌絲ヨリ成レル淡黃色ノ平滑ナル被膜ヲ生ス、菌絲ハ直徑三―三・五ミューアリ隔膜ヲ有シ無色ニシテ分枝ス、其被膜上ヨリ數多(三―五〇箇)ノ子實體ヲ生ス、子實體ハ直立シ高サ五―一五ミ、メ、アリ軸ハ扁平ニシテ淡黃色〇・二―一ミ、メ、ノ幅アリ、直徑三ミューアル無數ノ菌絲ノ緊束ニヨリテ組成セラル、其中位又ハ下位ヨリ數回兩叉分岐シソレヨリ多クノ單條菌絲ヲ總狀ニ斜出シ其先端又ハ數段ニ球狀ヲナセル胞子塊(直徑二〇―三〇ミュー)ヲ生ス、其處ニハ菌絲上ニ輪生セル疣狀突起アリテ更ニ其上ニ密生セル無數ノ小梗アリ小梗ハ紡錘狀卵狀ニシテ基部ニ細柄ヲ有シ先端鋭頭大サ四―六×三ミューアリ分生胞子ハ小梗上ニ頂生シ一端肥厚セル鎌狀ニシテ彎曲シ頂端圓頭基端稍々鈍頭ヲナシ無色、單胞、平滑大サ三・五―四×一・五―二ミューアリ

寄主

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

地上ニ於テ蛾類ノ一種ノ蛹(Pupa)ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄	明治四十一年十二月十五日	澤田兼吉
同　同	明治四十三年三月四日	藤黒與三郎
同　同	大正二年十一月二十三日	澤田兼吉 藤黒與三郎
同　同	大正三年十一月二十五日	澤田兼吉

分布　臺灣

記事

本菌ハブラジル産 Gibellula eximia Höhnel. 菌ニ最モ近シ然ルニ後者ノ子實體ハ大形ニシテ我菌ノ遠ク及ハサル所ニシテ又後者ノ色ハ Ochraceous Yellow ニシテ我菌ノ淡黄色ナルト異ナリ、又後者ノ子實體ノ分岐ハ單條又ハ一回兩叉分岐スルモ我菌ニアリテハ多數分岐セリ又 G. eximia ノ胞子塊ハ菌糸ノ頂端ニ一箇頭狀ニ形成セラル、モ我菌ニアリテ普通數段ニ形成セラレ又 G. eximia ノ分生胞子ハ我菌ノソレヨリ稍ゝ小形ナリ

病名

和名　蛹白珊瑚病

塊絲菌科 (Fam. Tuberculariaceae.)

白塊糸菌亞科 (Subfam. Mucedineae.)

單胞白塊絲菌列 (Genus-group Amerosporae)

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

エーゲリタ屬（Genus Aegerita.）

二六三　白蟻園菌（第十四圖版、二七—二九）

Aegerita Duthei Berk.

Berkeley, M. J. - Fungi of Ants' Nests. (Gardener's Chronicle. Vol. XVII. p. 401.) 1882.

Petch, T. - Termite Fungi. (Ann. of Roy. Bot. Gard., Peradenya. Vol. V. p. 319.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十七、（臺灣博物學會々報、第三十九號、p. 173.）1919.

記事

白蟻ノ居住スル巣ノ床上ニ白色小形ノ胞子塊ヲ無數ニ生ス其直徑約一ミ、メ、アリテ殆ント無柄ナリ其内部ハ無色ニシテ隔膜アル菌絲（直徑三・五—五ミュー）ヨリ成リ其菌絲ハ球塊ノ表面ニ近ツクニ従ヒテ節間膨大シテ紡錘形トナリ猶ソレヨリ卵狀乃至球形ヲナス、此球狀ノモノハ無色透明、薄膜平滑ニシテ大サ一八—五四×一九—三六ミューアリ普通二叉又ハ三叉ニ分岐シテ生ス其縊ヲナス部分卽チ節ヨリ又ハ球狀物ノ頂端ヨリ胞子ヲ形成ス

胞子ハ無色、單胞、平滑、薄膜、短圓柱狀ニシテ圓頭、微細ナル顆粒體ヲ充シ大サ一二—二〇×四・五—六ミューアリ二叉又三叉又ハ單條ニ連鎖狀ニ形成セラレ成熟セルモノヨリ脫離分散ス而シテ一旦此胞子ヲ形成セラレタル枝ヨリハ再ヒ球狀ヲナセル菌絲ヲ生スルコトナシ

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　明治四十四年十一月十九日　澤田兼吉

同　上ニ同　大正二年四月七日　澤田兼吉

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

分布　印度、錫蘭、馬來、爪哇、ボルネオ、臺灣

記事

一、本菌ハ白蟻ノ居住スル巣ノ內部床上ニ殆ント全面ニ生シ恰モ或蟲ノ卵カト疑ハル白蟻ハ之レヲ食ス例ヘハ其巣內ニ生活スル白蟻ヲ取リテ其消化器官ヲ顯微鏡ニテ檢スレハ本菌ノ胞子ノ無數ニ其內ニ容レルヲ見ルヘシ故ニ昔ヨリ白蟻ハ或菌ヲ栽培シテ之レヲ食料ニ供ストイヘリ

二、本菌ハ西曆一八八二年 Berkeley 氏ハ印度ヨリ得テ始メテ發表セルモノニシテ其材料ハ Saharunpore ヨリ Duthie 博士ニヨリテ採集セラレタルモノニ係ル

三、Petch 氏ノ記事ニ據ルニ球狀物ハ直徑二〇ミュー胞子ハ大サ八—一〇×五ミューアリトシ又 Jumelle 及 Perrier de la Bathie 氏ニヨレハ球狀物ハ直徑一八—二〇ミュー胞子ノ大サハ一二×六ミューアリトセリ、而シテ我菌ノ球狀物ハ普通一八—三〇ミューノ直徑アリ又胞子ハ普通一二—一六×五—六ミューアリテ殆ント相符合ス

和名　白蟻園菌

塊絲菌屬 (Genus Tubercularia)

二六四　ぬるで葉枯病菌

Tubercularia phyllophila Syd.

Sydow, H. et P. - Beitr. zur Kenntn. der Parasit. Pilze der Insel Formosa. (Ann. Myc. Vol. XII. no. 2. p. 112.) 1914.

寄主植物

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ぬるで (Rhus semialata Murr.) ノ葉

臺灣ニ於ケル分布

南投廳土城區　明治四十年十月二十七日　鈴木力治

病名

和名　ぬるで葉枯病

多胞白塊絲菌列 (Genus-group Phragmosporae.)

紅蟲生菌屬 (Genus Microcera.)

二六五　介殼蟲桃色蟲生菌

Microcera Fujikuroi Miyabe. et Saw.

Miyabe, K. and K. Sawada. - On Fungi Parasitic on Scale Insects found in Formosa. (Journ. of Coll. of Agric., Tohoku Imp. Univ., Sapporo. Vol. V. Pt. 3. p. 83.) 1913.

Sawada, K. - 臺灣總督府農事試驗場、特別報告、第九號、p. 134., 1914.

Hara, K. - 果樹病害論、附錄、p. 19., 1916.

病原菌　子座ハ初メ介殼蟲甲殼ノ周圍ニ狹ク現ハレ漸次其量ヲ增シ甲殼ノ約半ヲ被覆スルニ至ルコトアリ、石竹色乃至肉色ニシテ〇・七—一ミ、メ、ノ幅ニ擴カル又之レヲ殆ント有セサルコトアリ

擔子體ハ子座ノ上ニ數個側方ニ斜出ス大抵圓錐形ニシテ先端大抵鋭頭ナリ石竹色乃至肉色ニシテ外側ニ帶白色ノ毛鞘ヲ有ス、大サ〇・五—〇・八×〇・四—〇・五ミ、メ、アリテ無數ノ擔子梗ノ緊束ニヨリテ組成セラル擔子梗ハ甚タ

長クシテ絲狀直徑三ミユーアリ疎ニ隔膜ヲ有シ又相隣接セルモノハ互ニ短カキ横線ニヨリテ結付ケラル

分生胞子ハ頂生、長キ紡錘形ニシテ著シク彎曲シ無色乃至極淡紅色五—九箇ノ隔膜ヲ有シ大サ六七—一三八×三・五—五ミユーアリ

寄主

柑橘類（Citrus）及枳殼ノ葉枝上ニ寄生スル

まるかひがらむし（Aspidiotus ficus Comst.）

ひめくろかひがらむし（Parlatoria Zizyphus Lucas.）

ながかひがらむし（Lepidosaphes Gloverii Pack.）ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳	加蚋庄	明治四十二年九月十四日	澤田兼吉
同	古亭庄	明治四十一年二月二十九日	藤黑與三郎
同	頂內埔庄	大正二年一月三十日	藤黑與三郎
同	ウライ社	大正四年四月四日	澤田兼吉
同	木柵	大正五年四月二十五日	藤黑與三郎
同	內湖庄	大正五年四月二十五日	藤黑與三郎
同	觀音坑庄	大正六年五月三十日	澤田兼吉
宜蘭廳	宜蘭	大正三年二月	川上瀧彌

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

宜蘭廳枕頭山	大正二年五月二十三日	澤田兼吉
同　二結庄	大正二年五月二十三日	澤田兼吉
新竹廳新埔	明治四十三年五月六日	藤黒與三郎
同　同	大正四年二月十八日	澤田兼吉
同　大茅埔	大正二年三月二十日	澤田兼吉
同　北埔	明治四十三年五月四日	藤黒與三郎
同　三叉河	大正二年三月二十日	澤田兼吉
臺中廳員林	大正三年二月十日	澤田兼吉
同　同	大正四年二月十六日	澤田兼吉
阿緱廳新北勢	大正二年五月四日	澤田兼吉
同　內埔庄	明治四十二年十一月七日	澤田兼吉
同　五甲	明治三十七年十月三十一日	川上瀧彌
同　仙草埔	明治三十七年十月三十一日	川上瀧彌

分布　臺灣

記事

一、本菌ハ Sphaerostilbe coccophila Tul. 菌ノ分生胞子時代ナル Microcera coccophila Desm. 菌トハ擔子體全ク異ナリ又分生胞子モ細長ナリ

二、Parkin 氏ハ錫蘭産ノ Microcera 菌ヲ記セシ内 forma (b.) ハ本菌ニ甚タ近似セルモ其同否ハ確メ難シ

和名 介殼蟲桃色蟲生菌

ヒメノプシス屬 (Genus Hymenopsis.)

二六六 くわくわつがゆ腫葉病菌

Hymenopsis Cudraniae Mass.

Massee, G. - Bull. Miscell. Inform., Roy. Bot. Gard., Kew. p. 167., 1899.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVI. p. 1105., 1902.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第一、(臺灣博物學會々報、第十五號、) 1914.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ葉ノ一部又ハ全葉ニ擴カリ甚シク肥厚シ厚サ約二ミ、メ、ニ達シ淡綠色ヲ帶ヒテ卷縮スルコトナク平盤ノ如クニシテ葉ノ中肋ハ健葉ニアリテハ隆起スルモ病患部ニアリテハ著シク凹陷セリ、而シテ健葉又ハ一葉上ノ健全ナル部分ハ枯死スルモ病患部ハ永ク生活シテ原形ヲ保ツ之レヲ切斷スレハ內部白色ニシテ其組織細胞內ニハ澱粉ノ如ク光線ヲ屈折セシムル無色ナル物質ヲ含ムモ澱粉ニ非ラスシテ他ノ物質ナリ

病斑ノ上面又ハ裏面ニ漆黑色ニシテ光澤アル直徑一―五ミ、メ、ノ圓狀ナル斑點ヲ生シ漸次隆起シ且漸次ニ其數ヲ增ス此黑斑ハ其緣邊剝離シアルモノアリテ之レヲ容易ニ剝取スルヲ得ヘク黑紙ノ如シ剝離後更ニ其下層ヨリ再ヒ黑斑ヲ形成ス

病原菌 胞子層ハ葉ノ表裏ニ生シ漆黑色ニシテ圓狀ヲナシ直徑一―五ミ、メ、アリ寄主表皮細胞ノ外面ニ密着シテ生シ密ニ並列セル擔子梗ヨリ成リテ其處ニ無色ノ胞子ヲ形成シ其外面ニ黑色ノ被薄ヲ以テ被ヘリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

擔子梗ノ基部ハ黑色ヲ帶ヒ先端ニ向ツテ無色トナリ密ニ並列シ二、三箇ノ隔膜ヲ有シ頂端鈍頭ヲナシ大サ二〇―二二×二―三ミユーアリ其頂ニ胞子ヲ單生ス胞子ハ單胞、無色、楕圓狀、平滑ニシテ普通二箇ノ顆粒體ヲ含ミ大サ三―三・五×二―三ミユーアリ

寄主植物

くわくわつがゆ（Cudrania javanensis Trecul.）ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳淡水　明治四十一年二月十四日　鈴木力治

同　大屯山　大正二年十二月七日　島田彌市

分布　印度、臺灣

病名

和名　くわくわつがゆ腫葉病

黑塊絲菌亞科（Subfam. Dematiae.）

多胞黑塊絲菌列（Genus-group Phragmosporae.）

外子菌屬（Genus Exosporium.）

二六七　なつめやし眼點病菌

Exosporium Palmivorum Sacc.

Saccardo, P. - Missouri Bot. Gard. IX Ann. Rept. p. 159., 1898.

Saccardo, P. - Syll. Fung. Vol. XVI. p. 1106., 1902.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第十二、(臺灣博物學會々報、第二十九號) 1917.

病徵 葉ヲ侵シ病斑ハ一葉上ニ無數ニ生シ初メ圓形水濕的ニシテ稍々膨レ漸次中央乾燥凹陷シ直徑〇・七—一・〇ミメアリ後漸次橢圓形褐色トナリ長サ五—七ミメ幅二—三ミメアリ其上面ニ煤色ノ黴ヲ生シ之レカ爲メニ葉ハ枯死スルニ至ル

病原菌 胞子層ハ群生シ饅頭狀ヲナシ暗褐色直徑三〇—八〇ミューアリ數十以上ノ胞子ヲ叢生ス胞子ハ殆ント無柄ニ生シ長棍棒狀圓柱狀ニシテ直又ハ稍々彎曲シ頂端圓頭、黃褐色乃至帶暗黃褐色ニシテ一〇—一三箇ノ隔膜ヲ有シ隔膜ニ於テ縊レヲナサス粗面ニシテ各細胞ニ大ナル油球ヲ含ミ大サ一〇〇—一一六×八ミューアリ古キ胞子層ニハ胞子ノ脫落セル跡トシテ突起ヲ一面ニ殘存ス其突起卽チ擔子梗ハ長サ六—一五ミュー直徑四—六ミューアリテ其頂ニ胞子ヲ單生ス

寄主植物

なつめやし (Phoenix dactylifera L.) ノ葉ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

阿緱廳港西中里崇蘭庄　　大正五年十一月

分布 北米合衆國、臺灣

記事

Exosporium Palmivorum Sacc. 菌ハ北米合衆國ニ於テ Phoenix canariensis, Ph. tenuis 及 Ph. reclinata ノ葉ニ發見セラレシモノナリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

胞子層及擔子梗ハ我菌ニ一致スレトモ胞子ハ我菌ニ於テ稍々長ク且ツ隔膜ノ數モ亦稍々多シ

病名

和名　なつめやし眼點病菌

群胞黑塊絲菌列 (Genus-group Dityosporae.)

煤黑穗菌屬 (Genus Cerebella.)

二六八　むらさきめひじは煤黑穗病菌（第十四圖版、二一—二六）

Cerebella Panici-violascentis Saw.

Sawada, K. - 臺灣菌類資料、第二、（臺灣博物學會々報、第十六號）一九一四

病徵及病原菌　子房ヲ侵ス穗中ニ暗色ノ塊カ交リテ生ス而シテ一穗上數箇乃至十數箇ヲ侵スコト普通ニシテ圓狀至乃卵狀ニシテ扁球狀饅頭狀ヲナシ帶橄欖暗色ニシテ表面ニ顯著ナル不規則ノ疲ヲ有シ直徑一・五—二・五ミ、メ、アリ一見 Ustilaginoidea 屬ノ種類ノ如シ初メ穎內ニ菌絲繁殖シ漸次外面ニ現ハレ全ク穎ヲ被ヒテ遂ニハ其表面ニ褶ヲ作ルニ至ルモノニシテ之レカ斷面ヲ作リテ顯微鏡下ニ窺フ時ハ暗色ノ塊卽チ子座內ニ穎ノ存在ヲ認ム、子座ノ內部ハ疎又ハ稍々密ナル菌絲ヨリ成リ菌絲ハ隔膜ヲ有シ分枝シ無色又ハ淡色ニシテ集合セル場合ハ稍々帶黃褐色ニ見エ直徑四—八ミューアリ

子座ノ表面ハ胞子層ヲナシ其處ハ稍々柔組織狀ノ薄層ヲナシ殆ント無柄ニ密ニ相竝ヒテ胞子ヲ一面ニ形成ス、胞子ハ帶暗淡褐色ニシテ普通三—六箇ノ細胞ノ不規則ナル結合ニヨリテ成リ從ツテ形不定ナリ平滑大サ一二—三〇×八—一七ミューアリ一箇ノ細胞ハ八—一一×六—八ミューアリ

寄主植物

むらさきめひじは（Panicum violascens Kunth.）ノ子房ニ寄生ス

臺灣ニ於ケル分布

臺北廳頂內埔庄　大正三年六月十二日　澤田兼吉

分布　臺灣

記事

Cerebella屬ハ西曆一八五一年ノ創設ニ係リ今日七種發見セラル本菌ハCerebella Panici Tracy. et Earle. 菌ニ近似ス然レトモ後者ノ胞子ハ一〇—一二×八—一〇ミユーニシテ我菌ノ一二—三〇×八—一七ミユーアルニ遠ク及ハス又C. Panici ノ胞子ノ一細胞ハ大サ八×六ミユーナルモ我菌ニアリテハ八—一一×六—八ミユーアリテ大形ナリ又C. Panici ノ胞子膜ハ平滑又ハ粗面ナリト記スルモ我菌ニアリテハ決シテ粗面ヲナスモノナシ

病名

和名　むらさきめひじは煤黑穗病

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895